

# 財政白書

平成18年度版

平成18年10月

成田市

**財 政 白 書**

発 行 成 田 市

編 集 総 務 部 財 政 課

〒286-8585

成 田 市 花 崎 町 760 番 地 TEL22-1111

発 行 日 2 0 0 6 ・ 1 0

登 録 番 号 成 財 — 0 6 — 0 3 9

## はじめに

日本経済は、平成 18 年度には、企業部門の好調さが家計部門へ波及しており、原油価格の動向が内外経済に与える影響等に留意する必要があるものの、国内民間需要に支えられた景気回復が続くと見込まれ、平成 19 年度においては、自律的・持続的な経済成長が実現すると考えられます。

一方、地方では、「三位一体の改革」で国から地方へ 3 兆円の税源委譲を実現し、自主的な財源が拡大するなど一定の成果は上がったものの、国庫補助負担金や地方交付税の削減が行われ、地方財政は引き続き厳しい状況にあります。

本市においては、空港関連税収等の安定した収入に支えられ健全な財政運営を維持しておりますが、成田新高速鉄道関連事業、新清掃工場及び附帯施設建設事業、J R 成田駅前再開発事業等の大規模事業の推進や、少子高齢化対策、成田空港関連事業、公共施設の老朽化対策などの課題が山積しております。

このような状況下では、市民の主体的参加による身近で活力あるまちづくりに向けて、市民の皆様の理解を得ながら、納得していただける行財政運営が必要不可欠であると考えております。

この「財政白書」では、平成 18 年度予算や 17 年度決算（見込）を中心に、各種財政指標による分析や類似団体等との比較、更に、企業会計手法に基づくバランスシートや行政コスト計算書の作成により、市財政の状況をできるだけわかりやすく解説し、財政情報を身近なものとしていただけるようにとりまとめました。

市民の皆様には、本市の財政について一層のご理解と、ご協力をいただけますようお願いいたします。

成田市長 小林 攻

# 第1章 成田市の概況

## 第1節 成田市の概況

### 1) 沿革

市内三里塚遺跡から発見された先土器時代の楕円形石器は、約3万年以前に使われたもので、房総最古の石器であり、成田の黎明期を飾る貴重な遺物として注目されています。また、根木名川周辺台地及び北印旛沼東岸台地には、200基を超す古墳が群在し、ある時代には古代印波国の中心地であったことを物語っています。

天慶年間、常総の地を揺るがした平将門の乱を鎮めるため、寛朝大僧正によって成田山明王院神護新勝寺が創建され、成田は法灯絶ゆることのない霊地となりました。中世の成田は、下総千葉氏及びその係累の支配下に入り、徳川政権下では佐倉藩、田安家、幕府領、旗本領が入り組んだ中にありました。

明治4年の廃藩置県では佐倉県に入り、同年に印旛県に、同6年には千葉県在所管となり、その後、昭和29年3月31日、町村合併促進法によって、成田町、公津村、八生村、中郷村、久住村、豊住村、遠山村の1町6か村が合併して成田市が誕生しました。

昭和41年7月4日、成田国際空港(平成16年より新東京国際空港から改称)の設置が決まり、幾多の紆余曲折を経て、昭和53年5月20日に開港しました。更に、平成14年には暫定平行滑走路が供用開始され、現在では日本を含む39カ国2地域68社の航空機が乗り入れ、平成17年度は発着回数187,888回(1日平均515回)、航空旅客数は年間3,144万人となり、名実ともに日本の空の表玄関となっています。

平成16年度に市制50年を迎えた本市は、平成18年3月27日、下総町、大栄町との合併により新「成田市」としてのスタートを切りました。

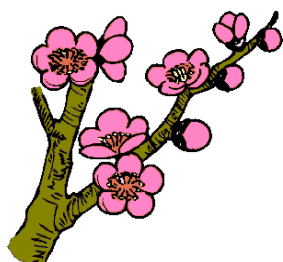
市制施行当時45,075人だった人口も120,534人(H18.4.1)となり、かつての田園観光都市から、信仰のまちとしての顔と、交通、経済、文化の様々な分野で国際交流の拠点として、国際交流都市の顔をもつまちへと大きく変貌しています。



#### 市章

成田の頭文字「N」を人の姿に重ね合わせたイメージをデザインし、四肢の伸びは躍動感と疾走感、中央の赤は成田市民の熱い情熱、また、「NARITA」は日本と世界との交流拠点としての国際空港都市を表し、成田市の明るい未来への飛躍と更なる繁栄への願いが込められています。

(平成18年4月29日制定)



#### 市の木 梅

千葉国体の記念事業の一環として成田市の木に“梅”が選定されました。また、昭和48年より結婚を記念して市民課窓口で苗木をプレゼントしています。

(昭和46年4月指定)

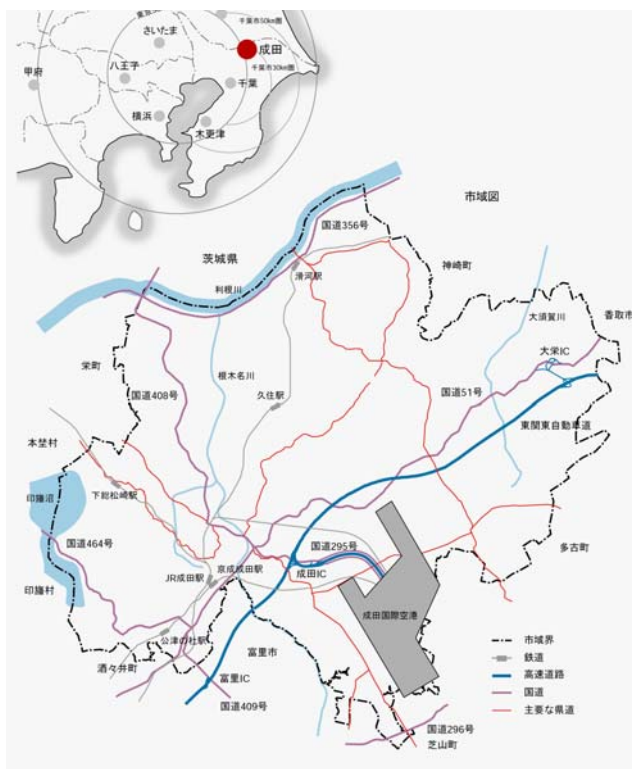
## 2) 土地

### ・ 位置及び面積

本市は、千葉県の北部中央の北総台地に位置し、北は利根川を境に茨城県河内町、西は栄町・印旛沼を境に印旛村、本埜村、南は酒々井町、富里市、芝山町、東は香取市、多古町、神崎町に接しています。

市域面積は、213.84k m<sup>2</sup>で県土の約 4.1%を占め、東西 20.1 km、南北 19.9 kmに及んでいます。

第 1 図 成田市の位置



### ・ 土地利用

第 1 表 土地利用

(各年 1 月 1 日現在、単位:千 m<sup>2</sup>)

地 目	平成 13 年	平成 14 年	平成 15 年	平成 16 年	平成 17 年
宅地	15,749	15,856	15,978	15,988	23,093 (10.8%)
田	27,302	27,216	27,146	27,149	44,209 (20.7%)
畑	14,998	14,929	14,845	14,802	35,596 (16.6%)
山林	21,405	21,346	21,262	21,267	41,500 (19.4%)
原野	3,713	3,697	3,680	3,691	5,615 (2.6%)
池沼	483	484	489	488	588 (0.3%)
牧場	76	76	76	76	386 (0.2%)
雑種地	37,534	37,966	38,213	38,752	49,606 (23.2%)
その他	10,010	9,700	9,581	9,237	13,247 (6.2%)
総数	131,270	131,270	131,270	131,270	213,840 (100.0%)

( ) 内は構成比。平成 17 年は合併前の旧下総町・大栄町を含む。

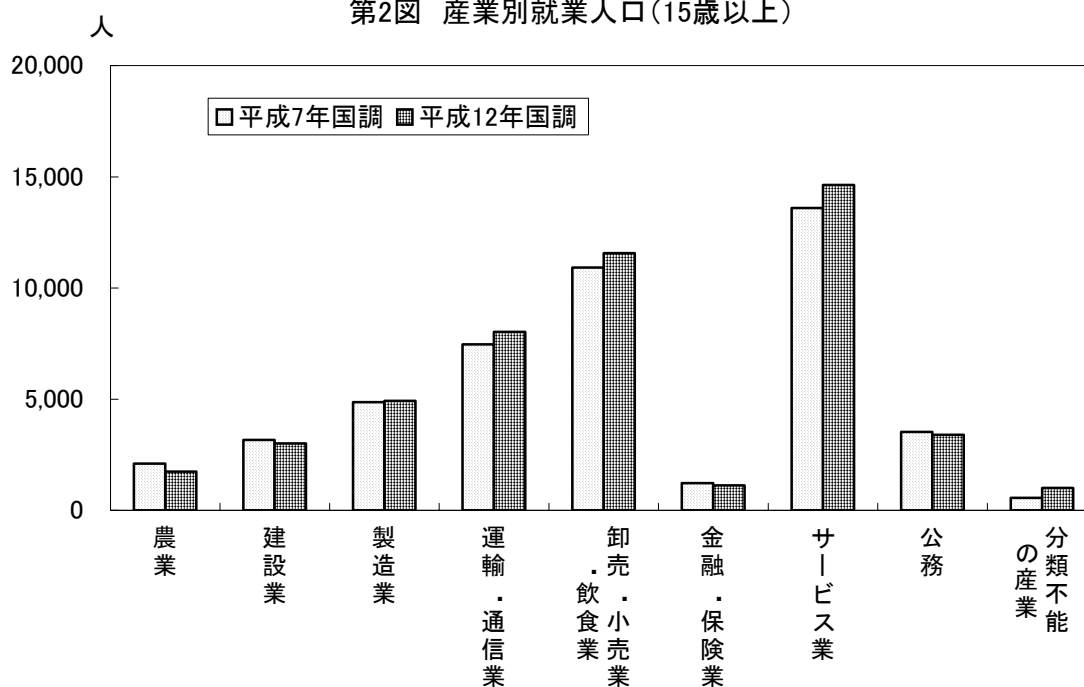
### 3) 人口

#### ・産業別人口

第2表 産業別人口（15歳以上）

		平成7年国勢調査		平成12年国勢調査	
		総数 人	構成比 %	総数 人	構成比 %
第1次	農業	2,094	4.35	1,734	3.46
	林業	3	0.01	2	0.00
	漁業	7	0.01	10	0.02
	計	2,104	4.37	1,746	3.48
第2次	鉱業	13	0.03	21	0.04
	建設業	3,163	6.57	3,013	6.00
	製造業	4,859	10.10	4,921	9.81
	計	8,035	16.70	7,955	15.85
第3次	電気・ガス・熱供給・水道業	261	0.54	272	0.54
	運輸・通信業	7,463	15.51	8,029	15.99
	卸売・小売業・飲食業	10,917	22.69	11,567	23.04
	金融・保険業	1,224	2.55	1,128	2.25
	不動産業	434	0.90	463	0.92
	サービス業	13,601	28.27	14,639	29.17
	公務	3,523	7.32	3,394	6.76
	計	37,423	77.78	39,492	78.67
分類不能の産業		555	1.15	1,005	2.00
総数		48,117	100.00	50,198	100.00

第2図 産業別就業人口（15歳以上）



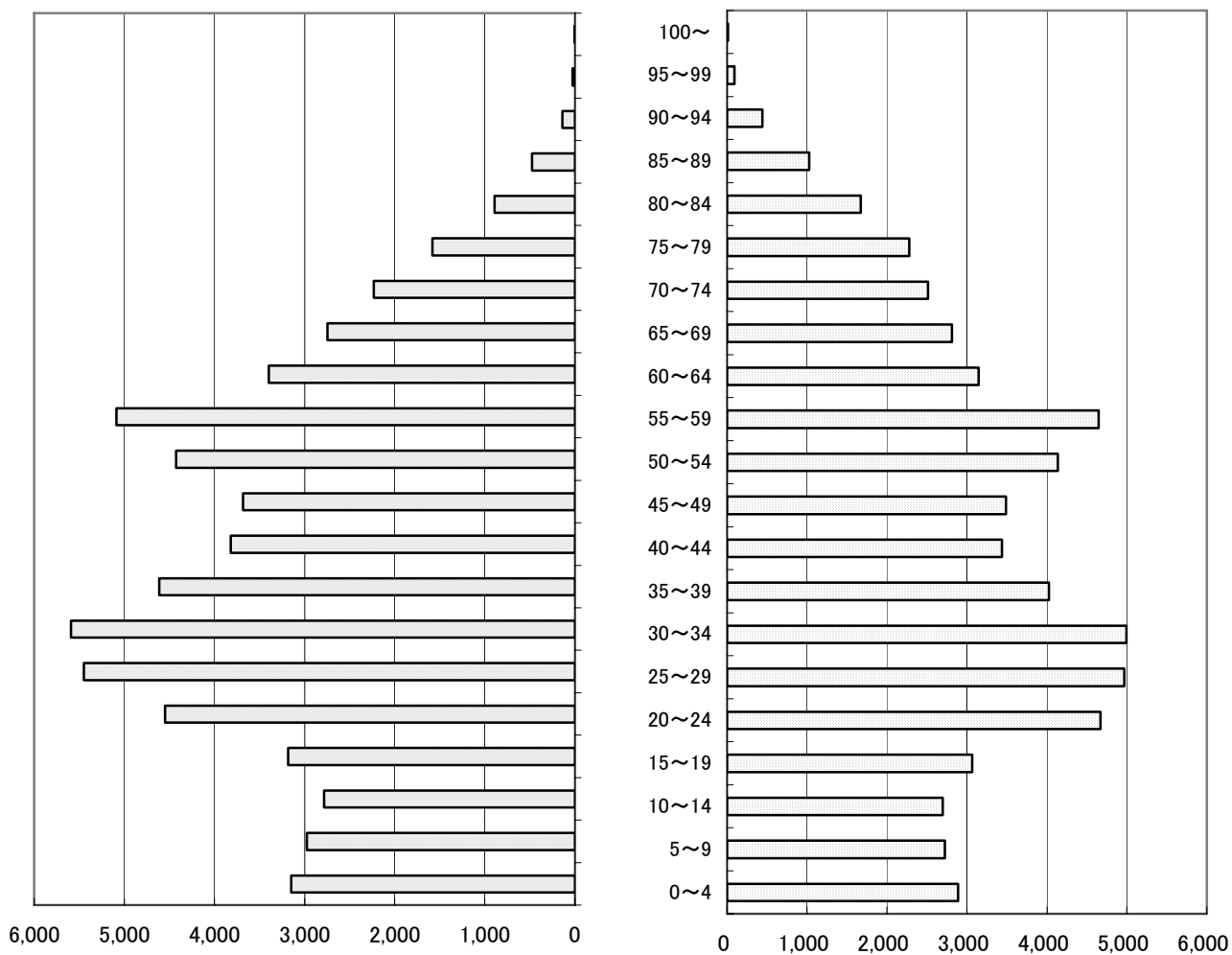
・男女別人口

第3図 男女別人口

男

女

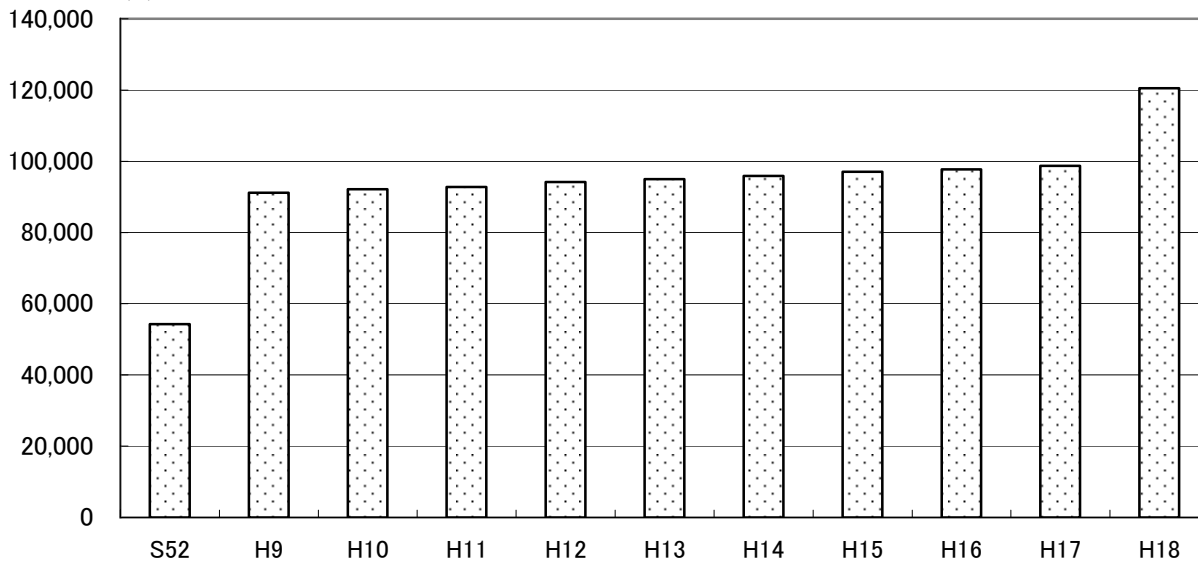
(H18. 4. 1 現在)



・人口推移

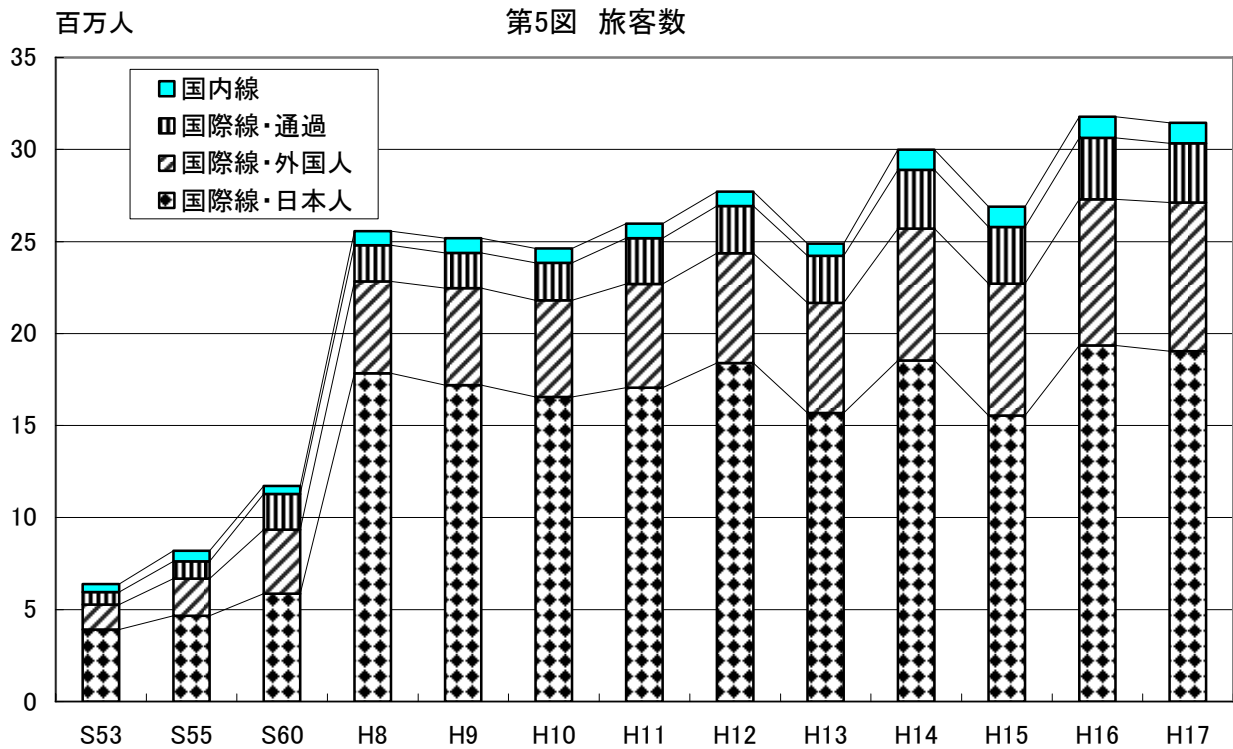
第4図 人口推移

人

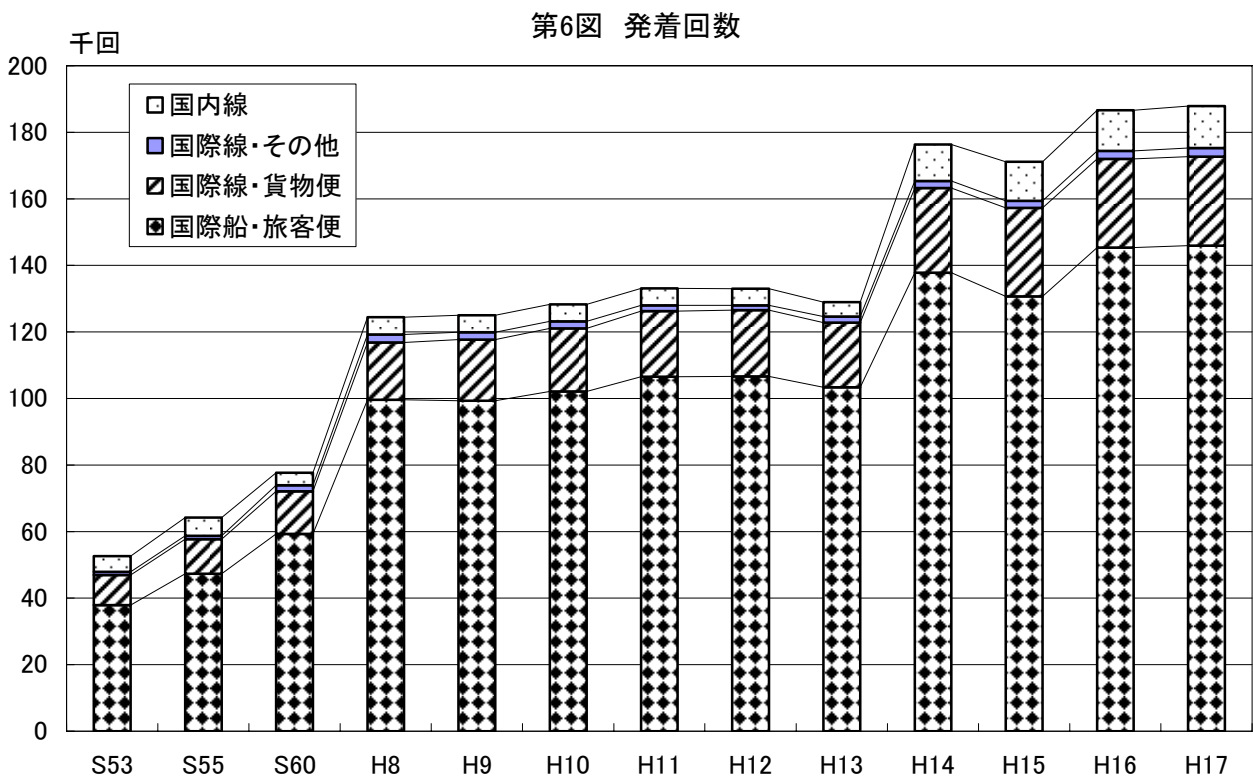


#### 4) 成田空港の利用状況

##### ・旅客数



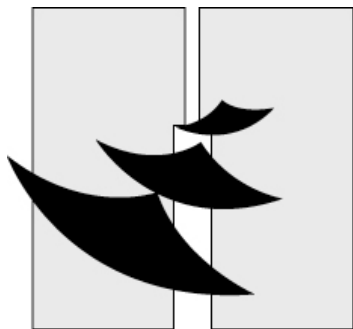
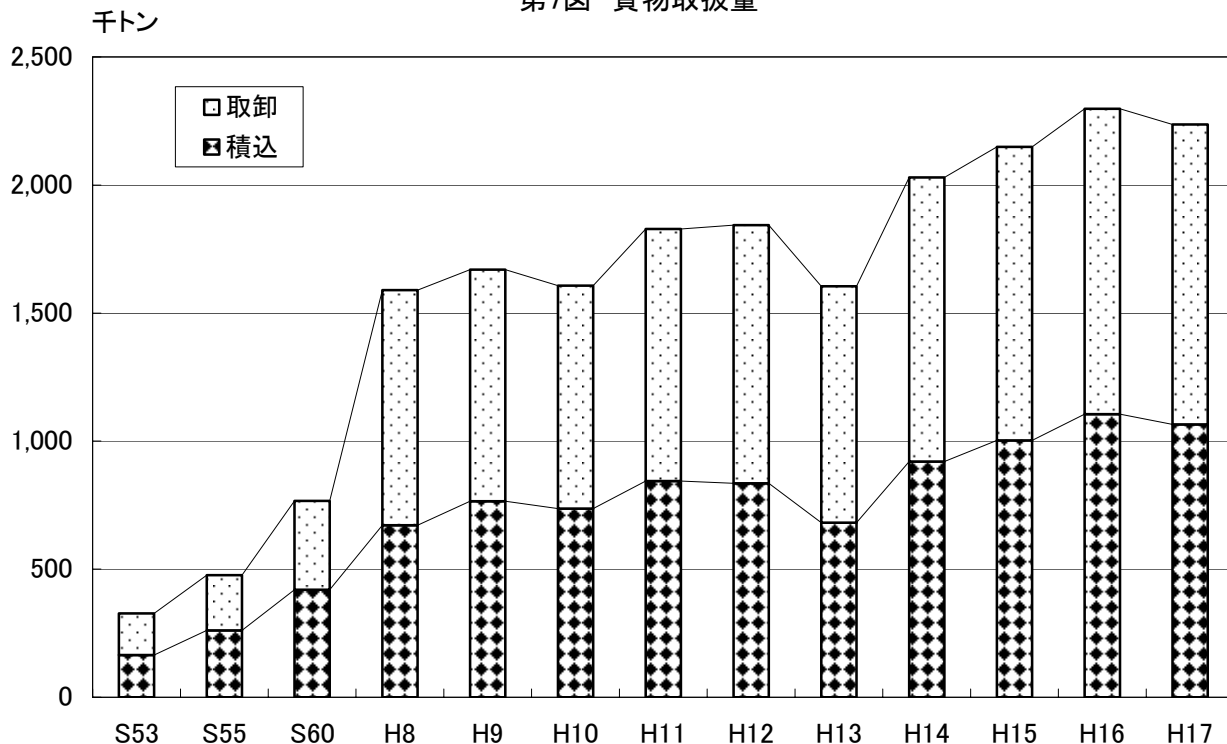
##### ・発着回数





・ 貨物取扱量

第7図 貨物取扱量

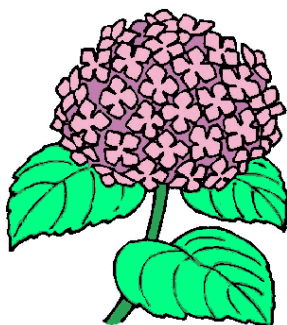


シンボルマーク

市制 40 周年を記念してシンボルマークを制定しました。

歴史的な門前町の門の字と成田の頭文字 n を背景にして、本市の基本理念“自然、健康、愛情”あふれる未来の姿と成田空港へさまざまな国から飛来するイメージを三つの翼で表し、門前町の“静”と空港都市の“動”を象徴化したものです。

(平成 6 年 4 月 1 日制定)



市の花 あじさい

市制 40 周年を記念して、誰もが親しみやすく栽培しやすい成田市のシンボルとなる花に“あじさい”が選定されました。

(平成 6 年 4 月 1 日指定)

## 第2章 平成18年度当初予算

### 合併と一般会計当初予算

平成18年度一般会計当初予算は平成18年3月27日に下総町・大栄町と合併することから、当初予算として495億円の予算編成を行いました。

そして合併後18年4月に13億円の補正予算を追加しました。

この「財政白書」では、平成18年度に関し、以降特別の記述のない限り4月補正後の現計予算（508億円）を「当初予算」として記述します。

### 第1節 当初予算概要

#### 1) 予算編成方針

我が国の経済は、全体的には厳しい環境下にあるが、雇用・所得環境の改善によって、企業部門の回復は徐々に家計部門に波及しつつあり、こうしたなか平成17年度においても、物価は穏やかなデフレが継続しているものの、民間需要中心に景気は緩やかに回復を続け、実質GDP成長率は1.6%の伸びが見込まれている。一方、地方財政は、地方税収入の低迷、累次の景気対策の実施等により大幅な財源不足が続き、平成17年度末の借入金残高が約205兆円にも上ると見込まれるなど依然として厳しい状況が続いている。

政府においては、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2005」で平成18年度までの2年間を重点強化期間と位置づけ、「国から地方への改革」、「予算制度改革」、「国・地方の徹底した行政改革」、「公務員の総人件費改革」などを重要課題としており、「平成18年度予算編成の基本的な考え方」においても「改革の総仕上げ」のために、国・地方が歩調を合わせた歳出改革路線の堅持・強化を掲げており、「三位一体の改革」の実現に向けて地方歳出の徹底した見直しを示している。また、県においては現在策定中の「次期財政再建プラン」のなかで、来年度の歳入・歳出の推計で860億円の財源不足が見込まれるなど依然として厳しい財政状況であることから、平成18年度予算においても大幅な予算の削減が図られると考えられる。

このような状況の中で本市の財政は、引き続き健全性を保っているところではあるが、経常収支比率や公債費負担比率の上昇、実質単年度収支の2年連続マイナスなどの財政状況が続く一方、1市2町の合併に伴う事務事業費の増加や成田新高速鉄道整備事業、新清掃工場建設事業の大規模事業などにより多額の財政負担が予想され、今後の財政運営は非常に厳しい状況にある。

しかしながら、このような厳しい状況下にあっても平成18年度を初年度とする第4次総合計画並びに新市建設計画の実現に鋭意努力するとともに、限られた財源の効率的運用により重要施策の推進を図って行かなければならない。

従って平成18年度予算編成に当たっては、策定中の第7次総合5か年計画事業及び第5次行政改革推進計画の措置事項と整合を図りながら、より一層経費の節減を図り、財政の健全性の確保及び効率的な財政運営を基本に事業の緊急性あるいは優先度を考慮するなかで編成していくものとする。

## 一 総括事項

(年間予算の編成)

1 予算は、国、県及び経済動向に意を注ぎ、総計予算主義の原則に基づき予定される収入支出を的確に把握し、関係部課と密接な連絡を図りながら年間予算の編成を行うこと。

また、年度途中の補正は、制度の改正に伴うもの、災害関係費等緊急なもの又は編成の段階で特に協議したもののほかは行わない方針である。

(現行行財政制度による編成)

2 国の予算、地方財政計画等も未だ決定されていないので、原則として現行行財政制度に基づき編成する。ただし、国や県の予算案等が判明したものについては、予算編成途中で修正する。

特に、補助負担金の削減や税源移譲等については、国、県の動向を注視し情報収集を的確に行うこと。

なお、条例等制度の改正が前提となるものについては、予算編成と並行して庁議等に諮ること。

(総合5か年計画との整合)

3 平成18年度は第7次総合5か年計画の初年度にあたることから、予算と5か年計画事業の整合を図るものとする。

(行政改革大綱の予算編成への活用)

4 「事務事業評価」並びに「補助金の適正化」の実施結果を予算編成に生かすとともに、職員一人一人が事業に対するコスト意識を再認識し、「最少の経費で最大の効果」を基本に経費の削減に努めること。

(合併経費の取扱い)

5 市町村合併に伴う経費については、合併協議会の決定事項並びに事務事業の調整結果に基づき、的確に見込み額を把握し計上すること。

(特別会計の財政運営)

6 特別会計においては、設置目的に従い経営の合理化と経費の節減に努め、財源の確保を積極的に図り、一般会計からの繰入れについては、その基準の範囲内とすることを基本とする財政運営の確保を図ること。

(指摘事項等の取扱い)

7 議会、監査委員の意見については十分検討すること。

## 二 個別的事項

### 1 歳入に関する事項

(市税)

(1) 経済動向を十分に勘案し、確実且つ最大限の年間収入見込み額を計上すること。特に、課税客体の完全捕捉と徴収率の一層の向上に努めること。

(地方交付税、地方譲与税、交付金)

(2) 国の予算編成状況と地方財政計画策定の方向を見極めて、的確な収入見込みを計上すること。

(国庫支出金、県支出金)

(3) 事務事業の緊急度とその効果を十分検討し、補助金ということから安易に受け入れることなく主体的な判断に基づき取捨選択のうえ計上すること。

また、国・県補助負担金の廃止、縮減等の状況把握に努め、関係機関と十分連絡をとり的確な見積もりを行うものとする。

(分担金、負担金、使用料、手数料、諸収入)

(4) 住民負担の公平確保の観点と受益者負担の原則に立って関係事務事業費の動向に即応して常に見直しを行い、公正な費用負担の確保に努め、見直し後の年間収入見込額を計上すること。

(市債)

(5) 国の地方債計画が未確定であるが、本年度の許可方針、適債性、将来の財政負担を十分検討のうえ見積もるものとする。

(その他)

(6) 零細、又は捕捉困難な収入についても、なおざりにすることなく収入の増加に努めること。

## 2 歳出に関する事項

事務事業の徹底的な見直しを行い、“最少の経費で最大の行政効果”をあげることが目標とすることはもとより、執行経費の公平性、透明性に十分留意のうえ計上すること。

(1) 人件費については、職員の適正な配置及び事務簡素化、合理化を推進すること。

(2) 旅費、物件費等消費的経費については毎年増加の傾向にあるので、これらの経費について徹底的に事務の洗い直しを行い、その削減に努めること。

旅費：全国的なものは原則廃止。審議会等毎年実施を隔年に、宿泊を伴うものは宿泊なし。

食糧費：必要性を再検討のうえ、削減に努めること。

図書・追録・新聞等：パソコンの普及に伴いインターネットを最大限に活用することにより情報収集に努め、図書、追録、新聞等あらゆる面において再検討し削減すること。

維持管理委託：基本にもどり、仕様を見直すことにより削減に努めること。

(3) 維持補修費については、施設の効用を発揮するために必要最小限度とするとともに、優先度の高いものから年間の枠の中で執行できるように努めること。

(4) 補助金、負担金等については将来の大きな負担となるので、新增設は原則として行わないこととする。既存のものについては、「補助金の適正化」の実施結果に基づき行政効果を精査し、既に目的を達したもの、効果の少ないものについて積極的に整理を行い、他のものについても時限等を設けるとともに、補助規則等の整備を行い補助基準の明確化を図ること。

なお、負担金は原則として各負担金審議会の承認を得たもののみ計上すること。

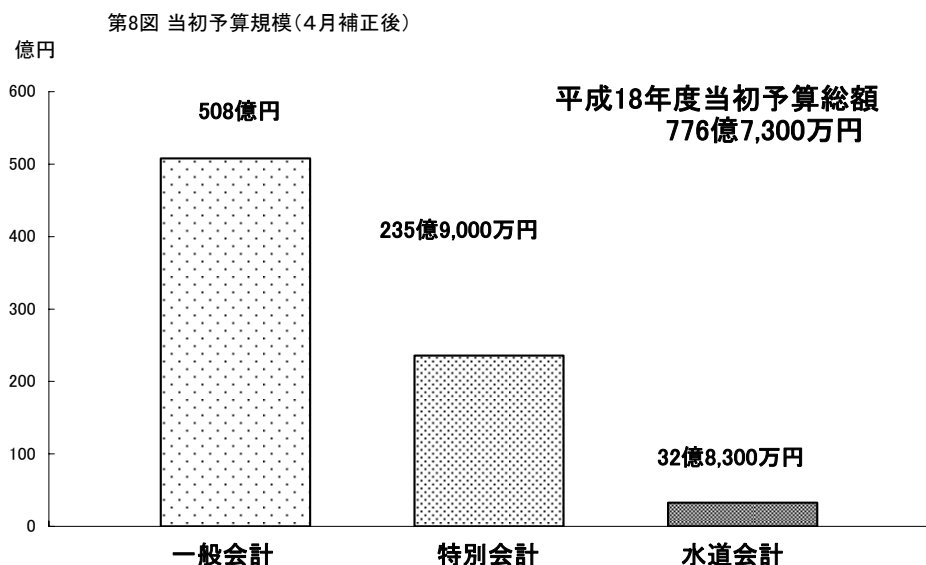
(5) 補助事業については、国、県、市間の経費負担区分の明確化を図り、超過負担の解消については、積極的に関係機関に働きかけて財政秩序の確立に努めること。また国・県からの委託事業については、委託金の範囲内で賄うことを原則とする。

(6) 投資的経費については、5か年計画事業を計上し事業費の精査を図るものとする。

## 2) 会計別予算規模

成田市では新しい時代にふさわしい成田市の創造に向け、何を改め、何を守り、何をすべきかという観点にたち予算編成を行いました。

平成18年度予算は、合併により新たな特別会計として旧下総町・大栄町に設置されていた農業集落排水事業会計及び簡易水道事業会計、並びに大栄診療所を対象とする国民健康保険会計の施設勘定を加え、一般会計のほか7つの特別会計（国民健康保険会計施設勘定含む）・企業（水道事業）会計に区分されており、これらを合わせることで市の行政全体の概要が分かります。



第3表 平成18年度当初予算(4月補正後)総括表

(単位:千円)

		平成18年度	平成17年度	増減額	増減率(%)
一般会計		50,800,000	43,300,000	7,500,000	17.3
特別会計	国民健康保険(事業勘定)	8,962,897	6,579,981	2,382,916	36.2
	国民健康保険(施設勘定)	128,771	-	128,771	皆増
	下水道事業	2,316,233	2,386,269	▲70,036	▲2.9
	公設地方卸売市場事業	245,353	255,635	▲10,282	▲4.0
	老人保健	6,130,093	4,522,005	1,608,088	35.6
	介護保険	3,722,315	2,745,072	977,243	35.6
	農業集落排水事業	668,605	-	668,605	皆増
	簡易水道事業	1,415,634	-	1,415,634	皆増
	合計	23,589,901	16,488,962	7,100,939	43.1
水道事業会計		3,282,605	2,529,297	753,308	29.8
総計		77,672,506	62,318,259	15,354,247	24.6

### 3) 主要事業

市では平成 18 年度を初年度とする新総合計画並びに新市建設計画の実現に向けて、主要事業を中心に各種事業の緊急性、優先度を考慮し、一層の経費節減を図るとともに、財政の健全性の確保と効率的な財政運営に留意しながら、平成 18 年度予算を編成しました。今年度に行う主な事業の内容を『新総合計画』の基本方向に基づき紹介します。

#### 1 『世界の交流拠点として市民が誇れる都市をつくる』

空港と都心を結ぶ鉄道と道路の整備をし、平行滑走路の完成に向け、最大限の努力をするとともに、市内の交通網の整備、駅前の整備等都市関連機能の充実を図り、きめ細かく実施していきます。

また、空港の持つ魅力、活力を最大限に活かすため、空港周辺地域の新たな土地利用を図り、更なる活性化に努めていきます。

● 成田新高速鉄道アクセス事業	25 億 1,420 万円
● 芝山鉄道補助事業	6,000 万円
● コミュニティバス運行事業	7,442 万円
● 幹線道路整備事業	13 億 942 万円
● (仮称)ニュータウン北駅周辺整備事業	4,300 万円
● 都市基本計画策定事業 【新規】	1,200 万円
● J R・京成成田駅中央口地区整備事業	3,703 万円
● 架空線地中化事業	9,769 万円
● 大蕪新宮線整備事業 【新規】	1 億 9,900 万円
● 赤坂台方線整備事業	2,425 万円
● ニュータウン中央線整備事業	2,000 万円
● 大袋線整備事業	1,000 万円

#### 2 『市民がいきいき働く活力ある産業を育てる』

市内の観光資源を循環するレトロ調のバスを運行し、観光客の誘致を図ります。また、門前町の特性を生かしたまちづくりを進めて行くほか、「さくらの山」は観光客の増加に伴い狭あいとなった駐車場を拡張整備します。

商工業については引き続き中小企業資金融資制度の運用を迅速に行い、利子の一部を補助することにより利用の促進を図ります。

農業の振興に関しては合併に伴い農業生産も大幅に増加し、活力が高まることが期待されていることから、地域特性を踏まえた事業を実施するとともに農地の利用集積の推進を図ります。

● 水田営農推進事業	1億 494万円
● 農道整備事業	1億 1,130万円
● 排水路整備事業	2億 1,620万円
● 農業センター運営管理費補助金	4,599万円
● 中小企業資金融資事業	10億 4,214万円
● さくらの山整備事業 【新規】	7,229万円
● 表参道整備事業	1億 7,294万円
● 観光活性化事業	1,219万円
● 観光PR事業 【一部新規】	2,703万円
● 公設地方卸売市場特別会計繰出金	9,114万円
● 農業集落排水事業特別会計繰出金	1億 3,144万円
● (仮称) 下総親水広場整備事業	2,500万円

### 3 『市民一人ひとりの健康で生きがいを持った生活をささえる』

子育て支援については美郷台児童ホームを建設するほか、乳幼児の通院医療費の助成範囲を就学前まで拡大し、負担軽減を図ります。

また、高齢者福祉については、介護保険法の改正に基づく新予防給付や地域包括支援センターの創設などを通じ、新たなサービス提供体制を整備する一方、障がい者福祉については障害者自立支援法が施行されたことから、各種福祉サービスの充実に努め、住み慣れた地域で安心して生活が送れるよう支援していきます。

● 保健福祉館管理運営事業	8,469万円
● 急病診療所事業	1億 743万円
● 児童ホーム整備・運営事業	1億 6,122万円
● 子育て支援事業	2,555万円
● 児童手当支給事業	5億 6,254万円
● 乳幼児医療対策事業 【一部新規】	2億 4,772万円
● 高齢者等移送サービス事業	1,067万円
● 障害者制度移行事業 【新規】	843万円
● 介護予防支援事業 【新規】	9,191万円
● 国民健康保健特別会計繰出金	11億 2,767万円
● 老人保健特別会計繰出金	4億 7,530万円
● 介護保険特別会計繰出金	5億 5,121万円
● シルバー人材センター移転事業 【新規】	9,177万円
● 社会福祉施設整備費補助金 【新規】	1億 5,000万円

#### 4 『市民が地域文化を愛し、次代を担う心豊かな人材を育む』

学校教育では、個性に応じたきめ細かな指導体制の充実、外国人英語講師による実践的な英語教育の充実を図っていきます。

児童生徒の安全対策として、全小中学校を対象に学校から保護者へ子どもたちの安全にかかわる犯罪や災害などの緊急情報を通知する学校情報配信システムを新たに運用します。

美郷台小学校・久住中学校の建設をはじめ学校施設整備に引き続き取り組みます。

また、生涯学習・スポーツの場や情報の提供に努めます。

● 個性を生かす教育推進事業	1億6,086万円
● 美郷台小学校建設事業	14億3,636万円
● 久住中学校建設事業	11億4,671万円
● 外国人英語講師派遣事業	5,184万円
● 英語科研究開発事業	9,951万円
● 学校安全対策事業 【一部新規】	504万円
● 私立保育園園児補助金	1,887万円
● 国際文化会館施設整備事業	3,616万円
● 子どもの居場所づくり推進事業 【新規】	120万円
● 中央公民館改修事業 【新規】	500万円
● 図書館システム更新事業 【新規】	2,162万円
● スポーツ広場整備事業 【新規】	1,300万円
● 野球場整備事業 【新規】	800万円

#### 5 『市民が安全、安心、快適に暮らせる生活環境をつくる』

市民と行政との協働による防犯巡回指導員などの充実に努め、安全対策の充実を図ります。

消防体制については合併により新たに大栄消防署・下総分署が加わり一層の組織の充実に努める一方、(仮称)公津消防分署の建設、防火水槽の設置や機材の充実を図ります。

新清掃工場の建設に関しては、周辺の環境影響調査手続きを進めるとともに、引続き機種選定を含め施設建設に向けた準備に取り組みます。

● 航空機騒音地域補助事業	6,625万円
● 民家防音家屋等維持管理費補助事業	2億9,327万円
● 成田空港周辺環境整備推進事業	1,800万円
● 成田ナンバー誕生記念事業 【新規】	750万円
● 防災対策事業	1,727万円



● 地域防災計画策定事業	1,370 万円
● 国民保護計画策定事業 【新規】	1,386 万円
● 防犯啓発事業	1,582 万円
● 地域安全対策事業 【新規】	2,000 万円
● A E D 設置事業 【新規】	106 万円
● 駐輪場管理・整備事業	4,241 万円
● 防犯カメラ設置事業 【新規】	735 万円
● 環境基本計画推進事業 【新規】	450 万円
● 一般廃棄物処理基本計画策定事業 【新規】	1,200 万円
● 新清掃工場・付帯施設整備事業	1 億 3,746 万円
● 生活道路整備事業 【新規】	6 億 5,612 万円
● 市営住宅建替事業 【新規】	700 万円
● (仮称) 公津分署整備事業	2 億 4,910 万円
● 下水道事業特別会計繰出金	9 億 2,958 万円
● 簡易水道事業会計出資金・負担金	1 億 8,753 万円
● 水道事業会計出資金・負担金	1 億 4,835 万円
● 最終処分場整備事業 【新規】	2,500 万円

## 6 『市民と行政が協働する効率的な自治体運営を行う』

各種合併記念事業を実施し、市民と行政の連携、また市民同士の交流を深めます。

納税者の利便性と収納率の向上を図るため、コンビニエンスストアで市税等の納付が可能となるほか、住民票・印鑑証明の自動交付機を本庁と三里塚コミュニティセンターに設置し、窓口の混雑緩和と住民サービスの向上に努めます。

また、公津の杜地区に多様な機能を備えた複合的施設を整備するため、基本設計及び地質調査を実施します。

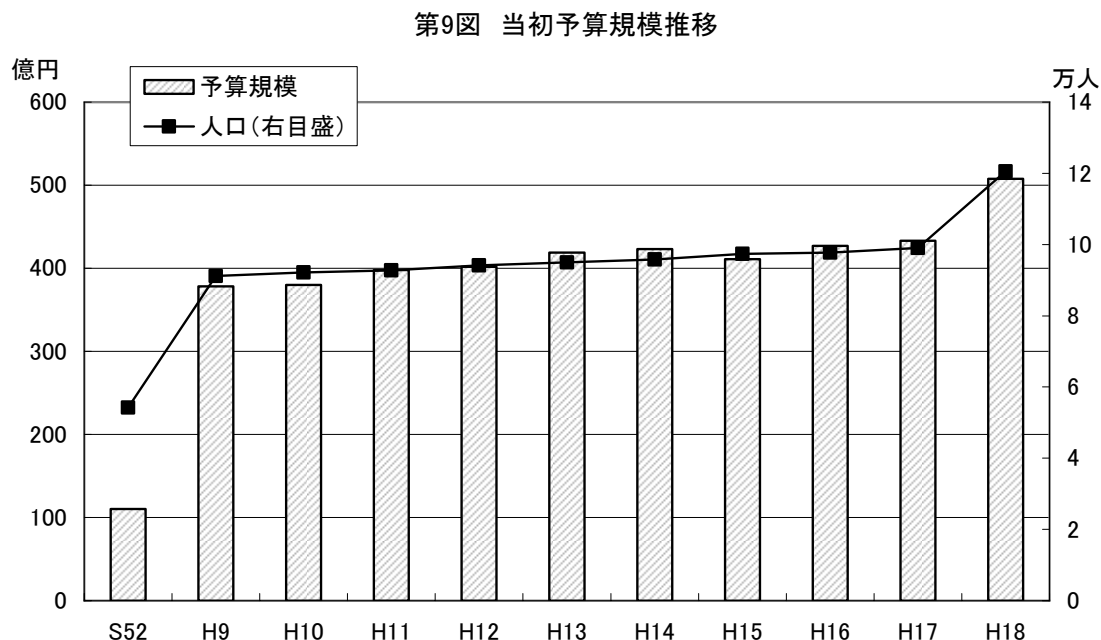
● 総合計画策定事業	1,110 万円
● 行政評価事業 【新規】	350 万円
● 合併記念事業 【新規】	4,500 万円
● コンビニ収納事業 【新規】	1,105 万円
● 電子入札システム運用事業 【新規】	2,308 万円
● 自動交付機システム導入事業 【新規】	450 万円
● 公津の杜複合施設整備事業	1,002 万円
● コミュニティ事業	4,402 万円
● 集会施設等補助事業	9,032 万円

## 第2節 一般会計当初予算

### 1) 予算規模推移

平成 18 年度一般会計の予算規模は 508 億円で、前年度に比べて 75 億円（17.3%）増となっています。

第 9 図は、当初予算規模の推移です。



#### 【用語解説】 会計の名称

会計名	内容	
一般会計	市の基本的な行政を行うための会計です。	
特別会計	国民健康保険	被保険者の疾病、負傷、出産、死亡などに際し、必要な保険給付を行います。合併により大栄診療所の事業勘定が新たに追加となります。
	下水道事業	都市排水施設の整備を行い、市民生活の環境整備を図ることを目的としています。
	公設地方卸売市場	青果物、水産物などの生鮮食料品を安定した価格で供給し、市民生活の向上を図ります。
	老人保健	老人医療受給者の方に、医療費を給付することを目的としています。
	介護保険	被保険者の要介護度などに応じて、必要な保険給付を行います。
	農業集落排水事業	農業集落におけるし尿・生活雑排水等を処理する施設の整備を行い、市民生活の環境整備を図ることを目的としています。
	簡易水道事業	給水人口が 5,000 人以下の地区について、安全な水の安定的な供給を目的としています。
水道事業 (公営企業)	給水人口が 5,000 人を超える地区について、安全な水の安定的な供給を目的としています。	

特別会計とは、特定事業を行う場合に一般会計と区分して経理する必要のあるときに設ける会計です。

## 2) 歳入の概要

### ○款別歳入前年度比較

平成 18 年度一般会計当初予算歳入総額 508 億円を、科目別（款別）に分類すると第 4 表及び第 10 図（P17）のとおりです。

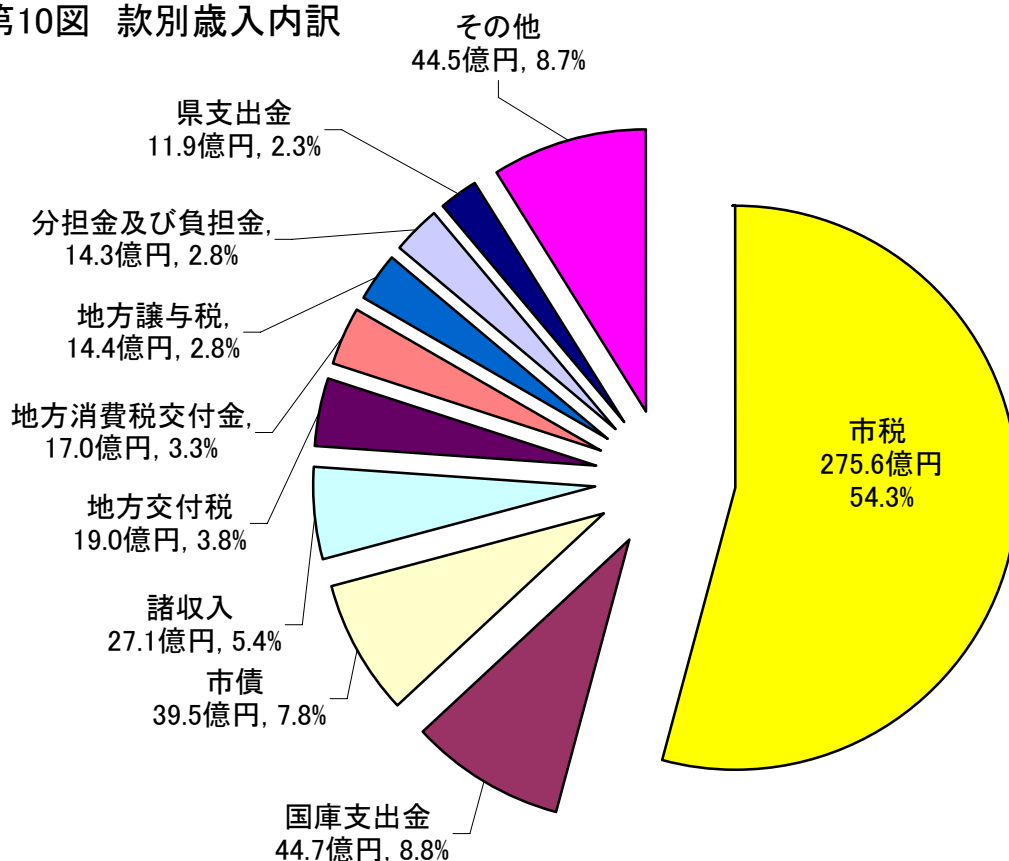
第 4 表 一般会計当初予算歳入款別表

	平成 18 年度		平成 17 年度		増減額 千円	増減率 %
	当初予算額 千円	構成 比%	当初予算額 千円	構成 比%		
市税	27,562,932	54.3	24,420,647	56.4	3,142,285	12.9
地方譲与税	1,442,328	2.8	755,000	1.7	687,328	91.0
利子割交付金	102,300	0.2	90,000	0.2	12,300	13.7
配当割交付金	32,700	0.1	30,000	0.1	2,700	9.0
株式等譲渡所得割交付金	8,400	0.0	8,000	0.0	400	5.0
地方消費税交付金	1,700,000	3.3	1,500,000	3.5	200,000	13.3
ゴルフ場利用税交付金	250,000	0.5	201,000	0.5	49,000	24.4
自動車取得税交付金	366,000	0.7	273,000	0.6	93,000	34.1
地方特例交付金	560,000	1.1	599,000	1.4	▲39,000	▲6.5
地方交付税	1,900,000	3.8	440,000	1.0	1,460,000	331.8
交通安全対策特別交付金	24,600	0.0	20,000	0.0	4,600	23.0
分担金及び負担金	1,431,708	2.8	1,052,203	2.4	379,505	36.1
使用料及び手数料	886,176	1.7	960,487	2.2	▲74,311	▲7.7
国庫支出金	4,469,372	8.8	3,734,817	8.6	734,555	19.7
県支出金	1,187,769	2.3	922,142	2.1	265,627	28.8
財産収入	46,673	0.1	123,993	0.3	▲77,320	▲62.4
寄附金	3,160	0.0	3,320	0.0	▲160	▲4.8
繰入金	1,663,706	3.3	1,502,777	3.5	160,929	10.7
繰越金	500,000	1.0	500,000	1.2	0	0.0
諸収入	2,708,176	5.4	2,501,014	5.8	207,162	8.3
市債	3,954,000	7.8	3,662,600	8.5	291,400	8.0
<b>歳入合計</b>	<b>50,800,000</b>	<b>100.0</b>	<b>43,300,000</b>	<b>100.0</b>	<b>7,500,000</b>	<b>17.3</b>

## 主な歳入の増減理由

- |       |  |
|-------|--|
| 市 税   | 税制改正による定率減税の縮減や老年者控除・非課税の廃止に伴う増、合併による増、空港関連企業の法人市民税の増等により、対前年度比 31 億 4 千万円、12.9%の増となっています。 |
| 地方譲与税 | 税制改正・三位一体改革に基づく暫定的な措置による税源委譲項目の追加や合併等の要因により、対前年度比 6 億 9 千万円、91.0%の増となっています。                |
| 国庫支出金 | 合併等の要因による生活保護費負担金の増、成田新高速鉄道建設費補助金の増等に伴い、対前年度比 7 億 3 千万円、19.7%の増となっています。                    |
| 県支出金  | 児童手当給付費負担金の増、また新たに合併支援交付金の交付が見込まれる等の要因で、対前年度比 2 億 7 千万円、28.8%の増となっています。                    |
| 基金繰入金 | 中学校建設基金繰入金の減があるものの、財政調整基金や社会福祉事業繰入金の増等の要因で、対前年度比 1 億 6 千万円、10.7%の増となっています。                 |
| 諸 収 入 | ニュータウン関連都市計画道路整備交付金の減があるものの、合併等による空港周辺対策交付金の増等で、対前年度比 2 億 1 千万円、8.3%の増となっています。             |
| 市 債   | 公津の杜小学校建設事業債や郷部線整備事業債等の減はあるものの、成田新高速鉄道整備事業債の増、合併特例債等の要因により、対前年度比 2 億 9 千万円、8.0%の増となっています。  |

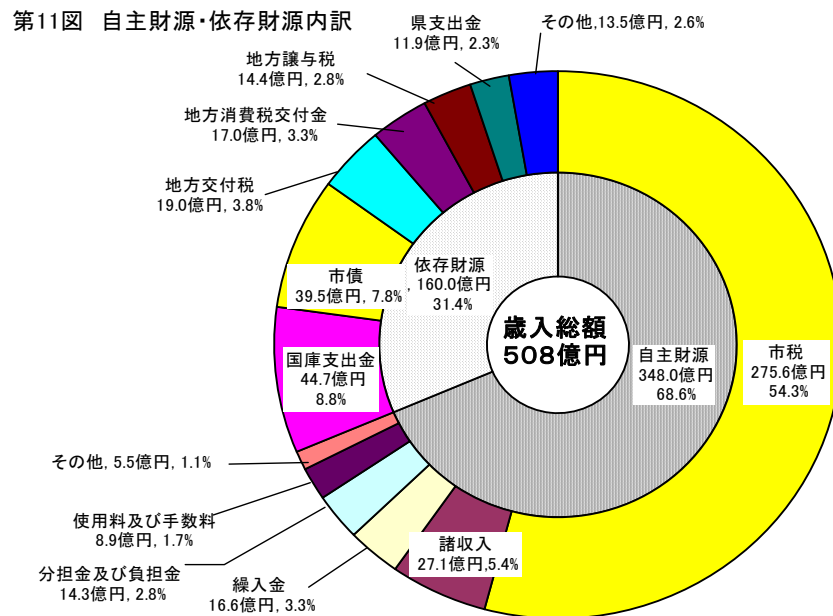
第10図 款別歳入内訳



## ○自主財源・依存財源

歳入は、大きく「自主財源」と「依存財源」に分けることができます。

自主財源は、市が自主的に収入することができる財源のことで、市税、分担金及び負担金、使用料及び手数料、財産収入、寄附金、繰入金、諸収入等が該当し、今年度は348億円です。17年度に比べ37億円の増で、主な要因は法人市民税の増や合併によるものです。自主財源は歳入全体の68.6%を占めています。

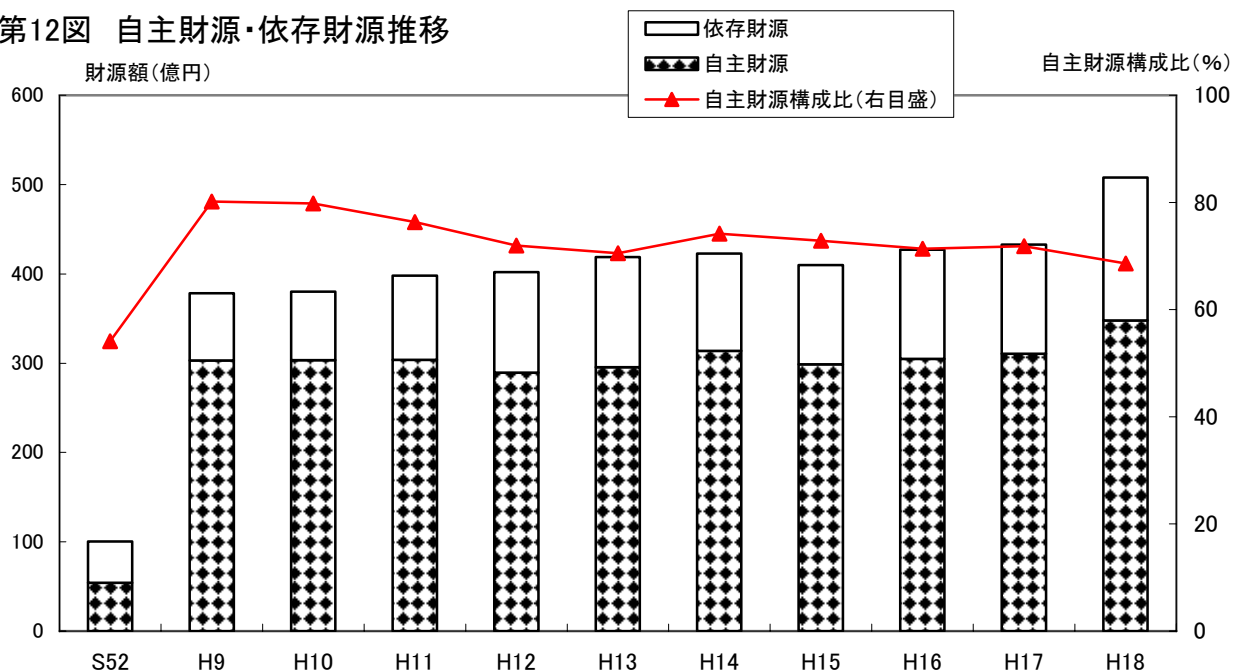


依存財源は、国や県から交付される財源のことで、国・県支出金、市債、地方譲与税、地方交付税が該当し、今年度は160億円です。前年度に比べ38億円の増で、これは合併により旧下総町・大栄町相当額が交付される（旧成田市分は不交付）普通交付税を計上したこと等によるものです。依存財源は歳入全体の31.4%を占めています。

自主財源が多いほど、行政活動の自主性と安定性を確保できるとされています。

第11図は、自主財源・依存財源の内訳、第12図は推移です

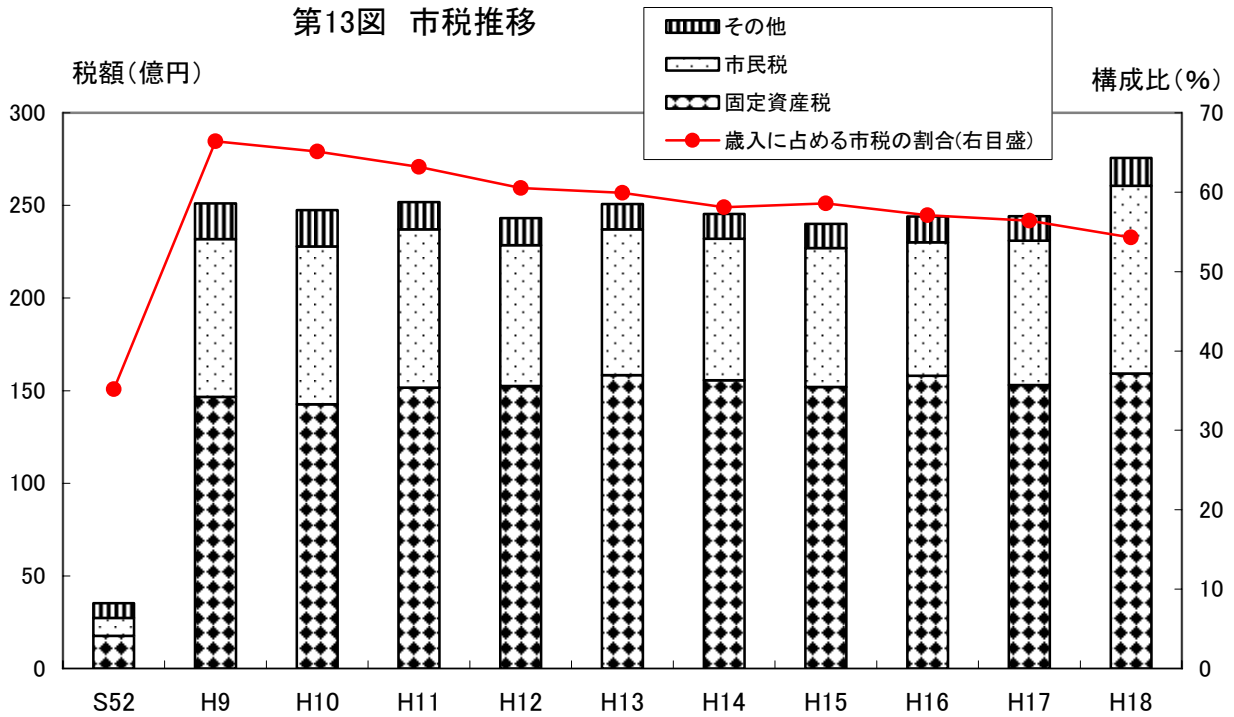
第12図 自主財源・依存財源推移



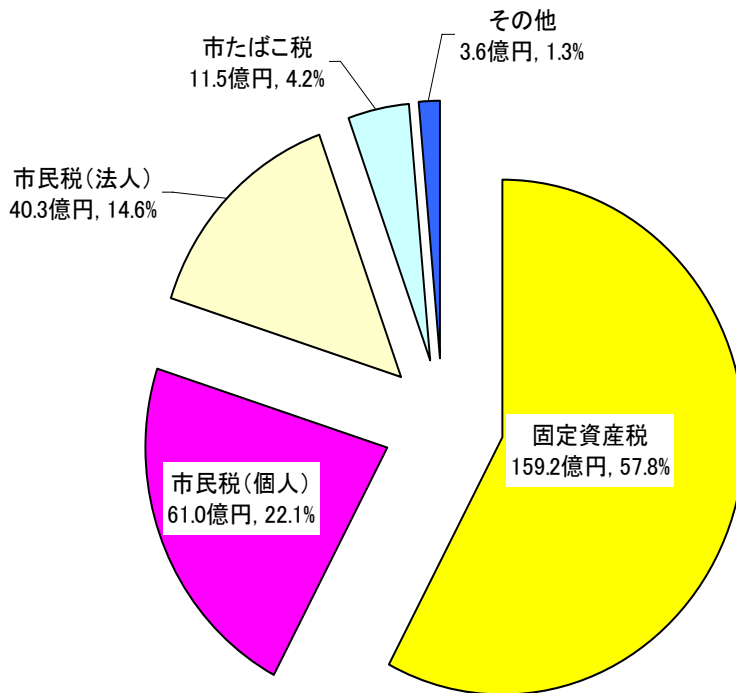
## ○市税

歳入の根幹をなす市税は、税制改正による個人住民税の増収や景気回復による法人市民税の増収を見込んでいます。固定資産税においては評価替えによる減収が見込まれますが、旧下総町・大栄町との合併により市税全体としては対前年度で31億4千万円（12.9%）増を見込んでいます。

第13図・第5表は市税の推移、第14図は市税の内訳です。



第14図 市税内訳



第5表 市税推移 (単位：千円)

区分	S52年度	H8年度	H9年度	H10年度	H11年度	H12年度
市民税	972,151	8,168,376	8,524,441	8,526,393	8,547,967	7,609,793
個人	711,418	5,814,056	6,014,946	6,030,584	6,200,863	5,395,047
法人	260,733	2,354,320	2,509,495	2,495,809	2,347,104	2,214,746
固定資産税	1,763,043	15,043,972	14,668,370	14,261,256	15,155,759	15,245,100
固定資産税	1,710,227	14,969,540	14,593,738	14,190,038	15,084,267	15,165,701
国有資産等所在市交付金	52,816	74,432	74,632	71,218	71,492	79,399
軽自動車税	19,164	66,993	70,669	77,672	79,777	87,865
たばこ税	162,909	696,649	720,596	887,800	881,586	913,990
鉱産税	306	468	468	485	480	480
特別土地保有税	380,117	1,022,871	937,341	786,874	297,838	245,060
入湯税						
都市計画税	120,919	194,075	190,353	197,985	203,829	205,760
その他	111,643					
市税合計	3,530,252	25,193,404	25,112,238	24,738,465	25,167,236	24,308,048

区分	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度
市民税	7,875,438	7,631,660	7,502,816	7,222,064	7,801,315	10,132,876
個人	5,282,082	5,248,369	5,492,775	5,005,434	5,049,994	6,101,844
法人	2,593,356	2,383,291	2,010,041	2,216,630	2,751,321	4,031,032
固定資産税	15,832,916	15,568,620	15,195,245	15,796,655	15,296,954	15,923,738
固定資産税	15,758,693	15,502,737	15,127,170	15,729,602	15,224,954	15,851,640
国有資産等所在市交付金	74,223	65,883	68,075	67,053	72,000	72,098
軽自動車税	87,816	94,000	99,530	103,775	105,593	146,919
たばこ税	951,920	953,816	953,816	1,053,282	997,194	1,146,836
鉱産税	480	480	480	480	480	480
特別土地保有税	114,072	84,338	53,345	23,641	23,075	25,507
入湯税					1	1
都市計画税	210,045	203,447	196,118	190,908	196,035	186,575
その他						
市税合計	25,072,687	24,536,361	24,001,350	24,390,805	24,420,647	27,562,932

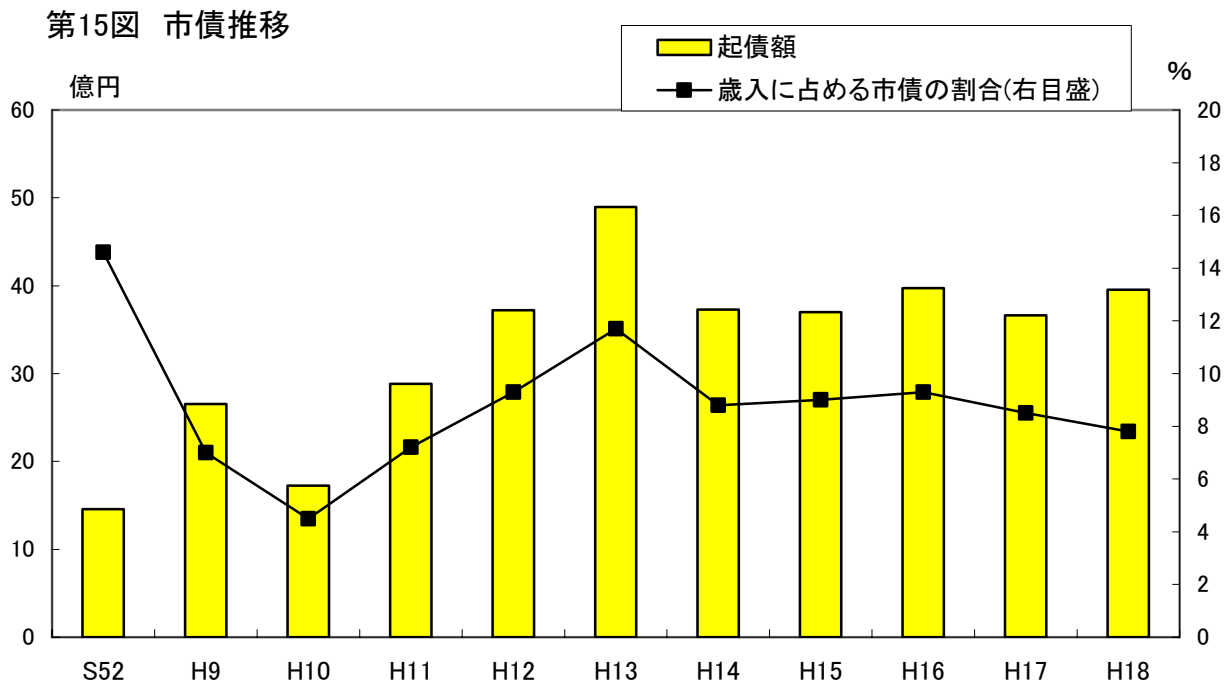
【用語解説】 主な市税

名称	説明
市民税	住民の日常生活に直接結びついた身近な仕事の費用をそれぞれの負担能力に応じて分担し合うという性格の税金です。個人と法人があり、均等の額を負担する均等割とその人の所得金額に応じて負担する所得割（法人の場合は法人税割）から構成されています。
固定資産税	毎年1月1日に土地、家屋、償却資産（これらを総称して「固定資産」といいます。）を所有している人が、その固定資産の価格をもとに算定される税額を納める税金です。

## ○市債

市債は美郷台小学校・久住中学校建設事業等の大規模な社会資本整備事業の財源となっています。前年との比較では公津の杜小学校建設事業や郷部線整備事業などの大規模な起債対象事業が終了したものの、成田新高速鉄道整備事業債が大幅に増加したことや、合併に伴い旧下総町・大栄町に関する対象事業が新たに加わったため、全体では2億9千万円（8.0%）の増となりました。

第15図は市債の推移です。



### 【用語解説】市債

市債は、いわゆる市の借金ですが、資金調達のひとつの手段であるとともに、次のような積極的な機能を持っています。

#### ①財政負担の平準化

学校の建設など大規模な公共施設整備は、短期間に多額の経費を必要とします。これを市税などの一般財源のみで賄うことは、他の行政施策の推進に大きな支障を及ぼすこととなります。そこで、市債で資金を調達し、元利償還金という形で後年度に支出することで、財政負担を平準化することができます。

#### ②世代間負担の公平化

学校・道路・公園などのように、将来長期間にわたって効果が生じる施設整備にあたり、現在の住民が一切の費用を負担するのは不合理といえます。そこで、市債の元利償還金に市税を充てることで、将来の方々にも費用の一部を負担していただくこととなり、世代間の負担の公平化が図られます。



## 【用語解説】 その他の歳入

### ・ 配当割交付金・株式等譲渡所得割交付金

15年度税制改正により創設されたもので、県で徴収された県民税配当割または県民税株式等譲渡所得割から、事務取扱費として5%を控除した残りの68/100(平成20年度までは2/3)が市町村へ配分されます。

### ・ 利子割交付金

昭和63年度から、銀行預金利子などの利子等にかかる住民税については、金融機関等を通じて県民税利子割として課税されています。この税収から、県が取扱費として5%を控除した残りの95%のうち5分の3が市町村に配分されます。

### ・ 国庫（県）支出金

国庫支出金には、生活保護費負担金などのように、国が地方公共団体の行う特定の事務事業の円滑な運営を期するために義務的に支出すべき「国庫負担金」、消防設備整備費補助金やなどのように、国が奨励的あるいは財政援助的意図に基づいて交付する「国庫補助金」また、国政選挙委託金などのように、本来国が行うべき事務を、国民の利便、経費の効率化等の観点から地方公共団体に委託する場合、その経費が交付される「国庫委託金」があります。県支出金は国庫と同様に、「県負担金」、「県補助金」、「県委託金」があります。

### ・ 地方譲与税

地方公共団体の財源とされているもののうち、課税の便宜上その他の事情から徴収事務を国が代行し、地方公共団体へ譲与する税を地方譲与税といいます。所得譲与税、自動車重量譲与税、地方道路譲与税、航空機燃料譲与税などがあります。

所得譲与税は、所得税のうち一定額の5分の3を都道府県に、5分の2を市町村に対し、それぞれの人口にあん分して配分されるものです。これとは別に平成18年度は国の三位一体の改革の下、税源委譲の全額が所得譲与税で措置されるため、大幅に増加しています。

自動車重量税は、自動車検査証の交付を受ける自動車等はその重量に応じて課税される税金です。その3分の1が市町村の道路特定財源の充実を図るために、道路延長などをもとに市町村へ配分されています。

地方道路譲与税は、揮発油に対する課税として、揮発油税及び地方道路税の2つの国税があり、その全額が道路特定財源の充実を図るために、道路延長などをもとに地方道路税として都道府県及び市町村へ配分されるものです。

航空機燃料税は、航空機に積み込まれた航空機燃料に課税されている税金です。その13分の2に相当する額が、航空機騒音の防止対策や空港及び周辺整備の充実を図るため、関係する市町村及び都道府県に配分されています。

### ・ 県税からの交付金

地方税法に基づき、県が徴収した税のうち一定部分を県内の市町村に交付する制度で、

利子割交付金、配当割交付金、株式等譲渡所得割交付金、地方消費税交付金、ゴルフ場利用税交付金、自動車取得税交付金があります。

### **ゴルフ場利用税交付金**

ゴルフ場利用税は、利用者に課される税金で、平成元年度から、それまでの娯楽施設利用税の課税対象施設をゴルフ場に限定したものです。税収のうち70%がゴルフ場の所在する市町村に交付されます。

### **自動車取得税交付金**

自動車取得税は、昭和43年度に地方道、特に市町村道の整備を促進する財源として創設されたもので、自動車の取得に対して課される税金です。この税収から、県が取扱費として5%を控除した残りの95%のうち70%が市町村に交付されます。

### **地方消費税交付金**

地方消費税は、平成9年度に創設され、税率1%の県税です（当分の間、国において税率4%の消費税と併せて課されることとなっています）。この税収のうち50%が国勢調査の人口と事業所統計の従業者数によりあん分され市町村に交付されます。

### **・ 地方特例交付金**

平成11年度より恒久的減税に伴う地方税の減収額の一部を補てんするため、地方税の代替的性格を有する財源として、国から交付されます。

平成18年度から児童手当の支給対象拡大に伴う額が新たに措置されます。

### **・ 地方交付税**

地方交付税とは、全国の地方公共団体間の財政的な不均衡を調整して、どの地域に住む住民にも標準的な行政サービスや基本的な社会資本が提供できるように財源を保障する制度です。

行政活動に必要な税財源は、地域によってアンバランスであり、多くの団体は、必要な税収を確保できていないのが実状です。そこで、国税（所得税・法人税・酒税・消費税・たばこ税）の一定割合を各地方公共団体の財政力に応じて再配分しているのです。

地方交付税は、財政力に応じて配分される普通交付税（配分総額の94%）と、災害や地域固有の特殊な財政事情などにより配分される特別交付税（配分総額の6%）にわかれています。

成田市は財政力が強いので普通交付税は交付されませんでした。旧下総町・大栄町が交付団体だったため、合併特例により新たに平成18年度から交付されます。全国的には、行政改革のなかで国の税財政制度の抜本的見直しの一環として縮減の方向で検討されています。

### **・ 交通安全対策特別交付金**

交通安全対策特別交付金は、昭和43年に道路交通法の改正により創設された交通反則通告制度に基づき納付される反則金収入を原資として、地方公共団体が単独で行う道路交通安全施設整備の経費に充てるための財源として交付されるものであり、信号機、道路標識、横断歩道橋、カーブミラーなどの施設整備による交通事故防止を目的としています。

## ○歳入予算額の推移

空港開港前と最近10年間の当初予算額（歳入）の推移です。

第6表 歳入予算額推移

		S52	H9	H10	H11	H12	
自主財源	市税	3,530,252	25,112,238	24,738,465	25,167,236	24,308,048	
	その他	分担金及び負担金	423,846	934,051	950,887	988,919	908,557
		使用料及び手数料	225,900	610,520	617,530	624,859	649,862
		財産収入	115,198	165,057	111,664	95,611	64,716
		寄附金	7,743	32,152	2,308	3,308	3,308
		繰入金	0	1,674,987	2,187,506	1,245,538	189,049
		繰越金	1,000	300,000	300,000	400,000	400,000
		諸収入	1,117,478	1,486,387	1,422,901	1,859,678	2,407,000
	計	1,891,165	5,203,154	5,592,796	5,217,913	4,622,492	
合計	5,421,417	30,315,392	30,331,261	30,385,149	28,930,540		
依存財源	国県支出金	国庫支出金	2,457,290	1,906,224	2,142,746	2,701,759	3,260,446
		県支出金	230,666	858,284	891,993	911,192	1,031,597
		計	2,687,956	2,764,508	3,034,739	3,612,951	4,292,043
	市債	1,459,900	2,653,100	1,723,000	2,881,900	3,720,800	
	その他	地方譲与税	77,692	546,000	393,000	399,000	388,000
		利子割交付金	0	173,000	116,000	105,000	97,000
		配当割交付金					
		株式等譲渡所得割交付金					
		地方消費税交付金	0	388,000	1,400,000	1,400,000	1,400,000
		ゴルフ場利用税交付金	43,826	153,000	143,000	154,000	172,000
		特別消費税交付金	0	37,000	89,000	80,000	13,000
		自動車取得税交付金	77,707	340,000	340,000	332,000	284,000
		地方特例交付金	0	0	0	0	392,617
		地方交付税	250,000	430,000	430,000	430,000	480,000
	交通安全対策特別交付金	6,500	20,000	20,000	20,000	20,000	
計	455,725	2,087,000	2,931,000	2,920,000	3,246,617		
合計	4,603,581	7,504,608	7,688,739	9,414,851	11,259,460		
総計	10,024,998	37,820,000	38,020,000	39,800,000	40,190,000		

(単位：千円)

H13	H14	H15	H16	H17	H18		
25,072,687	24,536,361	24,001,350	24,390,805	24,420,647	27,562,932	市税	
943,641	992,754	988,138	1,024,444	1,052,203	1,431,708	分担金及び負担金	自主財源 その他
967,629	951,797	952,748	935,055	960,487	886,176	使用料及び手数料	
101,507	861,354	265,322	107,825	123,993	46,673	財産収入	
3,320	3,320	3,320	3,320	3,320	3,160	寄附金	
154,316	330,626	636,619	791,179	1,502,777	1,663,706	繰入金	
400,000	400,000	500,000	500,000	500,000	500,000	繰越金	
1,905,035	3,300,251	2,536,590	2,731,297	2,501,014	2,708,176	諸収入	
4,475,448	6,840,102	5,882,737	6,093,120	6,643,794	7,239,599	計	
29,548,135	31,376,463	29,884,087	30,483,925	31,064,441	34,802,531	合計	
2,841,653	2,707,498	2,907,430	3,816,659	3,734,817	4,469,372	国庫支出金	国庫支出金
1,156,312	1,039,439	1,008,283	1,008,516	922,142	1,187,769	県支出金	
3,997,965	3,746,937	3,915,713	4,825,175	4,656,959	5,657,141	計	
4,895,900	3,730,600	3,700,200	3,973,900	3,662,600	3,954,000	市債	
385,000	387,000	393,000	419,000	755,000	1,442,328	地方譲与税	依存財源 その他
200,000	108,000	90,000	90,000	90,000	102,300	利子割交付金	
			30,000	30,000	32,700	配当割交付金	
			8,000	8,000	8,400	株式等譲渡所得割交付金	
1,430,000	1,370,000	1,370,000	1,370,000	1,500,000	1,700,000	地方消費税交付金	
172,000	201,000	201,000	201,000	201,000	250,000	ゴルフ場利用税交付金	
0	0	0	0	0	0	特別消費税交付金	
271,000	280,000	273,000	273,000	273,000	366,000	自動車取得税交付金	
500,000	600,000	673,000	566,000	599,000	560,000	地方特例交付金	
480,000	480,000	480,000	440,000	440,000	1,900,000	地方交付税	
20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	24,600	交通安全対策特別交付金	
3,458,000	3,446,000	3,500,000	3,417,000	3,916,000	6,386,328	計	
12,351,865	10,923,537	11,115,913	12,216,075	12,235,559	15,997,469	合計	
41,900,000	42,300,000	41,000,000	42,700,000	43,300,000	50,800,000	総計	

### 3) 歳出の概要

#### ○款別歳出前年度比較

第7表は平成18年度一般会計当初予算額の科目別（款別）前年比較表です。

第7表 一般会計当初予算歳出款別表

	平成18年度		平成17年度		増減額 千円	増減率 %
	当初予算額 千円	構成比 %	当初予算額 千円	構成比 %		
議会費	572,385	1.1	407,673	0.9	164,712	40.4
総務費	9,794,607	19.3	6,552,138	15.1	3,242,469	49.5
民生費	10,485,242	20.6	7,841,557	18.1	2,643,685	33.7
衛生費	5,358,409	10.6	4,724,507	10.9	633,902	13.4
労働費	33,682	0.1	38,811	0.1	▲5,129	▲13.2
農林水産業費	1,425,307	2.8	980,776	2.3	444,531	45.3
商工費	1,429,141	2.8	1,390,770	3.2	38,371	2.8
土木費	7,081,705	13.9	7,355,787	17.0	▲274,082	▲3.7
消防費	2,689,503	5.3	2,040,169	4.7	649,334	31.8
教育費	7,800,389	15.4	8,572,722	19.9	▲772,333	▲9.0
災害復旧費	2,000	0.0	2,000	0.0	0	0.0
公債費	4,027,599	7.9	3,293,058	7.6	734,541	22.3
諸支出金	31	0.0	32	0.0	▲1	▲3.1
予備費	100,000	0.2	100,000	0.2	0	0.0
歳出合計	50,800,000	100.0	43,300,000	100.0	7,500,000	17.3

〔各費目の主な増減〕

**総務費** 合併によるほか、成田新高速鉄道アクセス事業や空港周辺対策事業基金積立金等の増で32億4千万円、49.5%の増となった。

**民生費** 生活保護費や特別会計繰出金等の増により26億4千万円、33.7%の増となった。

**衛生費** 合併によるごみ・し尿処理事業等の増により、6億3千万円、13.4%の増となった。

**農林水産業費** 合併により新たに農業集落排水事業特別会計繰出金が計上されたこと等により4億4千万円、45.3%の増となった。

**土木費** 事業終了・縮減に基づく郷部線や馬橋竹下線整備事業の減、市道整備事業の減等により2億7千万円、3.7%の減となった。

**消防費** (仮称)公津分署整備事業の増や合併により、6億5千万円、31.8%の増となった。

**教育費** 公津の杜小学校建設事業・久住中学校建設事業の減、全国高等学校総合体育大会開催事業の減等の要因により7億7千万円、9.0%の減となった。

## ○ 目的別・性質別経費内訳

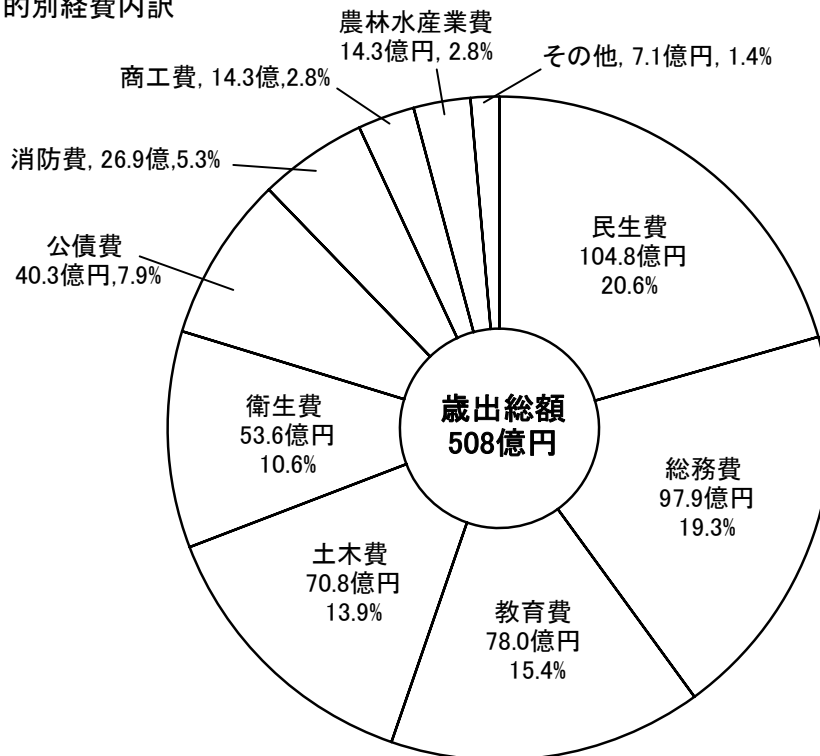
### ・ 目的別経費

歳出予算は道路や公園の整備（土木費）、生活保護や障がい者対策（民生費）、学校の建設（教育費）など行政目的ごとに分類されています。この分類により、本市の予算がどの分野にどれだけ配分されているかがわかります。

本市では、民生費、コミュニティ推進や空港周辺対策事業などの総務費、教育費、土木費が比較的大きな比重を占めています。

第16図は目的別経費の内訳、第18図（P-30）はその推移です。

第16図 目的別経費内訳



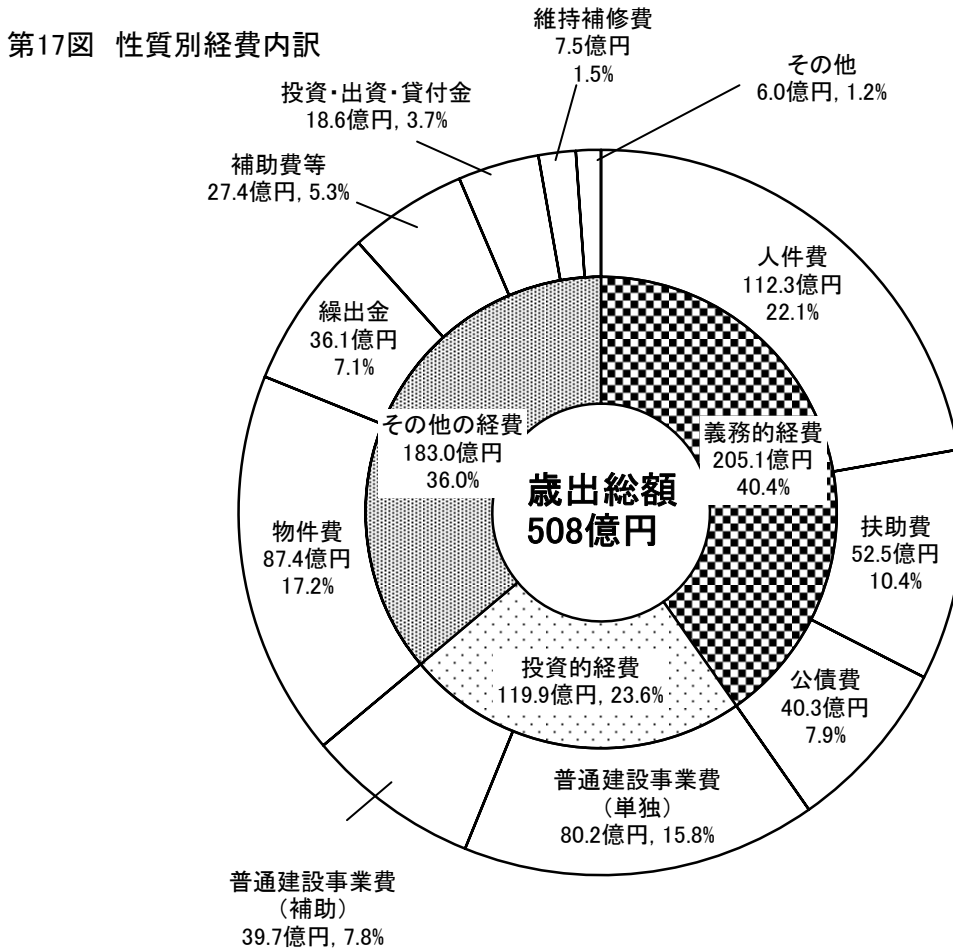
### 【用語解説】 目的別分類の内訳

目的別分類	説明
民生費	生活保護、障がい者対策、各種福祉手当、児童ホーム・保育所の管理・運営、交通防犯などのための経費。
総務費	市役所の管理・運営、徴税・戸籍関係事務、選挙、統計調査、国際交流・広報・市民相談、コミュニティの推進などのための経費。
教育費	小中学校・公民館・図書館・スポーツ施設・運動広場の建設・管理・運営、生涯学習の推進、文化財の保護などのための経費。
土木費	道路・橋・公園・河川の整備、都市計画・土地区画整理等のための経費。
衛生費	各種の健康診断、予防接種、環境対策、ごみ処理施設の管理などのための経費。
公債費	市債の元金と利息を返済するための経費。
消防費	防火・消火活動、救急・防災活動、消防車両の整備などのための経費。
その他	商工業の振興、観光活性化などのための商工費。農林水産業の振興、家畜の防疫、農道整備などのための農林水産業費。議会の活動のための議会費。雇用対策などのための労働費。

・ 性質別経費

歳出予算は、行政目的別だけでなく、職員給与や議員報酬などの人件費、生活保護や児童手当などの扶助費など、性質別に分類することもできます。また、この性質別分類では、支出が義務づけられている義務的経費（人件費、扶助費、公債費）、道路や公園整備などの投資的経費（普通建設事業費など）、その他の経費（物件費、維持補修費など）に区分することができます。この分類により財政構造がわかります。

第17図は性質別経費の内訳、第19図（P-30）はその推移です。



区分	説明
義務的経費	支出が義務づけられているため任意に節減できない経費で、人件費、扶助費、公債費が該当します。
投資的経費	道路、橋りょう、公園整備、学校建設など、支出の効果が資本形成に向けられる経費で、普通建設事業費、災害復旧事業費、失業対策事業費が該当します。
その他の経費	義務的経費および投資的経費以外の経費で、物件費、維持補修費、補助費等、繰出金、積立金、投資および出資金、貸付金等が該当します。

第8表は性質別経費の前年度比較です。合併により義務的経費・その他の経費については増加していますが、投資的経費については、大規模な学校建設や道路事業などの規模縮小・終了などにより減少しています。その他の経費の「補助費等」や「繰出金」の増加率が高いのは、合併により旧下総町・大栄町が加入していた組合等への負担金や「簡易水道事業会計」などの新たな特別会計への繰出金が発生したためです。

**第8表 性質別経費前年度比較表**

区分	平成18年度		平成17年度		増減額 千円	増減率 %	
	予算額 千円	構成比 %	予算額 千円	構成比 %			
義務的経費	人件費	11,237,257	22.1	9,073,630	20.9	2,163,627	23.8
	扶助費	5,249,872	10.4	4,064,361	9.4	1,185,511	29.2
	公債費	4,027,599	7.9	3,293,058	7.6	734,541	22.3
	小計	20,514,728	40.4	16,431,049	37.9	4,083,679	24.9
投資的経費	11,985,943	23.6	12,675,824	29.3	▲689,881	▲5.4	
その他の経費	物件費	8,735,181	17.2	7,545,568	17.4	1,189,613	15.8
	維持補修費	747,929	1.5	594,301	1.4	153,628	25.9
	補助費等	2,737,995	5.3	1,945,384	4.5	792,611	40.7
	繰出金	3,614,068	7.1	2,584,763	6.0	1,029,305	39.8
	投資・出資・貸付金	1,858,732	3.7	1,418,331	3.3	440,401	31.1
	その他	605,424	1.2	104,780	0.2	500,644	477.8
小計	18,299,329	36.0	14,193,127	32.8	4,106,202	28.9	
合計	50,800,000	100.0	43,300,000	100.0	7,500,000	17.3	

**【用語解説】 性質別分類の内訳**

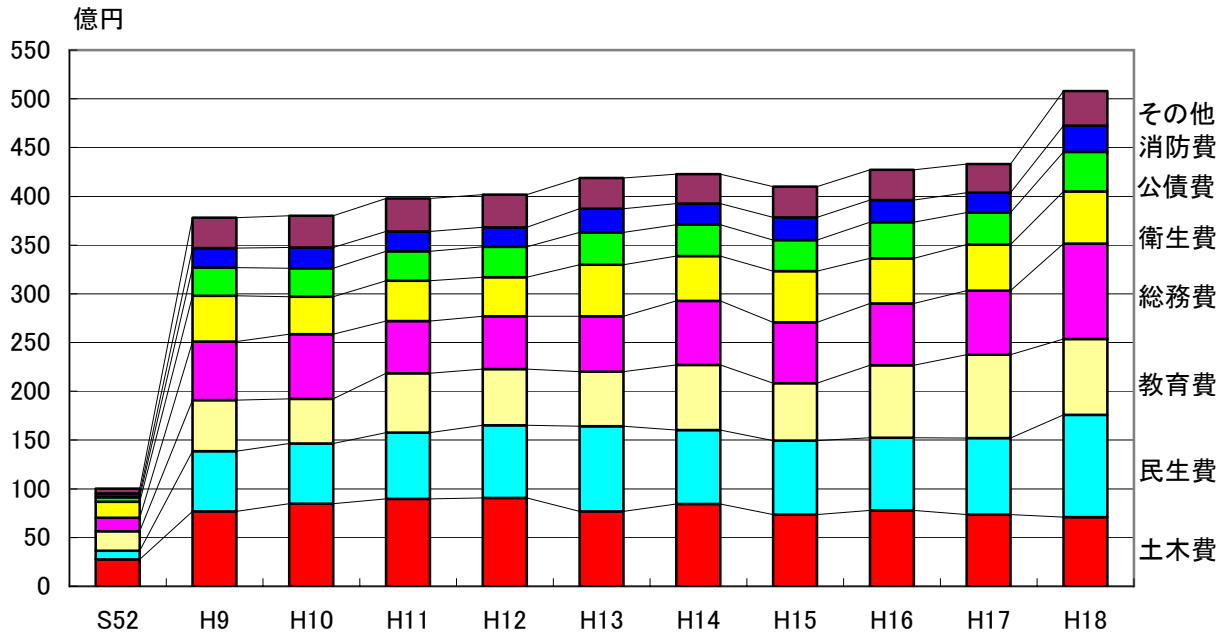
性質別分類	説明
人件費	職員給与、議員、特別職、各種委員会委員及び嘱託職員の報酬や社会保険料などのための経費。
扶助費	生活保護、高齢者福祉、障がい者福祉、児童福祉などのための経費。
公債費	市債の元金や利息を返済するための経費。
普通建設事業費	道路・橋・学校・公園などの整備や、これらの施設用地取得など、資本形成のための経費。
物件費	旅費、消耗品や備品の購入、施設の清掃等の管理・運営委託料、土地やコンピュータ機器の使用などのための経費。
繰出金	一般会計から国民健康保険事業や下水道事業などの特別会計へ繰出す経費。
補助費等	他団体への運営費補助金や負担金、自動車保険などの保険料、講習会などの講師謝礼などのための経費。
その他	積立金など。



## ○目的別経費推移

第18図は目的別経費の推移です。

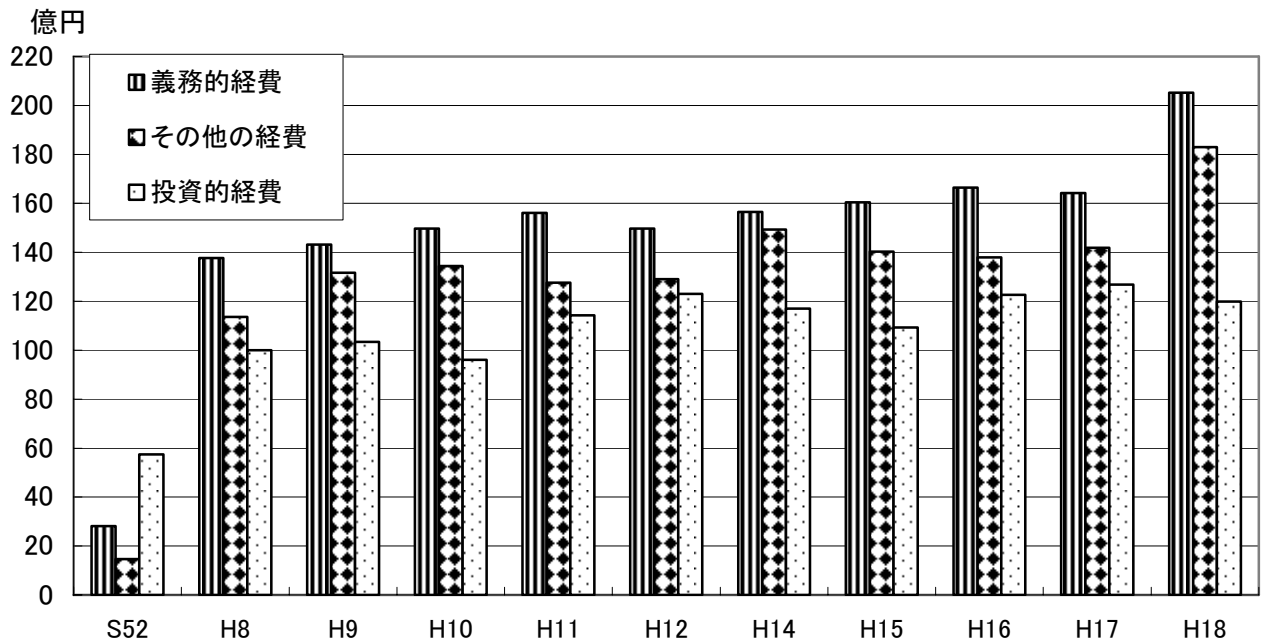
第18図 目的別経費推移



## ○性質別経費推移

第19図は性質別経費の推移です。

第19図 性質別経費推移



## ○1人当たりの予算額

平成18年度一般会計当初予算額は508億円です。平成18年3月31日現在の人口120,534人で予算額を割った「市民1人当たりに使われるお金」は421,458円となります。

 <p>民生費 86,990 円</p>	 <p>総務費 81,260 円</p>	 <p>教育費 64,715 円</p>
 <p>土木費 58,753 円</p>	 <p>衛生費 44,455 円</p>	 <p>公債費 33,415 円</p>
 <p>消防費 22,313 円</p>	 <p>商工費 11,857 円</p>	 <p>農林水産業費 11,825 円</p>
<p>その他 5,875 円</p>	<p>市民1人当たりに使われるお金 421,458 円</p>	

## ○歳出予算額の推移

### 第9表 歳出予算額推移

空港開港前と最近10年間の当初予算額（歳出）の推移です。

		S52年度	H9年度	H10年度	H11年度	H12年度	
歳出(目的別)	議会費	107,276	402,312	417,562	418,032	411,412	
	総務費	1,371,492	6,018,710	6,622,095	5,372,887	5,417,805	
	民生費	907,620	6,180,007	6,198,360	6,797,233	7,441,654	
	衛生費	1,656,395	4,681,054	3,830,184	4,115,722	4,031,437	
	労働費	0	53,171	57,180	55,659	55,131	
	農林水産業費	282,439	1,605,218	1,556,342	1,718,309	1,518,782	
	商工費	73,620	941,756	1,135,199	1,104,690	1,257,950	
	土木費	2,750,674	7,695,423	8,465,617	8,964,229	9,076,125	
	消防費	411,485	2,035,597	2,130,916	2,035,680	2,030,147	
	教育費	1,987,699	5,219,305	4,570,390	6,079,768	5,746,373	
	災害復旧費	1,370	2,000	2,000	2,000	2,000	
	公債費	453,928	2,880,912	2,928,145	3,030,767	3,099,674	
	諸支出金	1,000	4,535	6,010	5,024	1,510	
	予備費	20,000	100,000	100,000	100,000	100,000	
	目的別合計		10,024,998	37,820,000	38,020,000	39,800,000	40,190,000
歳出(性質別)	義務的経費	人件費	1,840,926	8,714,180	8,973,573	9,219,925	9,277,714
		扶助費	519,042	2,720,353	3,071,832	3,366,716	2,599,798
		公債費	453,895	2,880,258	2,927,643	3,030,361	3,099,479
		小計	2,813,863	14,314,791	14,973,048	15,617,002	14,976,991
	投資的経費	普通建設事業費(補助)	3,888,060	1,536,048	1,216,858	2,034,976	3,303,791
		普通建設事業費(単独)	1,859,338	8,805,186	8,383,662	9,390,747	8,998,411
		災害復旧事業費	1,370	2,000	2,000	2,000	2,000
		小計	5,748,768	10,343,234	9,602,520	11,427,723	12,304,202
	その他の経費	物件費	789,589	5,872,032	6,311,328	6,371,112	6,404,616
		維持補修費	94,161	489,343	503,481	518,992	506,103
		補助費等	184,476	1,915,544	1,759,367	1,831,458	1,742,744
		積立金	1,868	70,842	43,769	24,961	7,223
		投資及び出資金	1,420	1,331,861	1,658,873	439,262	298,654
		貸付金	14,600	450,000	500,000	600,000	800,000
		繰出金	356,253	2,932,353	2,567,614	2,869,490	3,049,467
予備費		20,000	100,000	100,000	100,000	100,000	
小計	1,462,367	13,161,975	13,444,432	12,755,275	12,908,807		
性質別合計		10,024,998	37,820,000	38,020,000	39,800,000	40,190,000	

(単位：千円)

H13 年度	H14 年度	H15 年度	H16 年度	H17 年度	H18 年度		
398,544	391,168	397,628	401,679	407,673	572,385	議会費	歳出(目的別)
5,687,428	6,572,010	6,232,409	6,363,669	6,552,138	9,794,607	総務費	
8,769,523	7,592,783	7,593,818	7,467,495	7,841,557	10,485,242	民生費	
5,294,228	4,591,582	5,269,400	4,608,093	4,724,507	5,358,409	衛生費	
50,877	45,468	39,650	39,032	38,811	33,682	労働費	
1,327,575	1,220,249	1,174,872	1,128,136	980,776	1,425,307	農林水産業費	
1,273,628	1,270,713	1,449,518	1,414,971	1,390,770	1,429,141	商工費	
7,672,605	8,455,650	7,363,697	7,774,851	7,355,787	7,081,705	土木費	
2,449,590	2,184,438	2,323,492	2,260,725	2,040,169	2,689,503	消防費	
5,568,607	6,653,495	5,867,034	7,420,702	8,572,722	7,800,389	教育費	
2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	災害復旧費	
3,304,785	3,220,351	3,186,478	3,718,643	3,293,058	4,027,599	公債費	
610	93	4	4	32	31	諸支出金	
100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	予備費	
41,900,000	42,300,000	41,000,000	42,700,000	43,300,000	50,800,000	目的別合計	
9,258,253	9,423,522	9,262,594	9,149,377	9,073,630	11,237,257	人件費	義務的経費
2,829,961	3,013,463	3,597,628	3,775,272	4,064,361	5,249,872	扶助費	
3,304,669	3,220,280	3,186,441	3,718,631	3,293,058	4,027,599	公債費	
15,392,883	15,657,265	16,046,663	16,643,280	16,431,049	20,514,728	小計	投資的経費
2,674,726	1,929,993	1,108,546	1,276,856	2,166,464	3,968,023	普通建設事業費(補助)	
10,682,101	9,773,245	9,814,882	10,986,360	10,507,360	8,015,920	普通建設事業費(単独)	
2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	災害復旧事業費	
13,358,827	11,705,238	10,925,428	12,265,216	12,675,824	11,985,943	小計	歳出(性質別)
6,662,521	6,999,681	7,344,022	7,515,188	7,545,568	8,735,181	物件費	
519,638	507,820	544,688	545,650	594,301	747,929	維持補修費	
1,763,642	2,090,352	1,883,845	1,924,788	1,945,384	2,737,995	補助費等	
309,111	1,966,175	502,027	2,028	4,780	505,424	積立金	
180,797	111,698	157,833	164,112	418,331	858,732	投資及び出資金	
800,000	800,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	貸付金	
2,812,581	2,361,771	2,495,494	2,539,738	2,584,763	3,614,068	繰出金	
100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000	予備費	
13,148,290	14,937,497	14,027,909	13,791,504	14,193,127	18,299,329	小計	
41,900,000	42,300,000	41,000,000	42,700,000	43,300,000	50,800,000	性質別合計	

### 第3節 特別会計・公営企業会計の当初予算

#### ○予算規模の推移

第10表 予算規模の推移

(単位：千円)

	S52	H8	H9	H10	H11	H12
国民健康保険(事業勘定)	975,646	3,551,296	3,858,089	3,824,423	4,200,466	4,788,473
うち一般会計繰入	10,000	657,851	779,932	683,891	856,946	991,388
国民健康保険(施設勘定)						
うち一般会計繰入						
下水道事業	572,127	3,418,075	3,549,891	3,875,990	3,578,403	3,540,805
うち一般会計繰入	133,828	1,433,566	1,519,076	1,258,572	1,416,209	1,140,757
公設地方卸売市場	157,550	443,984	478,652	446,957	420,721	414,541
うち一般会計繰入	51,637	241,512	273,905	232,813	204,727	205,829
老人保健		3,461,603	4,076,705	4,600,083	4,597,836	4,637,507
うち一般会計繰入		202,943	235,753	266,219	268,074	263,534
介護保険						2,213,639
うち一般会計繰入						310,313
学校給食センター	380,629					
うち一般会計繰入	157,102					
交通災害共済	12,833	32,713	32,352	29,800		
うち一般会計繰入	3,686	13,820	14,108	14,423		
水道事業会計	229,157	2,690,697	4,634,660	4,771,731	4,199,554	3,779,473
うち一般会計繰入						
農業集落排水事業						
うち一般会計繰入						
簡易水道事業						
うち一般会計繰入						
特別会計合計	2,327,942	13,598,368	16,630,349	17,548,984	16,996,980	19,374,438
うち一般会計繰入	356,253	2,549,692	2,822,774	2,455,918	2,745,956	2,911,821

	H13	H14	H15	H16	H17	H18
国民健康保険(事業勘定)	5,316,955	5,133,469	5,533,307	6,249,732	6,579,981	8,962,897
うち一般会計繰入	793,147	585,667	598,153	639,236	718,952	1,127,672
国民健康保険(施設勘定)					15,560	128,771
うち一般会計繰入						9,363
下水道事業	3,222,424	2,689,257	2,648,081	2,620,350	2,386,269	2,316,233
うち一般会計繰入	1,418,518	862,469	888,681	867,328	871,513	929,580
公設地方卸売市場	405,561	392,426	369,506	357,603	255,635	245,353
うち一般会計繰入	211,160	202,364	192,421	186,101	93,779	91,144
老人保健	4,670,728	4,732,539	4,865,417	4,647,592	4,522,005	6,130,093
うち一般会計繰入	250,998	254,003	306,218	297,398	323,026	475,301
介護保険	2,580,397	2,135,360	2,403,338	2,683,224	2,745,072	3,722,315
うち一般会計繰入	371,637	305,671	346,252	403,750	420,038	551,206
学校給食センター						
うち一般会計繰入						
交通災害共済						
うち一般会計繰入						
水道事業会計	2,344,610	2,254,977	2,607,089	2,334,061	2,529,297	3,282,605
うち一般会計繰入						
農業集落排水事業					210,436	668,605
うち一般会計繰入						131,443
簡易水道事業					1,386	1,415,634
うち一般会計繰入						
特別会計合計	18,540,675	17,338,028	18,426,738	18,892,562	19,245,641	26,872,506
うち一般会計繰入	3,045,460	2,210,174	2,331,725	2,393,813	2,427,308	3,315,709

※水道事業会計・簡易水道事業予算は、収益的支出と資本的支出の合計額です。

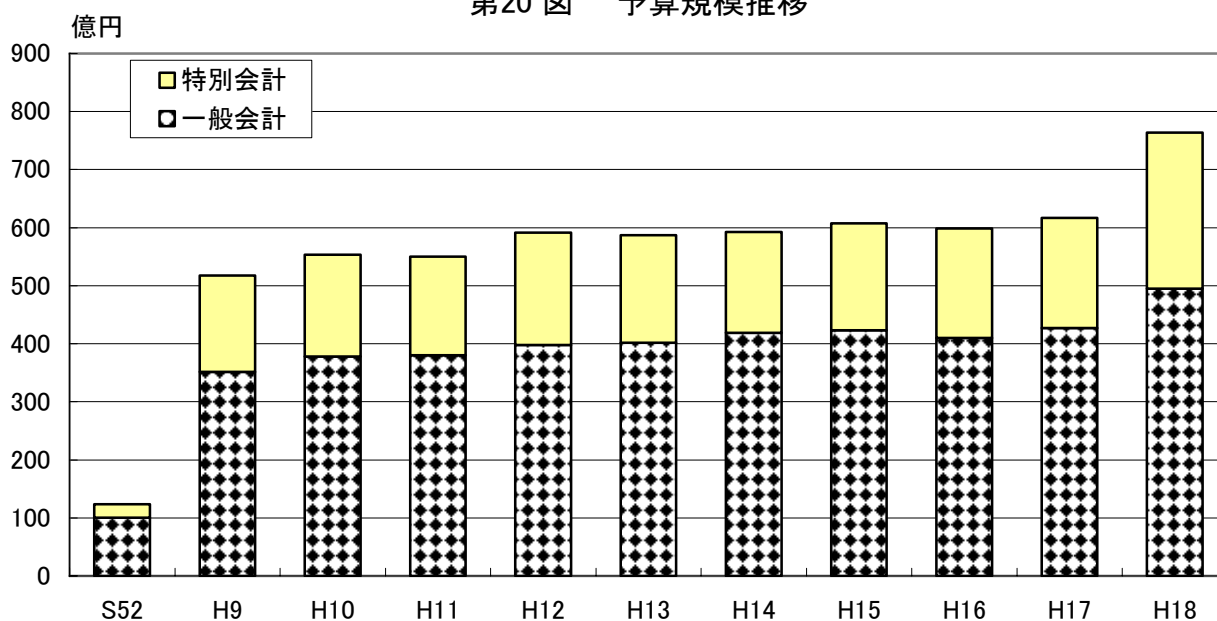
特別会計とは、特定事業を行う場合に一般会計と区分して経理する必要のあるときに設けることが出来る会計です。平成 18 年度は合併により新たに農業集落排水事業特別会計、簡易水道事業特別会計、並びに大栄診療所にかかる施設勘定が加わった国民健康保険特別会計など既存の会計、公営企業会計を含めると 8 つあります。

特別会計の予算は、市の予算総額の約 35% を占めており、一般会計からの繰入総額も平成 18 年度で 33 億 8 千万円計上されています。

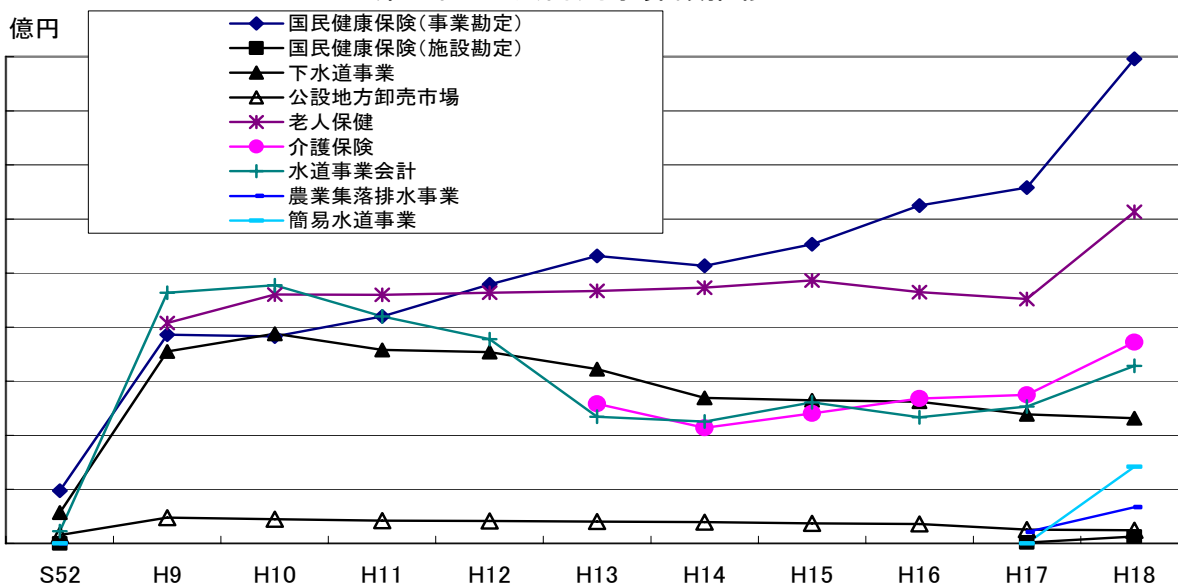
水道事業、下水道事業などはその性格から施設整備の状況により予算額が増減していますが、国民健康保険・介護保険などは被保険者の疾病・要介護度などに応じた保険給付の増大により増加傾向にあります。

第 20 図・第 21 図は、予算規模・会計別予算額の推移です。

第 20 図 予算規模推移



第 21 図 会計別予算額推移



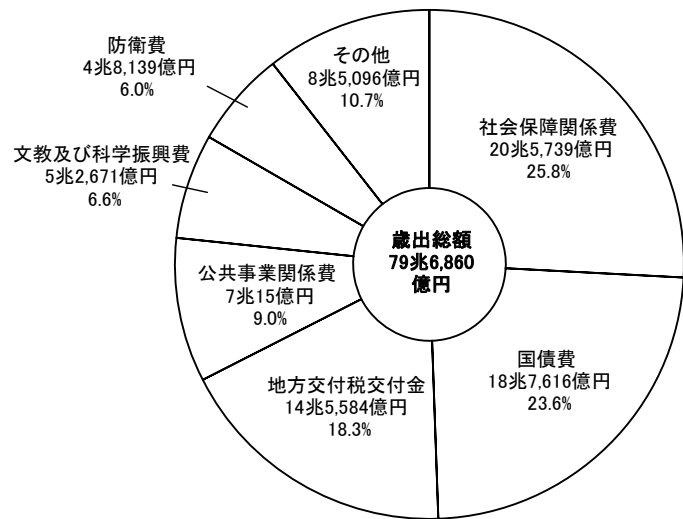
## 第4節 国と県の予算概要

### 1) 国の予算概要

平成18年度予算編成にあたっては、「2010年代の初頭における基礎的財政収支の黒字化」及び「デフレの克服、民需主導の持続的経済成長」の実現を念頭に置き、小さくて効率的な政府の実現に向け構造改革を一層推進するため、歳出改革を一層推進し、一般会計歳出および一般歳出の水準について、実質的に前年度水準以下に抑制してきた従来の歳出改革路線を堅持・強化することを基本的な考え方としました。

以上のような方針に基づき編成された、平成18年度の国の一般会計当初予算は79兆6,860億円となり前年度比2兆4,969億円、3.0%の減となっています。内訳は第22図のとおりです。

第22図 国の一般会計当初予算



### 2) 県の予算概要

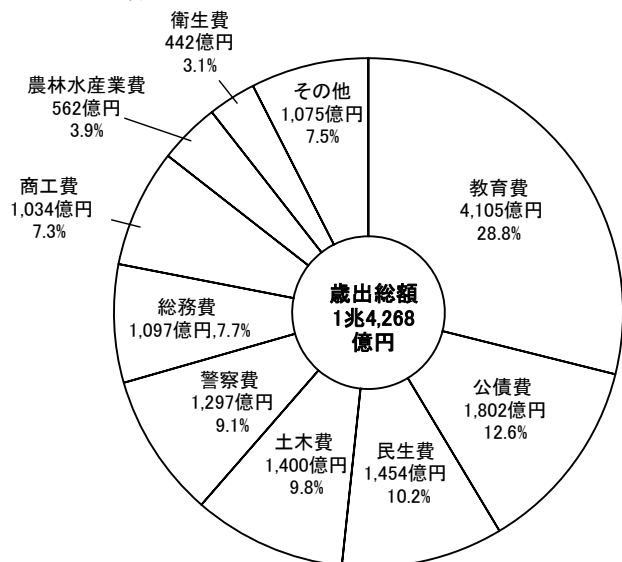
景気は回復基調にあり県税の増収は見込めるものの、現行制度では増収相当額が地方交付税交付額の減額という結果を招き、県の政策経費の財源は伸びず、依然として厳しい財政状況が続いています。

このようななか、以前から事務事業見直しや事業仕分け、枠配当の採用など、あらゆる方法で取り組んできた「財政の健全化」のより一層の推進

をはかるほか、限られた予算のなかで「持続する発展」を目指して市町村の自主性を高めるとともに民間企業や住民団体など幅広い主体との協働・連携を進め、そのポテンシャルを最大限に生かす仕組みづくりに取り組んでいきます。

以上のような状況のなかで編成された、平成18年度の県の一般会計予算の規模は、1兆4,268億2千万円となり、前年度(6月補正後)比2,967億5千万円、17.2%の減となっています。内訳は第23図のとおりです。

第23図 県の一般会計予算



### 3) 国と地方間の財源配分

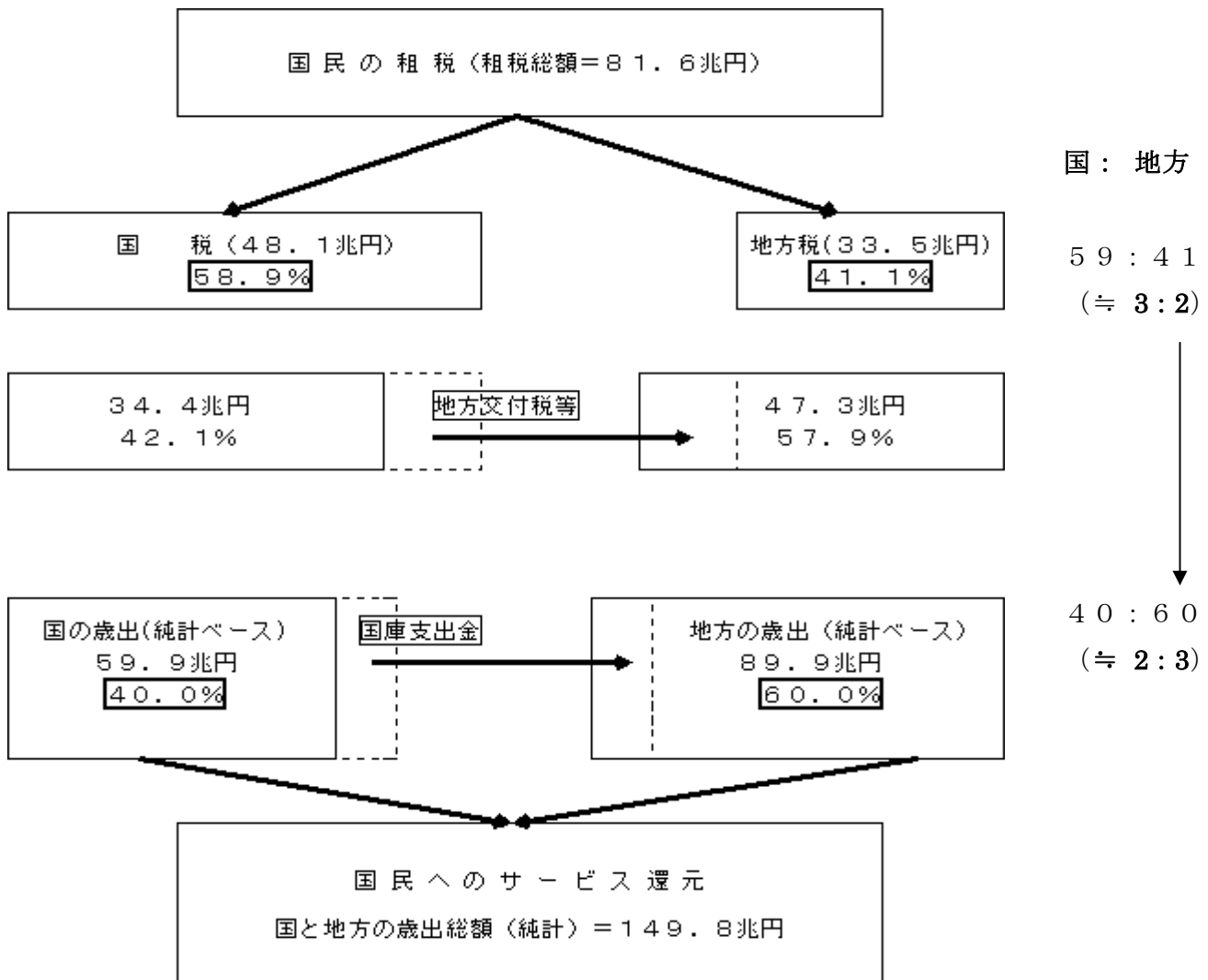
我が国の財政は、国民が負担する租税収入においては国と地方の比率は概ね3：2となっているのに対し、最終支出ベースでは国と地方の比率が概ね2：3となっており、最終支出と税源配分の間には大きな開きが存在しています。

これを16年度決算でみると、租税収入は全体で81.6兆円、内国税が48.1兆円、地方税が33.5兆円です。つまり、この段階で国と地方で概ね3：2の割合だったわけです。

一方、歳出ベースでは、地方交付税や国庫支出金等が地方へ配分されることによって、国の59.9兆円に対し、地方は89.9兆円となり、ここで国と地方の歳出規模は概ね2：3となるわけです。この財源移転のしくみを図解して説明したのが下の第24図です。

第24図 国から地方への財源移転のしくみ（平成16年度）

#### 国・地方の財源配分(平成16年度)



(注) 四捨五入の関係で合計と一致しない箇所があります。



## 平成17年度決算（見込み）

### 第1節 決算概要

#### 1) 会計別決算額

成田市の平成17年度の一般会計、特別会計7会計の歳入決算額は660億2,113万円で前年度比8.9%の増。歳出決算額は625億977万円で前年度比6.3%の増。歳入額から歳出額を差引いた形式収支は35億1,136万円。また、形式収支から翌年度へ繰越すべき財源を差引いた実質収支は27億8,258万円の黒字となりました。

さらに、水道事業会計の収入額を加えた歳入総額は680億8,342万円で前年度比8.8%の増、支出額を加えた歳出総額は649億7,866万円で前年度比6.5%の増となりました。

第11表 会計別決算総括表

(単位：千円)

		歳入総額 (収入総額)	歳出総額 (支出総額)	形式収支	繰越すべき 財源	実質収支
一般会計		48,226,114	45,765,032	2,461,082	727,379	1,733,703
特別 会計	国民健康保険（事業勘定）	7,228,425	6,697,111	531,314		531,314
	国民健康保険（施設勘定）	18,459	7,611	10,848		10,848
	下水道事業	2,338,007	2,272,096	65,911	1,401	64,510
	公設地方卸売市場	249,769	238,208	11,561		11,561
	老人保健	5,124,102	4,841,605	282,497		282,497
	介護保険	2,826,912	2,683,178	143,734		143,734
	農業集落排水事業	8,778	4,367	4,411		4,411
	簡易水道事業	560	560			
	小計	17,795,012	16,744,736	1,050,276	1,401	1,048,875
合計		66,021,126	62,509,768	3,511,358	728,780	2,782,578
水道事業 (公営企業)	収益的収支	1,895,479	1,616,207			
	資本的収支	166,811	852,680			
総計		68,083,416	64,978,655			

簡易水道事業は収益的収支と資本的収支の合算額です

#### 平成17年度における合併に伴う「決算」・「決算統計」について

成田市「決算」は年度途中で合併が行われたことで、合併後に旧下総町・大栄町より予算を引き継ぎ決算しました。ただし、旧下総町・大栄町の合併前日までの収支については、それぞれ打ち切り決算し、成田市の決算には含まれておりません。

一方、「決算統計」では、合併で消滅した団体の決算額は、新設又は編入した団体の歳入、歳出の決算額にそれぞれ合算して報告することになっており、決算統計においては、成田市の決算額に旧下総町・大栄町の決算額を加えたものになっています。

本書では、第3章のうち、1節「決算概要」～4節「旧下総町・大栄町の決算」の部分に関しては「決算」の数値指標を採用する一方、5節「財務分析」の部分は「決算統計」の数値を採用しています。

### 【用語解説】 公営企業会計

上下水道事業や市場事業などは、その事業の収入で支出を賄う独立採算を原則とする公営事業です。特に水道事業・簡易水道事業については、地方公営企業法の適用を受けているため他の特別会計とは違い、民間企業と同じように複式簿記で会計処理しています。（簡易水道事業は一部適用）

区分	水道事業会計の内容
収益的収支	水道料金を主な収入とした、営業活動の収支状況です。
資本的収支	市からの出資金や企業債を主な収入として、配水管の布設や改良事業を実施した収支状況です。

### 【用語解説】 繰越すべき財源

一会計年度から次の会計年度に持ち越した金額を繰越金といいます。繰越金は決算上の純粋な剰余金と、前年度から繰り越された歳出予算に充当しなければならない繰越金の2種類があり、後者を「繰越すべき財源」といいます。

### 【用語解説】 形式収支・実質収支

形式収支とは、単純にその年度の歳入決算額から歳出決算額を差引いたものです。概念的にはすでに債務が確定し、翌年度に支払うべき経費などを考慮しない収支差額になります。

これに対し、実質収支とは、発生主義の要素を加味して実質的な財政収支の結果を明らかにするもので、形式収支から翌年度に繰越すべき財源を控除した決算額のことをいいます。

### 【用語解説】 決算統計

決算統計とは、地方財政に関する最も基本的な統計調査である「地方財政状況調査」のことを言います。地方公共団体の決算状況を統一ルールに基づいて調査、集計した基礎的な統計のことで、普通会計と公営事業会計に分かれています。



## 第2節 一般会計決算

### (1) 決算規模

成田市の一般会計決算は第12表のとおり、歳入が前年度比10.1%増の482億2,611万円、歳出は8.1%増の457億6,503万円となりました。

形式収支は24億6,108万円、実質収支は17億3,370万円の黒字となりました。

第25図は、成田空港開港前(開港は53年5月)と最近10年間の決算額の推移です。

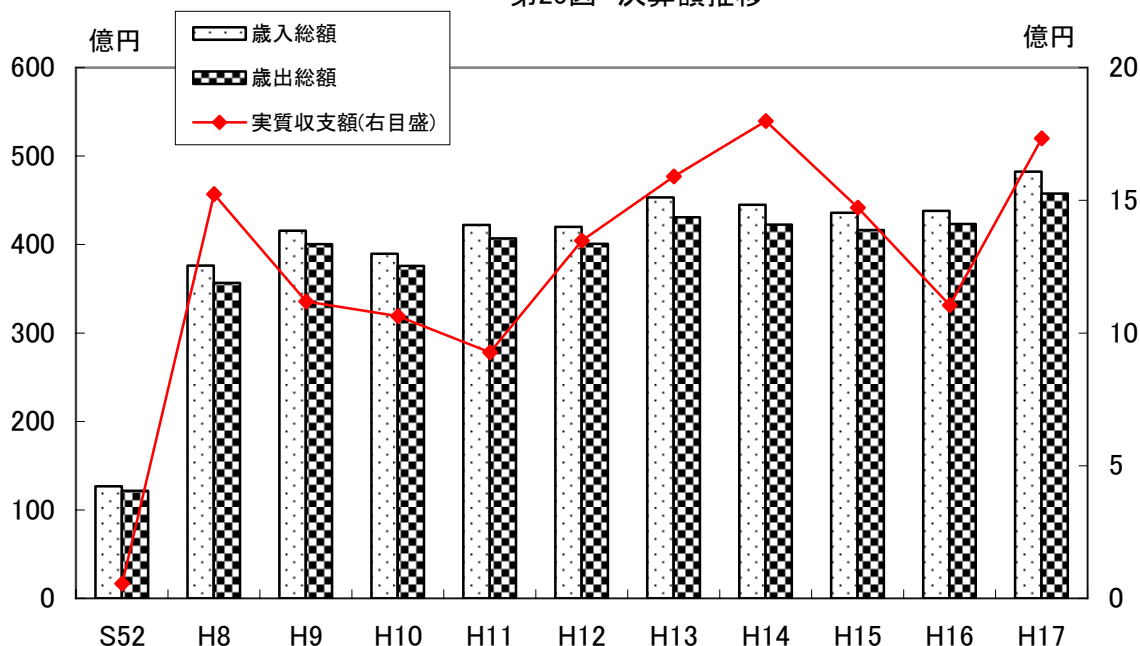
第26図、第27図は、歳入歳出の目的別内訳です。

第12表 一般会計決算額

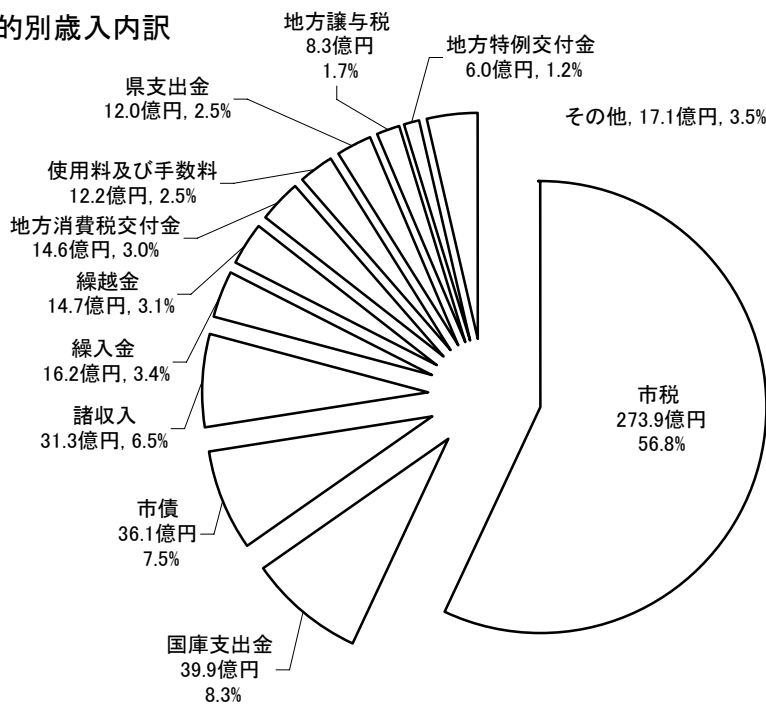
(単位：千円)

	H17	H16	増減額	増減率
歳入総額	48,226,114	43,817,557	4,408,557	10.1%
歳出総額	45,765,032	42,342,726	3,422,306	8.1%
形式収支	2,461,082	1,474,831	986,251	66.9%
繰越財源	727,379	370,332	357,047	96.4%
実質収支	1,733,703	1,104,499	629,204	57.0%

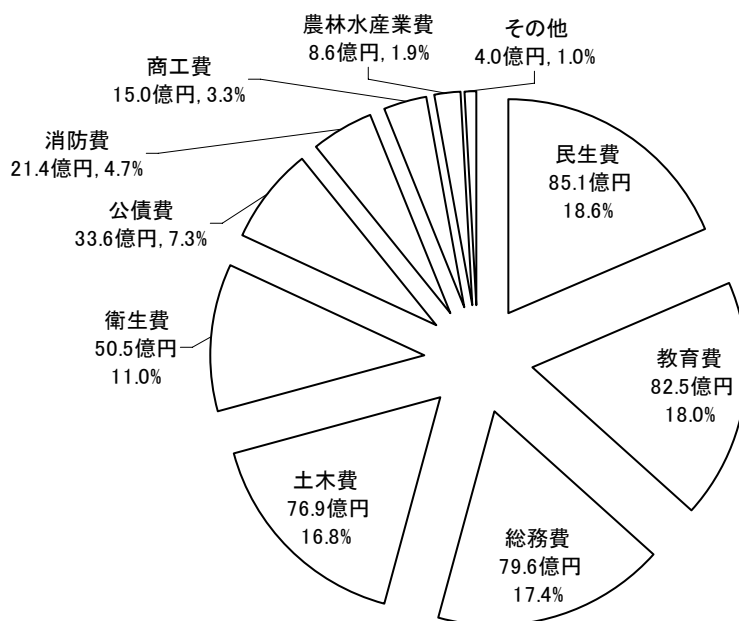
第25図 決算額推移



第26図 目的別歳入内訳



第27図 目的別歳出内訳



### 【用語解説】普通会計とは

普通会計とは、地方公共団体間の一般会計、特別会計の区分を統一し、比較できるようにした会計区分です。

各地方公共団体は、それぞれ独自に一般会計や特別会計の範囲を定めており、財政規模やその内容の比較をする場合などには、同じ基準で整理することが必要となります。そこで、地方財政統計上の統一的な会計区分として普通会計という概念が用いられています。

成田市では、「一般会計」のみがその範囲です。(昭和63年度で廃止された学校給食センター特別会計が普通会計の範囲に含まれていました。)

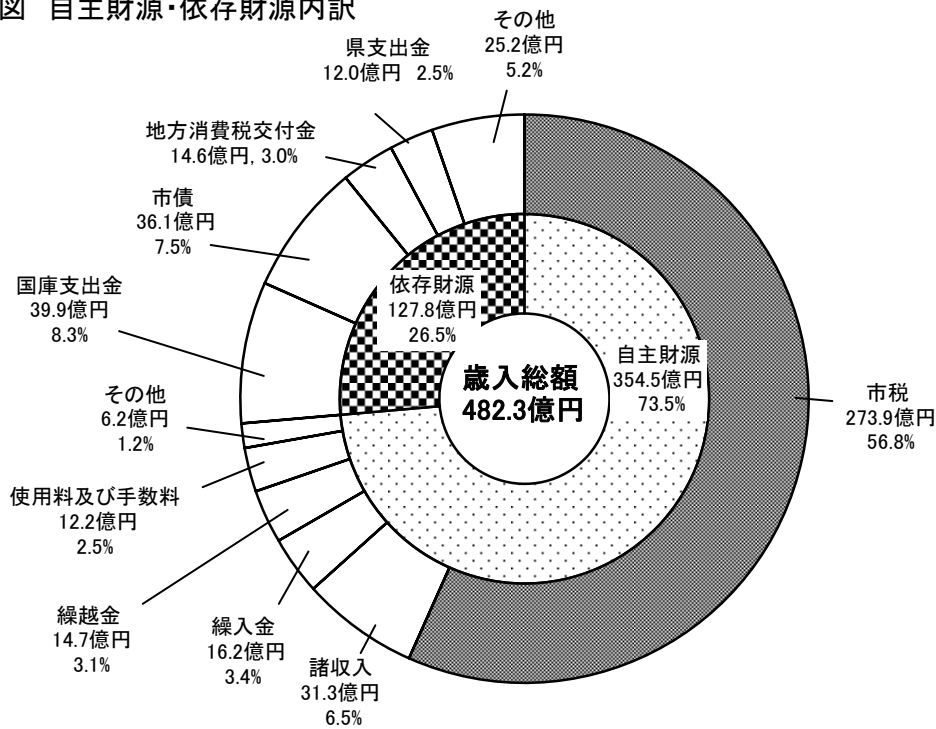
## 2) 歳入の概要

### ○自主財源・依存財源

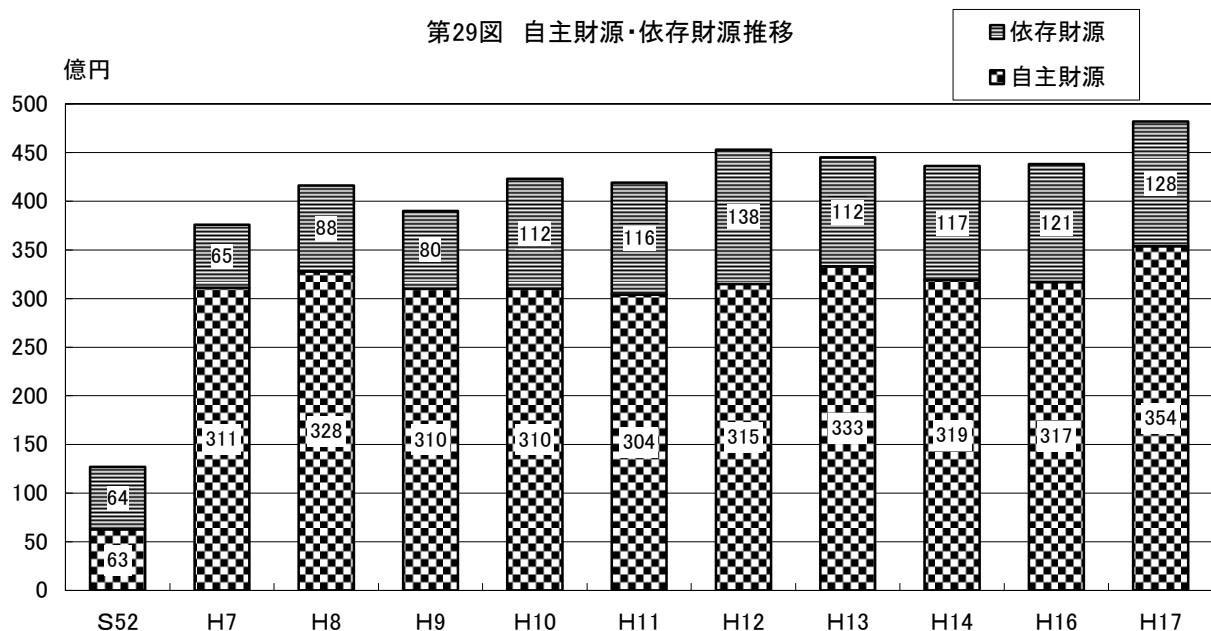
第28図は歳入の内訳、第29図は自主財源・依存財源の推移です。自主、自立的な行政活動をするためには自主財源の割合が高い方が望ましいといわれます。平成17年度決算での自主財源は73.5%と高く、その中でも市税が3/4以上を占めています。

また、その傾向をみると自主財源は比較的安定的に推移しているのに比べ、依存財源の変動が大きいのがわかりますが、これは、年度毎の事業規模に応じ国・県支出金や市債などが増減するためです。

第28図 自主財源・依存財源内訳



第29図 自主財源・依存財源推移



## ○市税

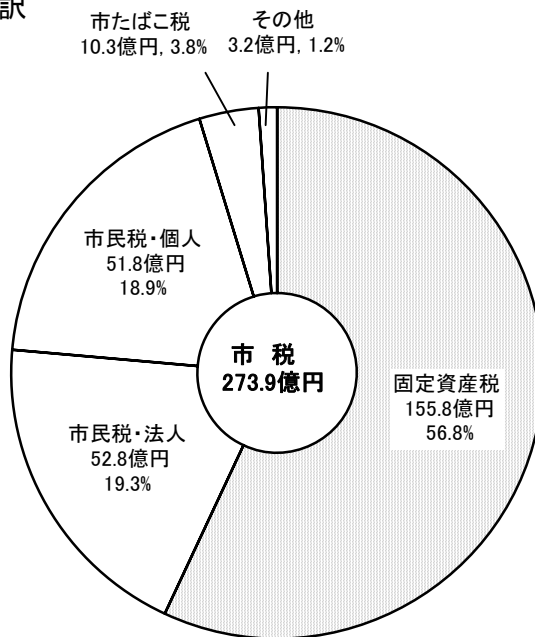
歳入の根幹をなす市税の平成17年度決算額は273億9千万円で、歳入全体の56.8%を占めています。その中でも固定資産税の比重が高く市税に占める割合は56.8%です。これは成田国際空港、及びそれに関連する法人等からの税収が多いことに起因しています。平成16年度決算に係る県内市全体の構成比と比較してもその高さがわかります。固定資産税は、普遍性、安定性が他の税目よりあるといわれており、安定した財政運営ができることとなります。

第30図、31図は市税の内訳等です。

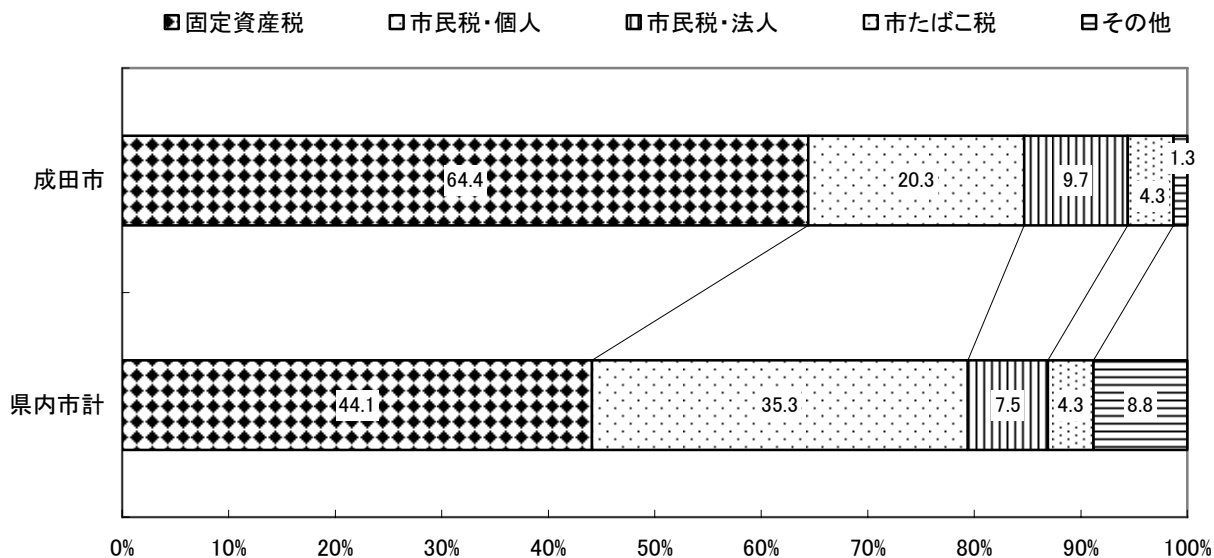
第32図(P-46)市税の推移を見ると平成10年度に落ち込み、その後微増傾向が続き14年度以降は減少していましたが17年度は大規模な空港関連企業の法人市民税課税などの要因により増加しています。

市民税は景気対策として実施された大規模特別減税や恒久的減税による影響が大きく、また固定資産税はここ数年は評価替え及び大規模償却資産に対する県課税の発生などの要因で減少傾向にありましたが、平成17年度は微増で推移しています。

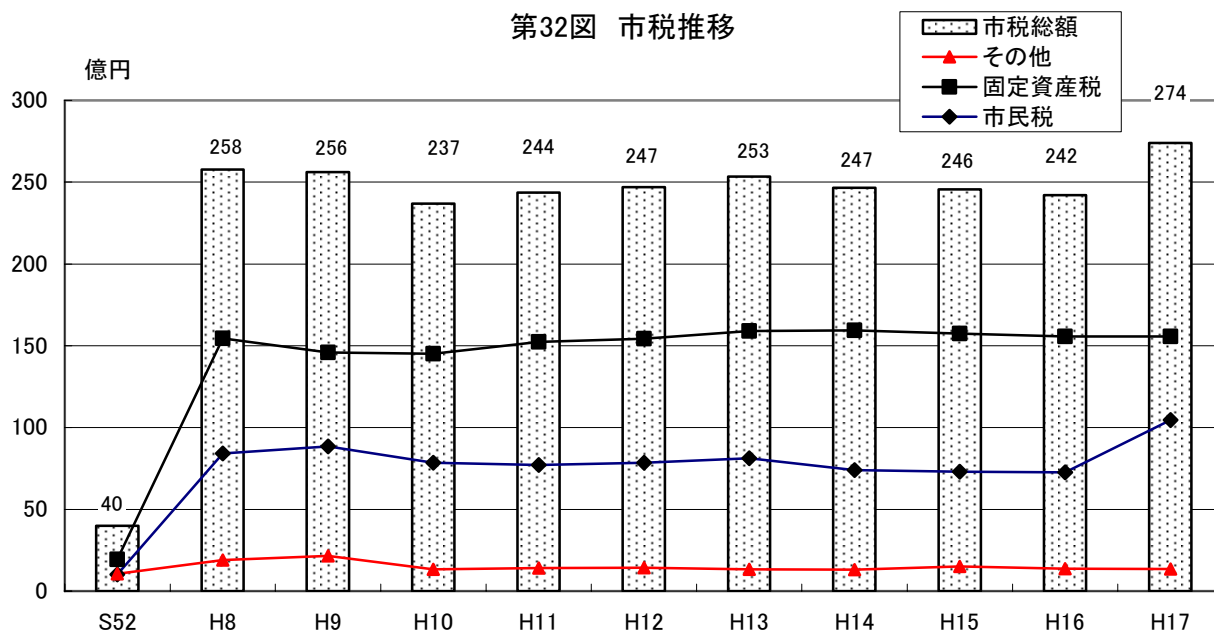
第30図 市税内訳



第31図 市税構成割合比較(16年度決算)



第32図 市税推移



第13表 市税推移

(単位：千円)

年度	S52	-	H8	H9	H10	H11
市民税	1,018,905	-	8,419,567	8,858,851	7,850,245	7,724,112
個人	747,372	-	5,567,213	6,257,528	5,427,391	5,349,867
法人	271,533	-	2,852,354	2,601,323	2,422,854	2,374,245
固定資産税	1,930,446	-	15,454,202	14,597,102	14,512,915	15,232,069
軽自動車税	17,612	-	70,232	73,597	76,191	79,753
市たばこ税	193,275	-	728,429	873,647	861,631	926,193
鉱産税	132	-	485	480	469	473
特別土地保有税	593,617	-	912,328	1,013,880	205,706	203,367
都市計画税	121,167	-	187,169	187,327	193,151	199,029
その他	127,187	-				
合計	4,002,341	-	25,772,412	25,604,884	23,700,308	24,364,996

年度	H12	H13	H14	H15	H16	H17
市民税	7,847,147	8,119,455	7,398,335	7,303,307	7,272,797	10,460,481
個人	5,315,832	5,217,932	5,418,753	5,064,226	4,919,551	5,180,761
法人	2,531,315	2,901,523	1,979,582	2,239,081	2,353,246	5,279,720
固定資産税	15,428,615	15,897,318	15,937,236	15,740,544	15,574,615	15,575,842
軽自動車税	84,113	88,723	93,897	96,263	101,171	106,409
市たばこ税	941,176	947,571	943,123	993,059	1,043,132	1,032,555
鉱産税	494	485	522	446	466	463
特別土地保有税	200,477	88,184	80,186	231,314	26,239	19,361
都市計画税	196,988	204,051	203,542	189,68	192,891	194,696
その他						
合計	24,699,010	25,345,787	24,656,841	24,554,617	24,211,311	27,389,807



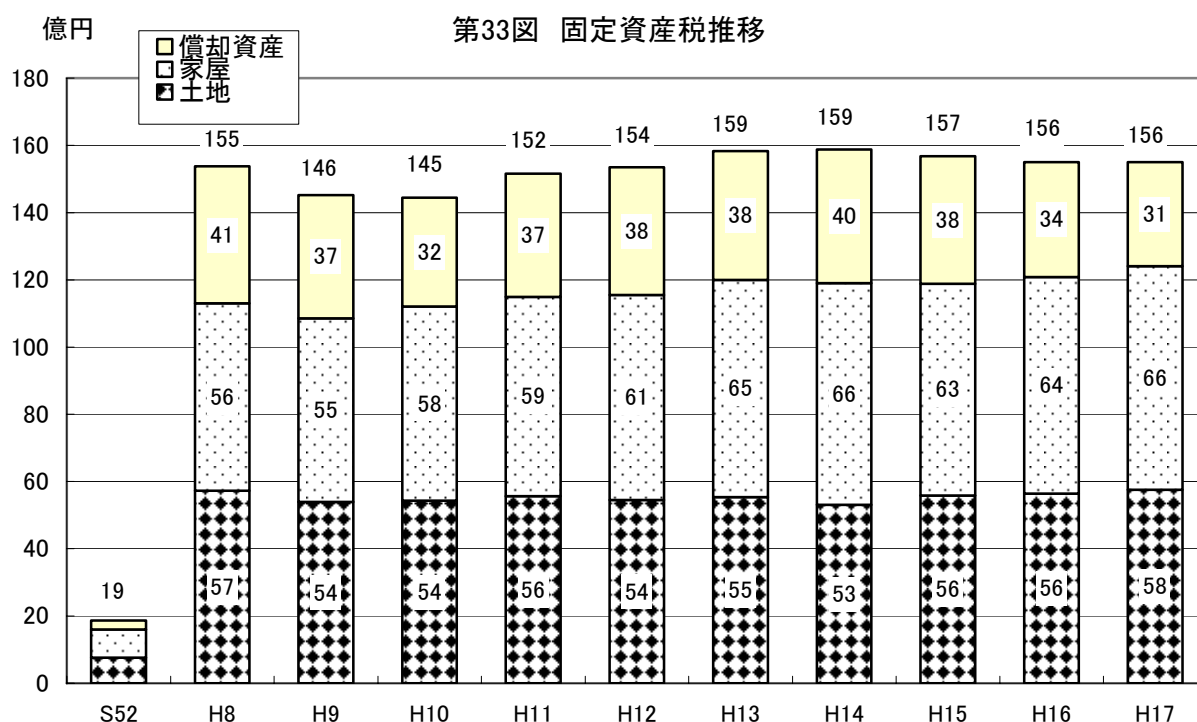
## ・固定資産税

固定資産税は平成9年度・10年度に一旦下落後は微増傾向にありましたが、14年度をピークに減少し、17年度は微増で推移しました。第33図は固定資産税の推移です。

土地については、8年度まで、評価額の上昇から税負担が急激な上昇となった場合などには、税額の上昇がなだらかになるような負担調整措置がとられました。しかし、9年度以降は、地価下落を反映した評価替えや税負担の引き下げ据置などが行われたため、土地区画整理事業の進捗など増加要因があるものの、ほぼ横ばいで推移しています。15年度は、暫定平行滑走路の供用開始に伴い増加しています。

家屋については、9年度には建築資材費の下落等を反映した評価替えにより減少しています。その後、土地区画整理事業の進捗、ホテルや大規模店舗の新增築などにより、増加傾向にありますが、15年度は、評価替えに伴い減少しました。

償却資産については、企業の設備投資の動向により伸び率も増減しています。15年度以降は大規模償却資産に対する県課税が発生したため、減少しています。



固定資産税にはこの他、国有資産所在市町村交付金が0.5～0.8億円あるため、各項目の合計値が一致しません。

### 【用語解説】固定資産税の評価替え

土地・家屋の評価額については、3年ごとに新たな価格へ評価替えが行われます。この評価替えの年を基準年度といい、この年度に決定した価格は原則として3年間据え置かれます。次の基準年度は平成18年度です。

#### ※ 土地の価格の修正

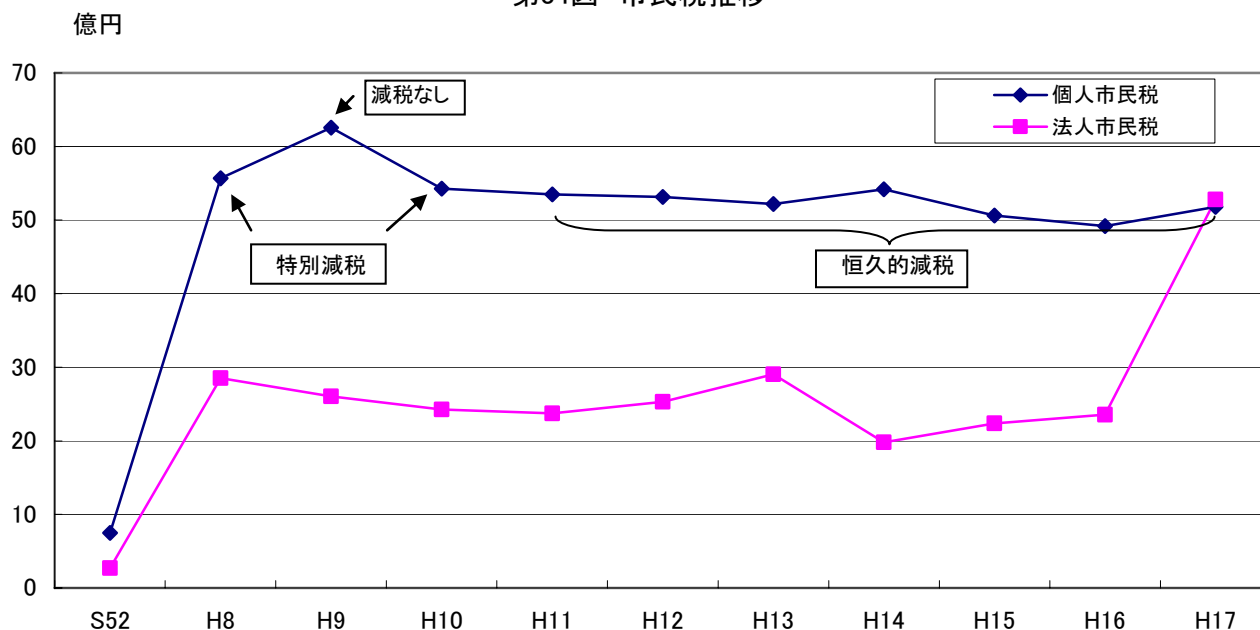
土地の価格は原則として基準年度の価格を3年間据え置きますが、平成15年度の税制改正により、平成16年度・17年度において地価の下落があり、価格を据え置くことが適当でないときは、価格を修正できることとなりました。

## ・ 市民税

個人市民税は、平成9年度をピークに減少傾向にあります。これは、景気低迷による影響と景気対策のために特別減税が実施されたことによります。9年度は減税がなく税収は増加しましたが、10年度に特別減税が実施され、11年度以降は恒久的減税が実施されています。

法人市民税は、景気の変動に影響されやすい税で、バブル崩壊後は増減を繰り返しています。15年度以降は企業収益が回復基調にあることから増加に転じ、特に17年度は大規模な空港関連企業への法人市民税課税などの要因もあって法人市民税の伸びが著しく、個人市民税をしのぐ水準となっています。第34図は市民税の推移です。

第34図 市民税推移



### 【用語解説】特別減税・恒久的減税

平成6、7、8年度及び10年度には、景気対策の観点からそれぞれ単年度限りの政策として「特別減税」が実施されました。11年度以降はこれまでの減税と異なり、平成18年度まで「恒久的減税」が実施されています。下表はその主な内容です。

	年度	減税方式	控除率	控除限度額
特別減税	6	定率	20%	20万円
	7～8	定率	15%	2万円
	10	定額	本人 17,000円、扶養親族 8,500円/人	
恒久的減税	11～17	定率	15%	4万円

※16年度は「恒久的減税」のほか、臨時的に「先行減税」の実施もあり

### 【用語解説】償却資産に対する課税の特例

本来、固定資産税は市町村税ですが、大規模償却資産（構築物、機械など）については、市町村財政のバランス上、市町村の課税限度額が法律で定められています。この限度額を超える部分については課税の特例として県が課税することになっています。

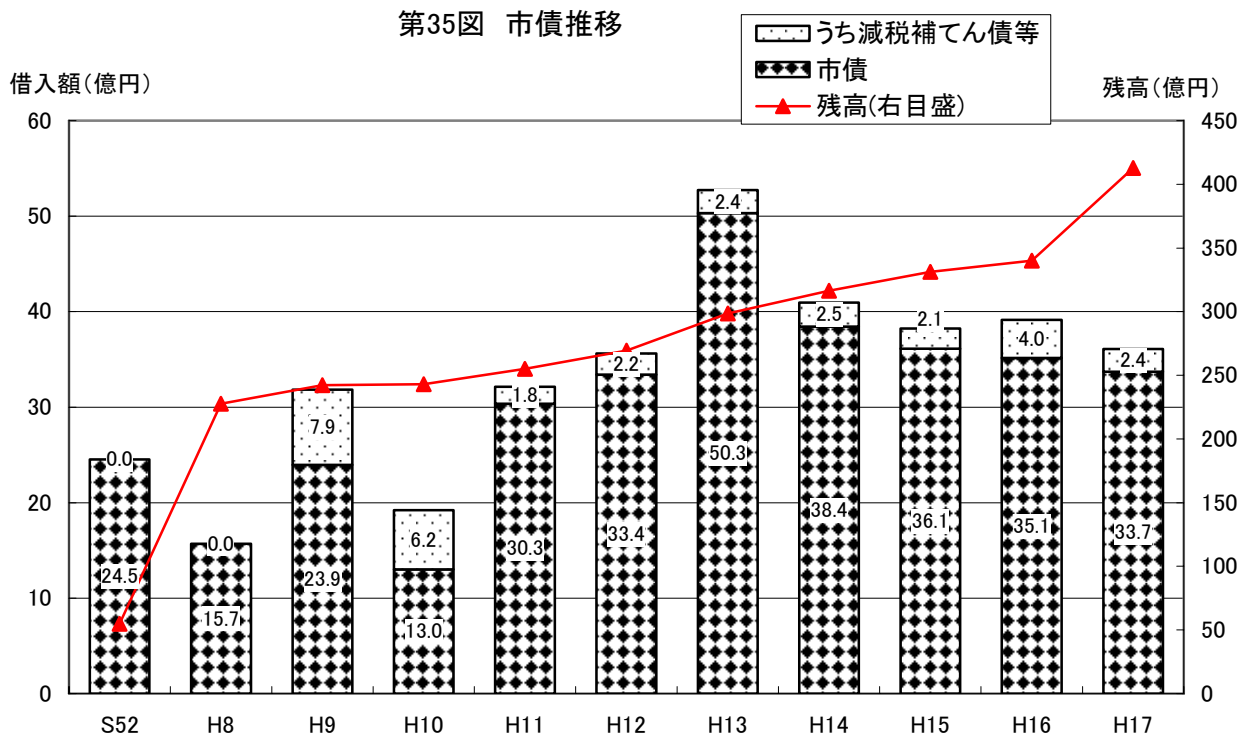
大規模償却資産は法律で定める一定額以上の償却資産で人口規模により異なります。

## ○市債

平成 17 年度の市債借入額は 36 億 1 千万円です。主なものとしては、郷部線整備事業債で 4 億 5 千万円、公津の杜小学校建設事業債で 5 億 2 千万円、久住中学校用地事業債で 5 億 1 千万円などがあり、市民生活に密着した公共施設整備を進めています。

なお、借入額は対前年度比 3 億 1 千万円 (7.8%) の減となりました。市債残高は施設整備に伴い増えたものに加え、合併に伴う旧下総・大栄町などからのものもあり、17 年度末で 412 億 7 千万円となり、前年より 72 億 5 千万円増加しました。

第 35 図は市債の推移です。



### 【用語解説】減税補てん債

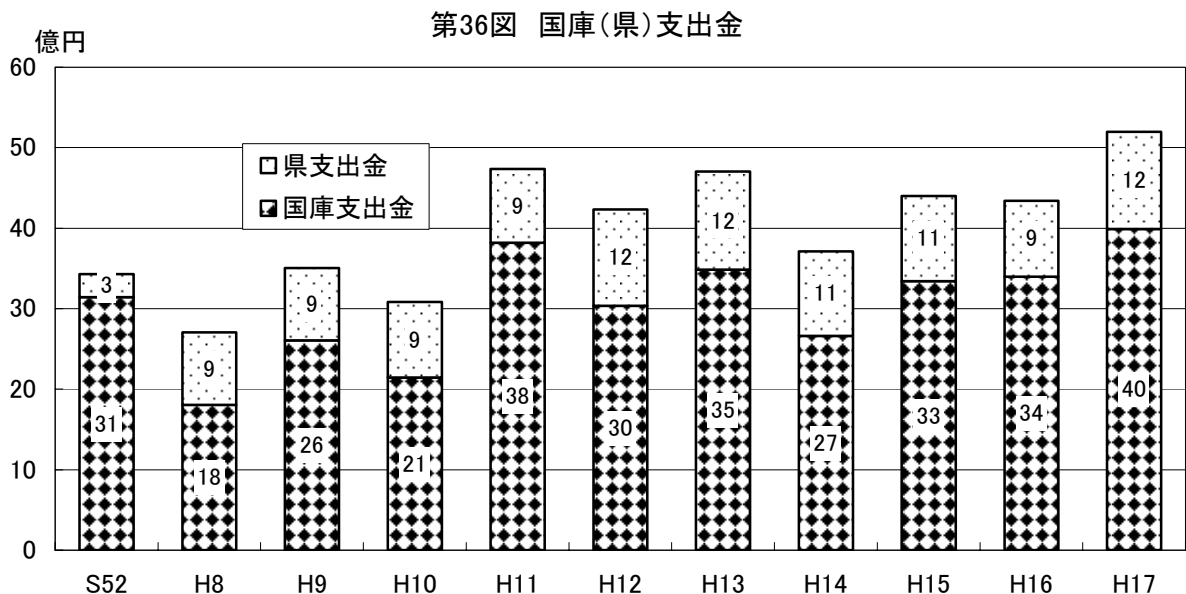
減税補てん債とは、国の減税政策により個人住民税などの減税が実施された場合、その減収額を埋めるために借入れする地方債です。平成 7 年度及び 10～17 年度に発行しています。11 年度からは恒久的減税に伴う地方税の代替的な財源として、地方特例交付金が創設され、減収額の 3/4 (たばこ税の増収分は控除) が交付されており、残りの 1/4 を減税補てん債で賄っています。このため、11 年度以降の減税補てん債の額は減少していましたが、16 年度は先行減税分が増えています。

## ○その他の歳入

### ・国庫（県）支出金

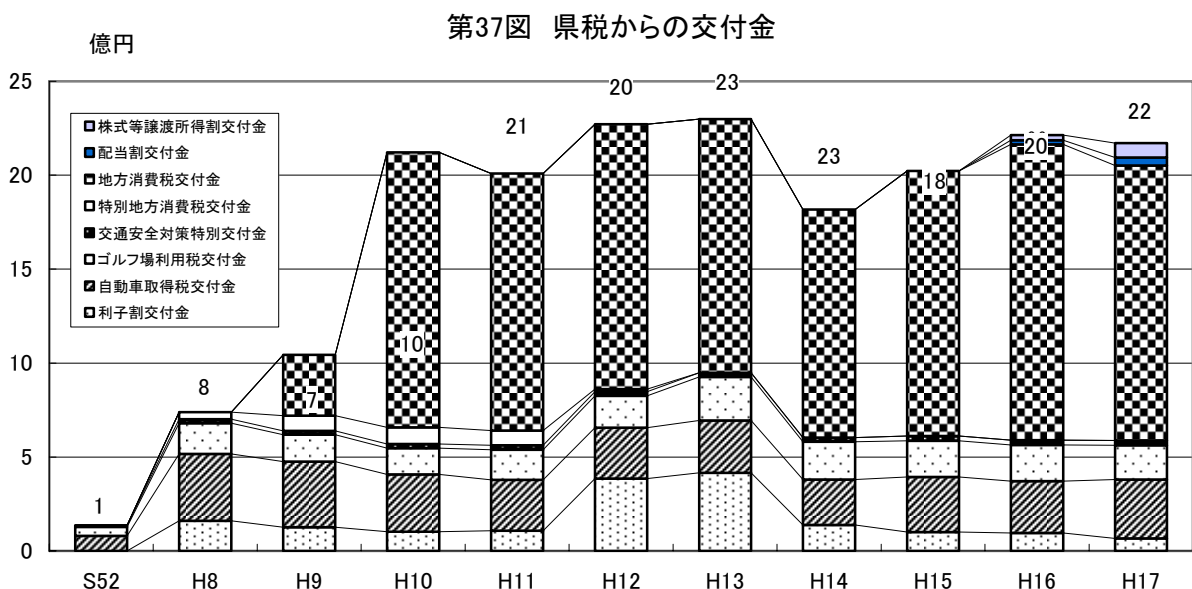
国庫（県）支出金は、毎年度の事業規模に応じ増減します。17年度は51億9千万円で、対前年比8億5千万円（19.6%）増となりました。これは、公津の杜小学校建設事業費負担・補助金で2億円増、美郷台小学校建設事業費負担金で1億6千万円増、久住中学校建設事業費負担金で8千万円増など、学校建設に関する事業費に対する負担金・補助金の増が主な要因です。桜田小学校屋内運動場増改築事業費負担金の6千万円増など、一部合併前の旧下総町・大栄町の事業に対するものも含まれます。

第36図は国庫（県）支出金の推移です。



### ・県税からの交付金

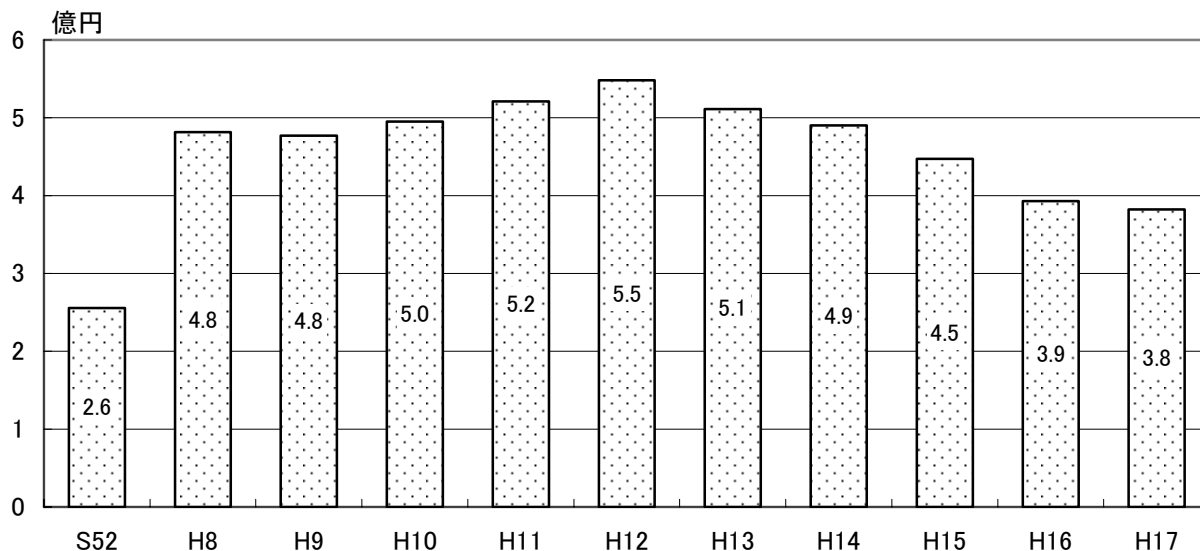
第37図は、県税からの交付金の推移です。



## ・ 地方交付税

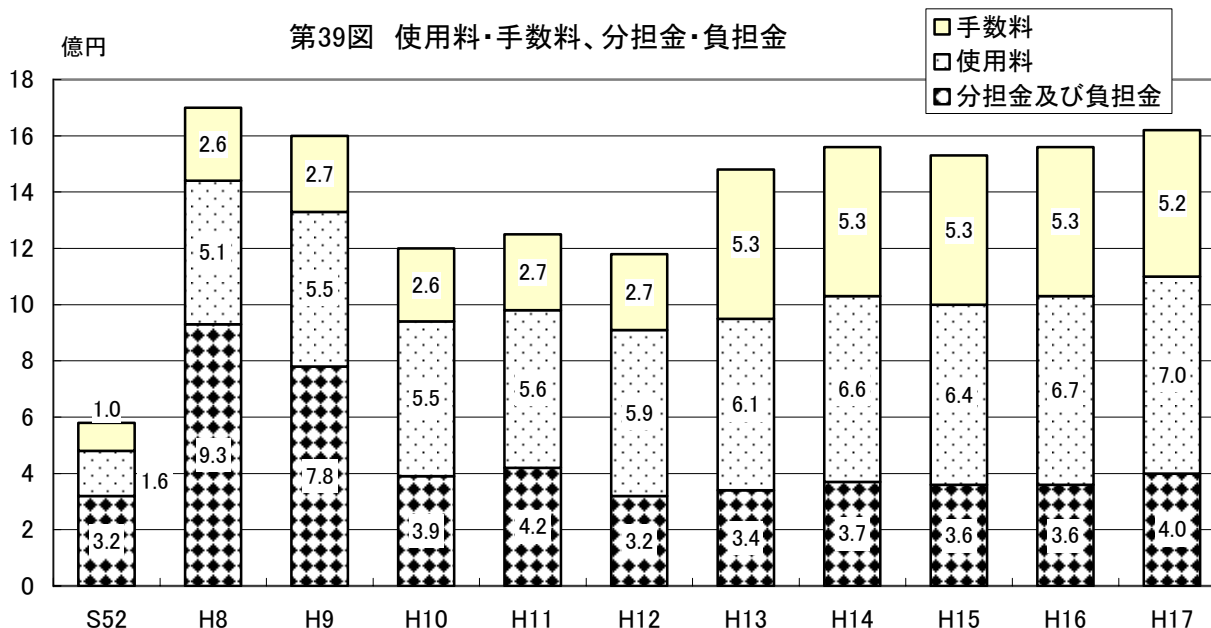
普通地方交付税は、地方公共団体の財政力に応じて交付されますが、成田市は財政力が強いので交付されません。特別地方交付税は、災害や地域固有の特殊な財政事情などにより交付されます。成田市では、航空機騒音の防止対策や空港周辺整備などの特殊な財政需要があるため、交付されています。第 38 図は特別地方交付税の推移です。

第38図 特別地方交付税



## ・ 使用料・手数料、分担金・負担金

使用料は、公の施設の利用等の対価としてその利用者に負担してもらうもので、市営住宅使用料などがあります。また、手数料は、特定の人のために行うサービスに対して必要な経費を負担してもらうもので、ごみ処理手数料や各種証明書の交付手数料などです。平成 13 年度は、ごみ処理手数料の改正があったため、倍増しています。その他に、特定の利益を受けた人に負担していただく、分担金・負担金があります。第 39 図は使用料・手数料、分担金・負担金の推移です。



## ○歳入決算額の推移

空港開港前と最近10年間の決算額（歳入）の推移です。

第14表 歳入決算額推移

		S52年度	H8年度	H9年度	H10年度	H11年度	
自主財源	市税	4,002,341	25,772,412	25,604,884	23,700,308	24,364,996	
	その他	諸収入	838,617	1,565,756	1,562,484	1,919,795	2,275,560
		分担金及び負担金	318,354	927,229	783,572	386,431	424,570
		使用料及び手数料	261,104	769,113	818,705	810,796	829,311
		財産収入	632,165	309,574	293,511	189,312	241,638
		繰越金	243,916	1,444,612	1,967,035	1,511,529	1,374,037
		繰入金	0	259,984	1,676,977	2,422,546	1,276,820
		寄附金	12,419	71,460	50,644	9,886	164,646
	計	2,306,575	5,347,728	7,152,928	7,250,295	6,586,582	
	合計	6,308,916	31,120,140	32,757,812	30,950,603	30,951,578	
依存財源	国庫支出金	国庫支出金	3,142,337	1,807,145	2,607,512	2,144,527	3,820,563
		県支出金	288,715	899,902	897,173	938,940	913,665
		計	3,431,052	2,707,047	3,504,685	3,083,467	4,734,228
	市債	2,451,400	1,569,700	3,182,600	1,920,180	3,211,520	
	その他	地方消費税交付金			323,748	1,463,778	1,367,585
		地方特例交付金					392,617
		地方交付税	255,538	481,490	476,879	495,006	521,074
		地方譲与税	96,773	1,014,406	611,557	391,013	391,123
		自動車取得税交付金	80,533	356,193	350,255	305,430	271,335
		ゴルフ場利用税交付金	47,095	164,306	143,256	140,424	159,450
		利子割交付金	0	160,166	125,881	101,937	107,935
		配当割交付金					
		株式等譲渡所得割交付金					
		交通安全対策特別交付金	8,418	20,202	20,743	21,903	23,884
		特別地方消費税交付金	0	37,052	80,067	87,882	79,012
	計	488,357	2,233,815	2,132,386	3,007,373	3,314,015	
	合計	6,370,809	6,510,562	8,819,671	8,011,020	11,259,763	
総計	12,679,725	37,630,702	41,577,483	38,961,623	42,211,341		

決算統計の区分・金額により表記してあるため、決算書とは数値が異なります。

(単位：千円)

H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度		
24,699,010	25,345,787	24,656,841	24,554,617	24,211,311	27,389,807	市税	自主財源 その他
2,611,992	2,504,285	3,590,450	2,727,310	2,949,506	3,130,366	諸収入	
317,777	338,469	367,289	356,626	363,272	397,599	分担金及び負担金	
863,282	1,142,177	1,194,912	1,165,369	1,202,308	1,218,195	使用料及び手数料	
207,141	115,810	921,110	238,880	101,820	185,087	財産収入	
1,527,381	1,938,208	2,256,256	2,248,411	1,977,651	1,474,831	繰越金	
189,050	154,317	328,377	635,662	918,490	1,615,535	繰入金	
8,264	6,684	5,612	3,770	23,479	33,370	寄附金	
5,724,887	6,199,950	8,664,006	7,376,028	7,536,526	8,054,983	計	
30,423,897	31,545,737	33,320,847	31,930,645	31,747,837	35,444,790	合計	
3,033,903	3,487,316	2,660,432	3,340,359	3,397,283	3,992,151	国庫支出金	国庫支出金
1,198,729	1,214,899	1,052,207	1,061,258	942,590	1,202,344	県支出金	
4,232,632	4,702,215	3,712,639	4,401,617	4,339,873	5,194,495	計	
3,561,500	5,270,900	4,095,679	3,823,500	3,913,600	3,607,100	市債	依存財源 その他
1,410,347	1,349,828	1,215,059	1,410,461	1,573,900	1,463,817	地方消費税交付金	
591,803	624,110	673,408	566,713	599,101	600,756	地方特例交付金	
548,020	511,028	490,064	447,131	393,151	382,113	地方交付税	
390,720	388,702	398,584	419,774	610,240	826,619	地方譲与税	
271,687	278,280	243,339	294,556	275,468	312,665	自動車取得税交付金	
169,834	231,993	199,855	192,549	193,929	182,507	ゴルフ場利用税交付金	
384,632	415,672	137,583	100,031	95,897	66,875	利子割交付金	
				23,032	42,347	配当割交付金	
				27,462	76,040	株式等譲渡所得割交付金	
21,021	21,980	22,842	24,969	24,067	25,990	交通安全対策特別交付金	
13,722	184	0	0	0	0	特別地方消費税交付金	
3,801,786	3,821,777	3,380,734	3,456,184	3,816,247	3,979,729	計	
11,595,918	13,794,892	11,189,052	11,681,301	12,069,720	12,781,324	合計	
42,019,815	45,340,629	44,509,899	43,611,946	43,817,557	48,226,114	総計	

(H16年度には、上記の外に特定資金公共事業償還時補助金(172,079千円)があります。)

### 3) 歳出の概要

#### ○目的別経費

第15表は平成17年度一般会計決算額の目的別経費前年度比較です。

第15表 目的別経費前年比較表

	平成17年度		平成16年度		増減額 千円	増減率 %
	決算額 千円	構成比 %	決算額 千円	構成比 %		
議会費	405,454	0.9	402,991	1.0	2,463	0.6
総務費	7,958,674	17.4	5,698,674	13.5	2,260,000	39.7
民生費	8,509,816	18.6	7,829,014	18.5	680,802	8.7
衛生費	5,049,320	11.0	5,589,913	13.2	▲540,593	▲9.7
労働費	31,729	0.1	37,720	0.1	▲5,991	▲15.9
農林水産業費	857,292	1.9	897,677	2.1	▲40,385	▲4.5
商工費	1,500,079	3.3	1,658,406	3.9	▲158,327	▲9.5
土木費	7,692,990	16.8	7,051,565	16.6	641,425	9.1
消防費	2,143,751	4.7	2,247,746	5.3	▲103,995	▲4.6
教育費	8,252,812	18.0	7,272,891	17.2	979,921	13.5
災害復旧費	0	0.0	0	0	0	0.0
公債費	3,363,115	7.3	3,656,129	8.6	▲293,014	▲8.0
諸支出金	0	0.0	0	0	0	0.0
歳出合計	45,765,032	100.0	42,342,726	100.0	3,422,306	8.1

[各費目の主な増減]

**総務費** 三里塚コミュニティセンター整備事業の減はあるものの、財政調整基金、減債基金への積立金の増などにより、22億6千万円、39.7%の増となった。

**民生費** 公津の杜保育園建設費補助金、国民健康保険特別会計等繰出金、社会福祉事業基金積立金などの増により6億8千万円、8.7%の増となった。

**土木費** 暫定仮設道路整備事業、坂田ヶ池総合公園整備事業の減はあるものの、公津西土地区画整理事業助成金、郷部大橋耐震補強事業、馬橋竹下線整備事業などの増により、6億4千万円、9.1%の増となった。

**教育費** 三里塚小学校屋内運動場改築工事、加良部小学校増築工事の減はあるものの、公津の杜小学校新築工事、美郷台小学校新築工事、久住中学校建設工事などの増により9億8千万円、13.5%の増となった。

**衛生費** いずみ聖地公園拡張用地購入費などの減により5億4千万円、9.7%の減となった。

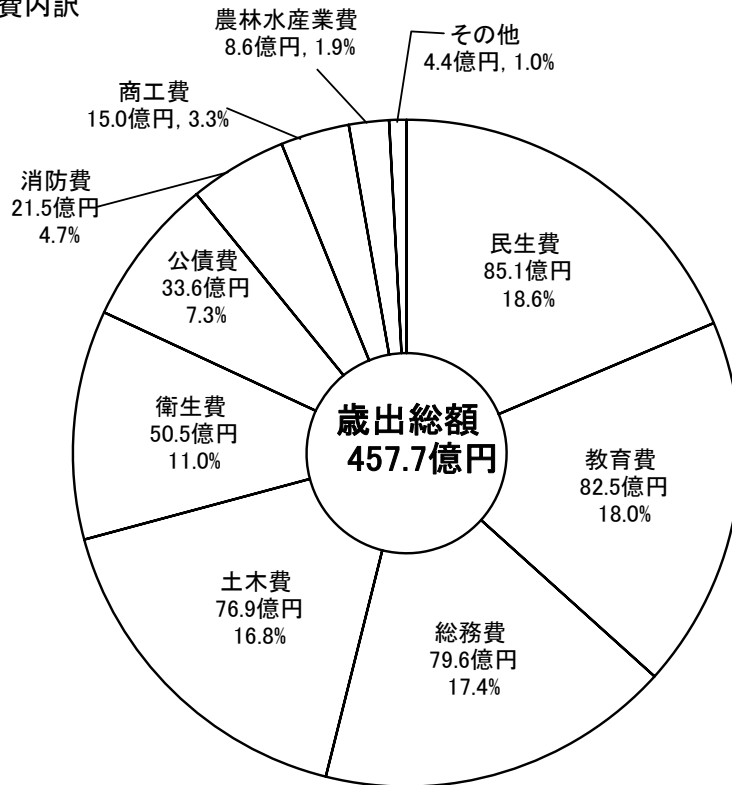


## ・ 目的別経費内訳

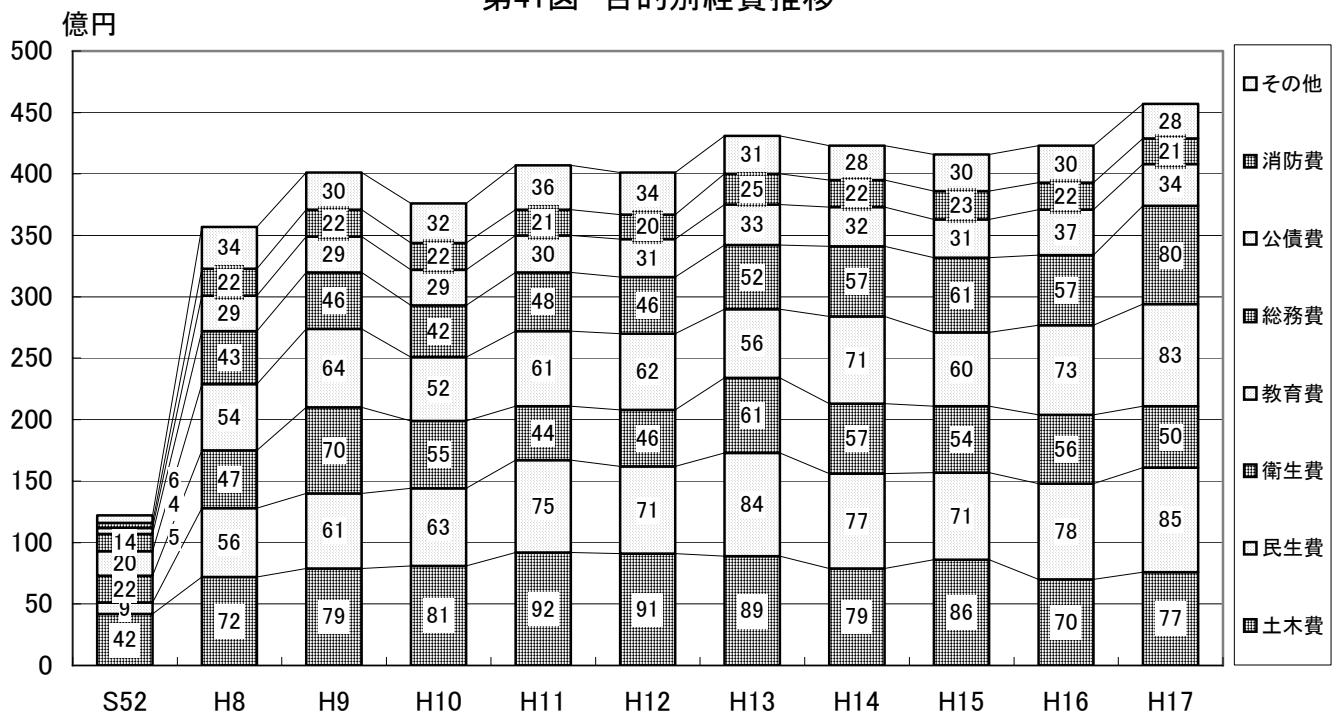
歳出を行政目的別に見たものが第40図、その推移が第41図です。

金額が大きな順として、「民生費」、「教育費」、「総務費」、「土木費」、「衛生費」となりますが、平成17年度はこれらで8割以上を占めています。また、民生費は毎年増加傾向にあり、この10年で1.5倍以上になっています。

第40図 目的別経費内訳

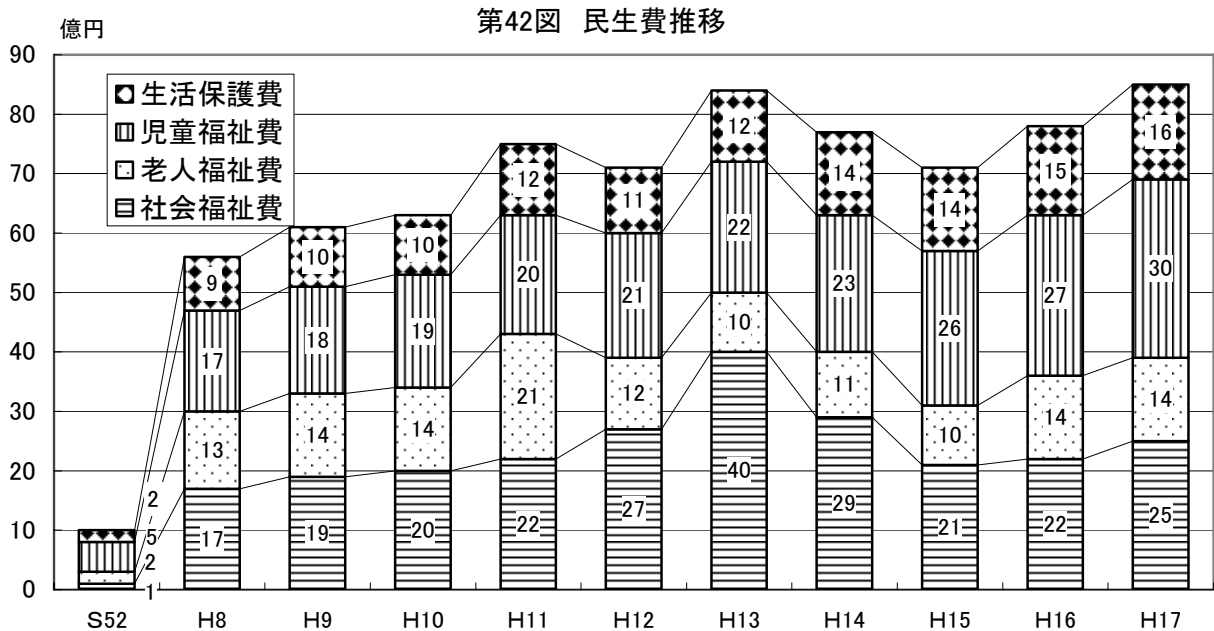


第41図 目的別経費推移



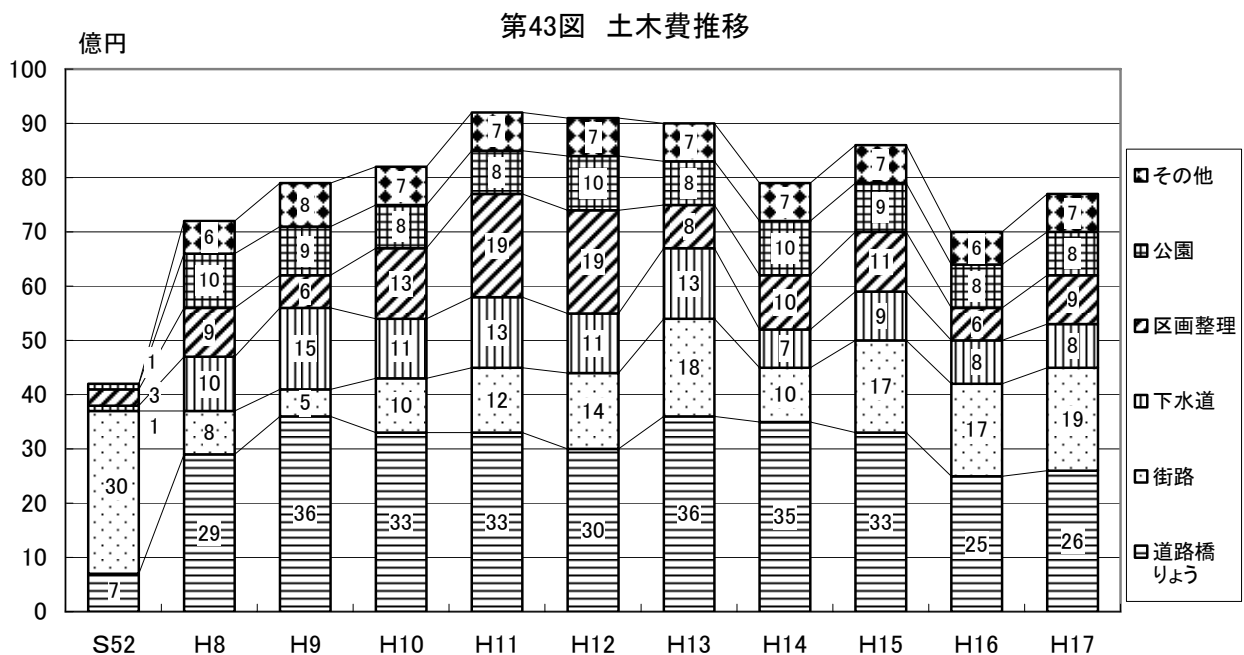
### ・民生費推移

第42図は民生費の推移です。平成14年度から一時的に保健福祉館整備事業費の減に伴い減少しています。平成17年度は公津の杜保育園建設費補助金、特別会計等繰出金、社会福祉事業基金積立金などの増によるほか、全般的に増加しています。



### ・土木費推移

土木費は道路や公園などの社会資本形成に向けられる経費ですが、毎年度の事業の進捗により増減します。平成17年度は増加していますが、これは公津西土地区画整理事業助成金などの区画整理費や、郷部線整備事業及びその関連事業に伴う街路費の増によるものです。第43図は土木費の推移です。

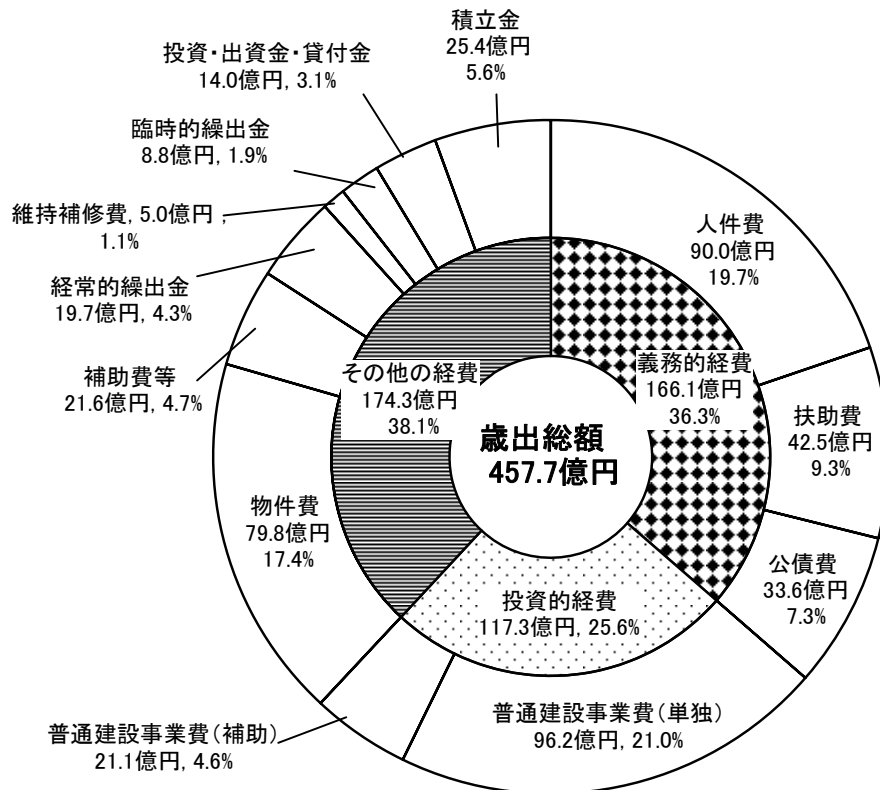


## ○性質別経費

平成 17 年度の歳出額 457.7 億円を性質別に分類すると第 44 図のとおりです。

義務的経費は法令の規定等により任意に削減できないため、この比率が高いと財政構造が硬直化していると言えます。平成 17 年度は、この義務的経費が 36.3%を占めていますが、一方、普通建設事業費のように行政水準向上に積極的に寄与する投資的経費は 25.6%を確保しています。第 16 表は性質別経費の前年比較表です。

第44図 性質別経費内訳



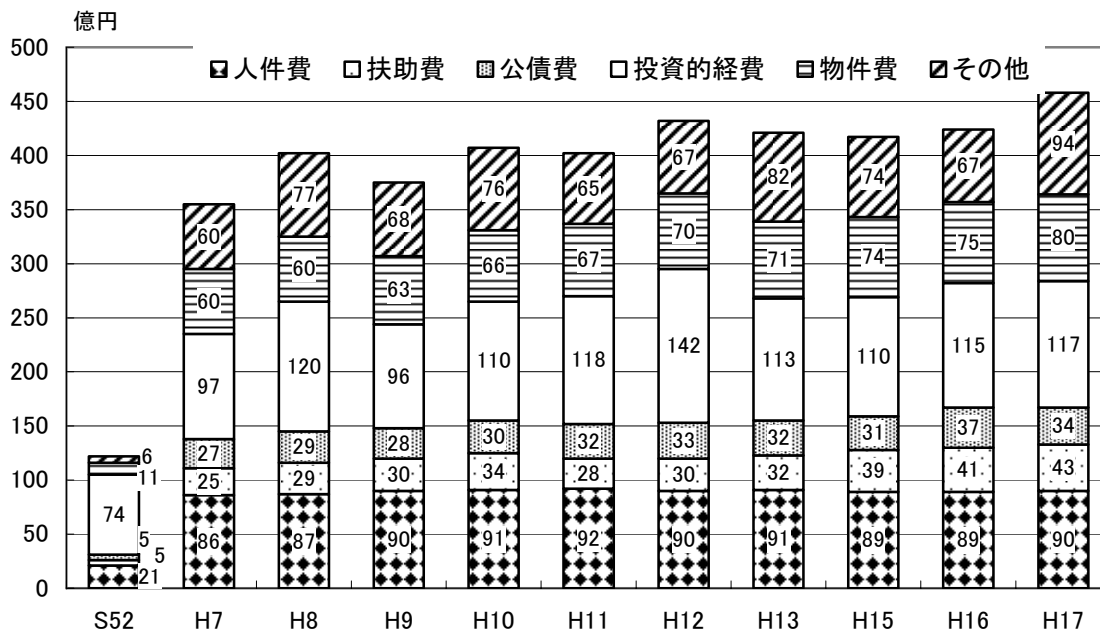
第 16 表 性質別経費前年度比較

区分	平成 17 年度		平成 16 年度		増減額 千円	増減率 %	
	決算額(千円)	構成比(%)	決算額(千円)	構成比(%)			
義務的経費	人件費	9,000,540	19.7	8,901,884	21.0	98,656	1.1
	扶助費	4,249,341	9.3	4,101,328	9.7	148,013	3.6
	公債費	3,363,115	7.3	3,656,118	8.6	▲293,003	▲8.0
	小計	16,612,996	36.3	16,659,330	39.3	▲46,334	▲0.3
投資的経費	11,729,252	25.6	11,467,279	27.1	261,973	2.3	
その他の経費	物件費	7,972,896	17.4	7,522,251	17.8	450,645	6.0
	維持補修費	498,289	1.1	491,183	1.2	7,106	1.4
	補助費等	2,161,432	4.7	2,043,830	4.8	117,602	5.8
	繰出金	2,850,884	6.2	2,770,769	6.5	80,115	2.9
	積立金	2,542,713	5.6	239,095	0.6	2,303,618	963.5
	投資・出資・貸付金	1,396,570	3.1	1,148,989	2.7	247,581	21.5
小計	17,422,784	38.1	14,216,117	33.6	3,206,667	22.6	
合計	45,765,032	100.0	42,342,726	100.0	3,422,306	8.1	

## ・ 性質別経費推移

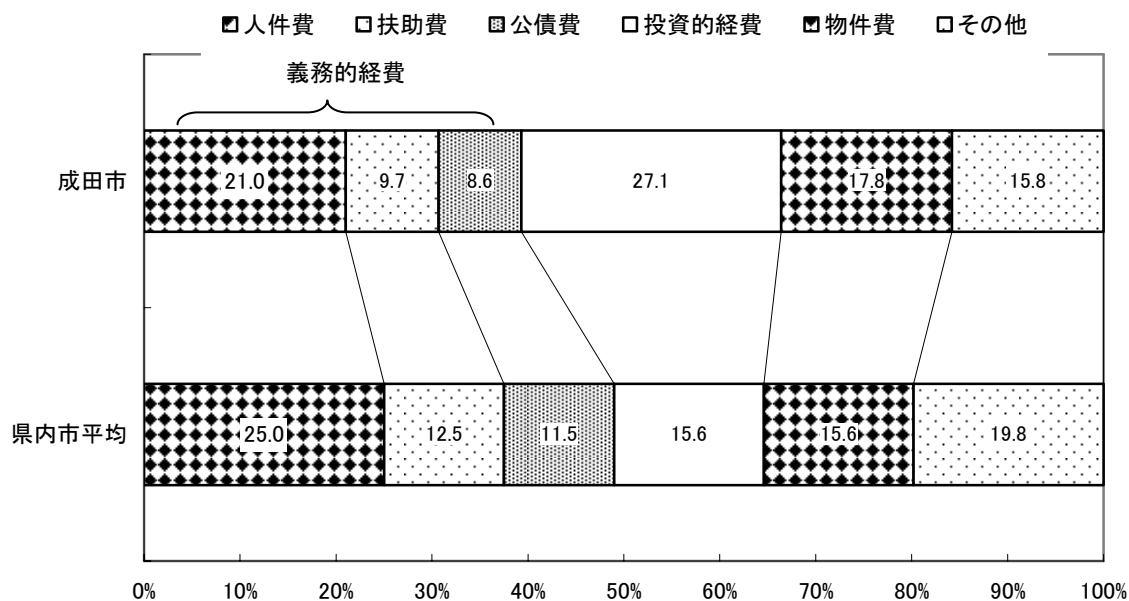
投資的経費は公共施設整備の状況により増減していますが、義務的経費は増加傾向にあります。第45図は性質別経費の推移です。

第45図 性質別経費推移



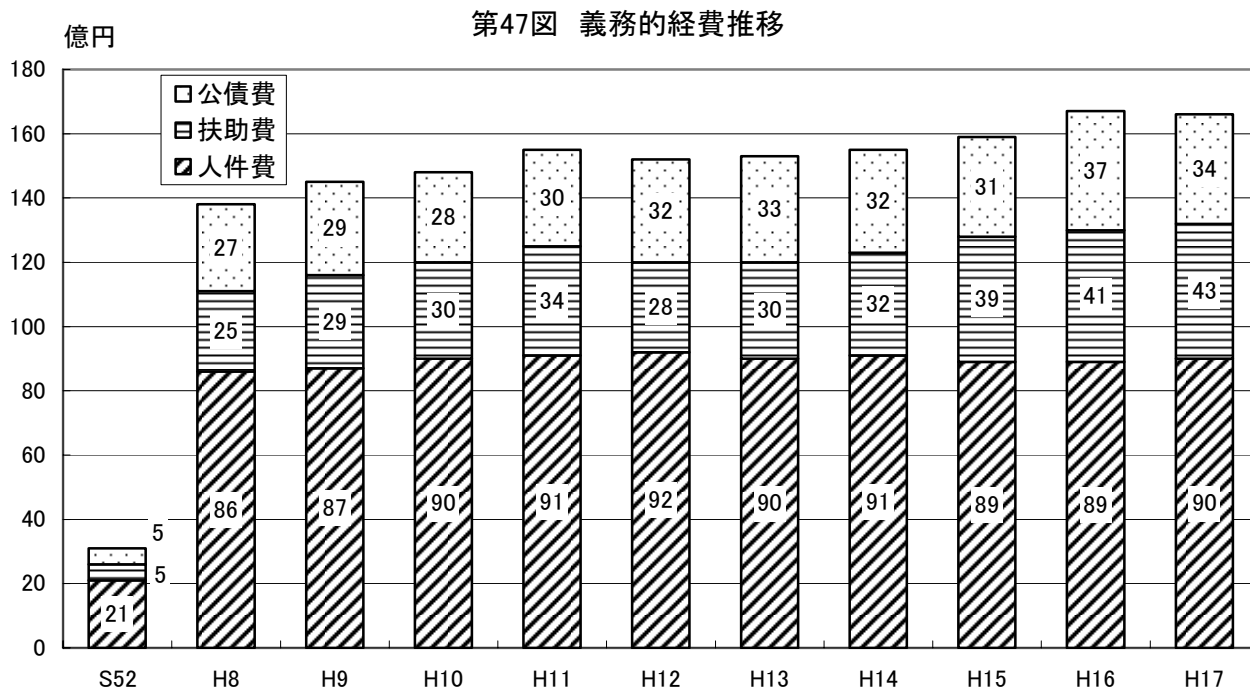
平成16年度決算の性質別構成比を県内市平均と比較したものが第46図です。県内他市との平均では人件費等の義務的経費の割合が低く(▲9.7ポイント)、一方、公共施設整備等に費やす投資的経費の割合が高く(11.5ポイント)、財政の硬直度が低いことがわかります。

第46図 性質別経費構成比比較(平成16年度決算)

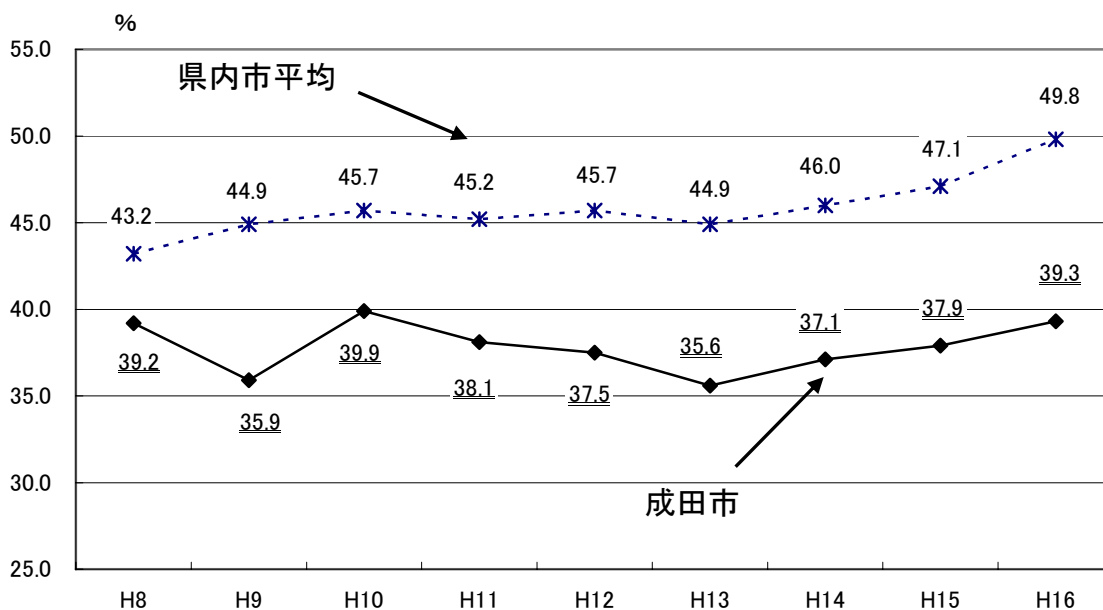


## ・義務的経費推移

平成12年度の介護保険制度の導入により、一旦扶助費が減少しましたが、全体的には増加傾向にあります。義務的経費は任意に削減できない経費であるため、特に注意が必要です。第47図は義務的経費の推移、第48図は歳出に占める義務的経費の構成割合を県内の市平均と比較したものです。平均値と比べて低い水準で推移しており財政の弾力性を維持していることがわかります。



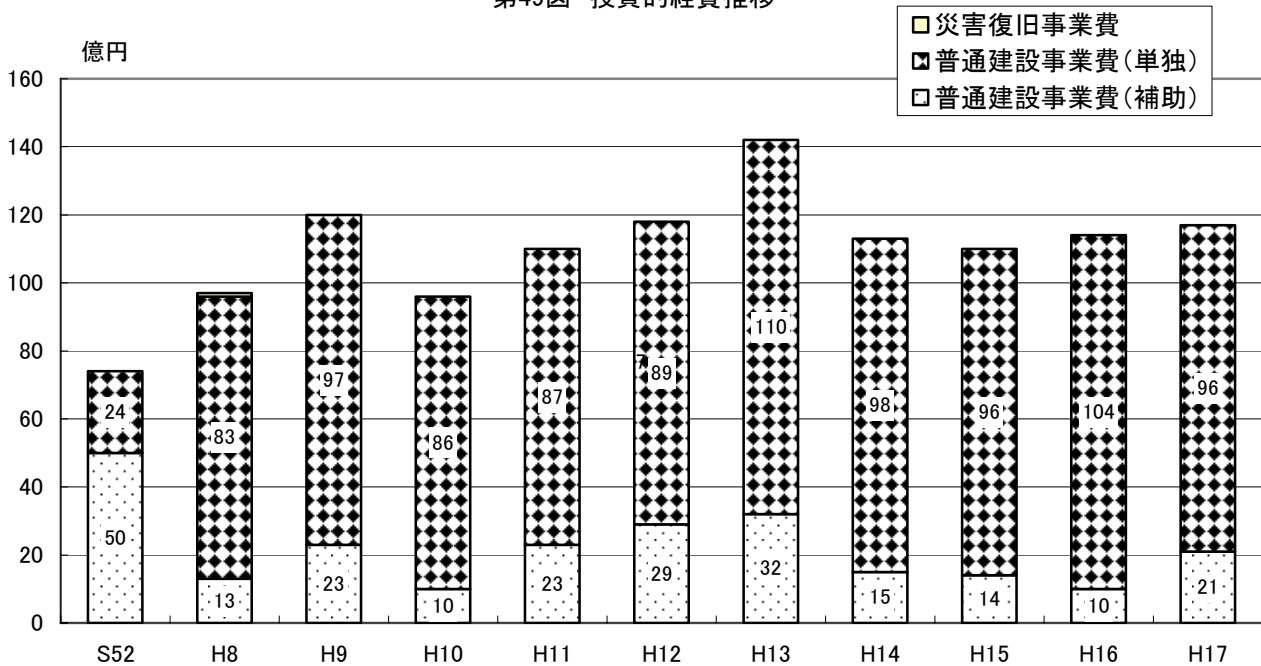
第48図 義務的経費構成比推移比較



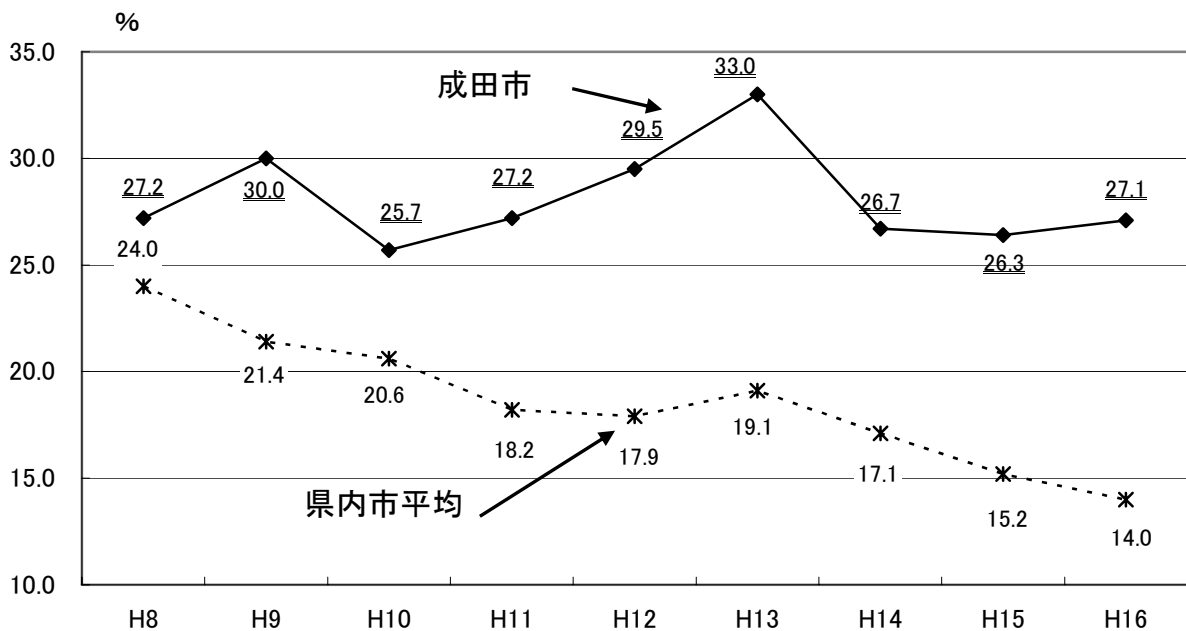
## ・投資的経費推移

平成 17 年度の普通建設事業費は、公津の杜・美郷台小学校、久住中学校建設をはじめとする学校整備事業などの大規模な公共施設整備事業費の増に伴い増加しています。第 49 図は投資的経費の推移、また 第 50 図は歳出に占める投資的経費の構成割合を県内の市平均と比較した図です。年度によって増減がありますが、全体的傾向としては平均値より高い水準を維持しています。

第49図 投資的経費推移



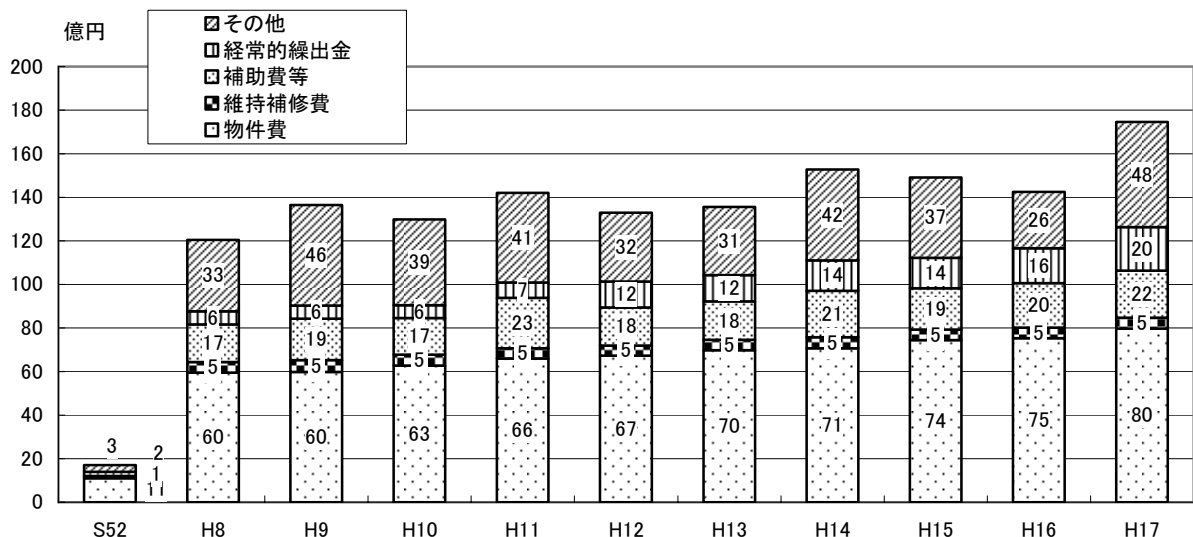
第50図 投資的経費構成比推移比較



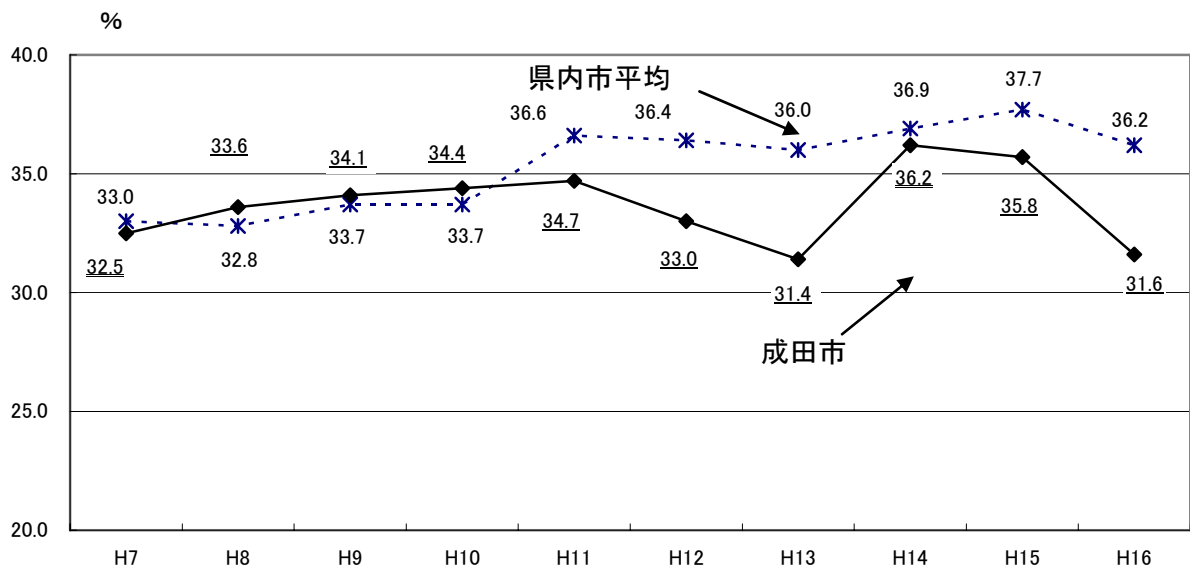
## ・その他の経費推移

その他の経費の内、最も大きい割合を占めるのが物件費です。物件費は消耗品の購入等の需用費、市の施設の管理運営を民間企業に委託する委託料等があり、毎年経常的に支出されるものです。このような経常的経費については、予算編成方針でもあげており、とり特に留意しています。第51図はその他の経費の推移、第52図はその構成割合を県内の市平均と比較した図です。

第51図 その他の経費推移



第52図 その他の経費構成比推移比較



### 【用語解説】経常的経費

毎年継続して固定的に支出される経費で、一時的、偶発的な行政需要に対応して支出される経費である臨時的経費と分類されるものです。これを大まかにいうと、義務的経費の他に、物件費、維持補修費、補助費等、経常的繰出金が該当します。

○歳出決算額の推移

第 17 表 歳出決算額推移

空港開港前と最近 10 年間の決算額(歳出)の推移です。

区分	項目	S52 年度	H8 年度	H9 年度	H10 年度	H11 年度	
歳出(目的別)	議会費	119,843	375,920	396,619	395,464	393,429	
	総務費	1,410,695	4,282,167	4,636,298	4,224,104	4,785,910	
	民生費	951,275	5,598,995	6,062,621	6,284,557	7,493,553	
	衛生費	2,164,476	4,728,867	6,994,951	5,501,312	4,379,298	
	労働費	0	61,142	53,276	52,812	54,451	
	農林水産業費	317,249	1,740,280	1,380,757	1,394,154	1,374,816	
	商工費	142,764	1,156,710	1,202,255	1,323,580	1,747,263	
	土木費	4,164,738	7,229,180	7,862,917	8,151,725	9,168,121	
	消防費	442,559	2,189,159	2,161,994	2,150,881	2,070,404	
	教育費	2,011,275	5,417,571	6,453,463	5,189,907	6,128,829	
	災害復旧費	5,275	41,882	3,645	0	0	
	公債費	454,242	2,841,794	2,857,158	2,919,090	3,036,049	
	諸支出金	0	0	0	0	51,837	
	前年度繰上充用金	0	0	0	0	0	
	<b>目的別合計</b>	<b>12,184,391</b>	<b>35,663,667</b>	<b>40,065,954</b>	<b>37,587,586</b>	<b>40,683,960</b>	
歳出(性質別)	義務的経費	人件費	2,063,555	8,557,563	8,697,410	9,004,726	9,108,769
		扶助費	539,416	2,549,910	2,857,551	3,043,814	3,326,247
		公債費	454,207	2,841,095	2,856,556	2,918,632	3,035,686
		小計	3,057,178	13,948,568	14,411,517	14,967,172	15,470,702
	投資的経費	普通建設事業費(補助)	5,047,286	1,338,461	2,357,154	1,041,003	2,362,353
		普通建設事業費(単独)	2,377,605	8,332,466	9,677,140	8,607,616	8,687,363
		災害復旧事業費	5,275	41,882	3,645	0	0
		小計	7,430,166	9,712,809	12,037,939	9,648,619	11,049,716
	その他	物件費	1,091,969	5,962,819	5,990,489	6,284,615	6,597,057
		維持補修費	97,717	473,558	537,426	498,891	469,126
		補助費等	239,897	1,725,392	1,895,647	1,666,347	2,317,304
		経常的繰出金	0	557,435	568,468	593,412	658,785
		積立金	85,679	496,534	681,811	44,997	943,892
		投資・出資金・貸付金	18,841	892,229	1,708,856	2,128,813	930,159
		臨時的繰出金	162,944	1,894,323	2,233,801	1,754,720	2,247,219
		前年度繰上充用金	0	0	0	0	0
		小計	1,697,047	12,002,290	13,616,498	12,971,795	14,163,542
	<b>性質別合計</b>	<b>12,184,391</b>	<b>35,663,667</b>	<b>40,065,954</b>	<b>37,587,586</b>	<b>40,683,960</b>	



決算統計の区分・金額により表記してあるため、決算書とは数値が異なります。

(H16年度は、下記の外に特定資金公共事業債償還金(172,079千円)があります。) (単位:千円)

H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度		
395,163	387,601	372,778	387,985	402,991	405,454	議会費	歳出(目的別)
4,633,516	5,176,749	5,645,239	6,101,903	5,698,674	7,958,674	総務費	
7,061,833	8,409,717	7,698,843	7,131,948	7,829,014	8,509,816	民生費	
4,592,786	6,097,649	5,727,433	5,351,658	5,589,913	5,049,320	衛生費	
55,357	49,686	42,428	38,397	37,720	31,729	労働費	
1,417,018	1,197,674	946,449	949,671	897,677	857,292	農林水産業費	
1,500,875	1,477,190	1,459,424	1,683,571	1,658,406	1,500,079	商工費	
9,071,579	8,900,303	7,902,409	8,565,820	7,051,565	7,692,990	土木費	
2,047,020	2,462,664	2,177,987	2,314,244	2,247,746	2,143,751	消防費	
6,205,132	5,649,432	7,086,118	5,966,536	7,272,891	8,252,812	教育費	
0	0	0	0	0	0	災害復旧費	
3,101,328	3,275,708	3,202,380	3,142,562	3,656,129	3,363,115	公債費	
0	0	0	0	0	0	諸支出金	
0	0	0	0	0	0	前年度繰上充用金	
40,081,607	43,084,373	42,261,488	41,634,295	42,342,726	45,765,032	目的別合計	
9,157,461	9,087,548	9,112,743	8,881,779	8,901,884	9,000,540	人件費	義務的経費
2,759,944	2,955,789	3,336,083	3,772,742	4,101,328	4,249,341	扶助費	
3,101,133	3,275,593	3,202,309	3,142,526	3,656,118	3,363,115	公債費	
15,018,538	15,318,930	15,651,135	15,797,047	16,659,330	16,612,996	小計	
2,916,632	3,234,105	1,524,731	1,341,512	1,062,062	2,106,625	普通建設事業費(補助)	投資的経費
8,898,966	10,969,144	9,782,303	9,631,429	10,405,217	9,622,627	普通建設事業費(単独)	
0	0	0	0	0	0	災害復旧事業費	
11,815,598	14,203,249	11,307,034	10,972,941	11,467,279	11,729,252	小計	
6,732,946	6,982,648	7,079,287	7,444,198	7,522,251	7,972,896	物件費	歳出(性質別)
452,095	473,300	489,114	488,544	491,183	498,289	維持補修費	
1,752,264	1,767,101	2,141,130	1,883,936	2,043,830	2,161,432	補助費等	
1,157,081	1,206,828	1,420,264	1,352,981	1,565,170	1,972,272	経常的繰出金	
257,134	822,212	2,240,444	1,485,224	239,095	2,542,713	積立金	
1,123,676	917,133	1,034,024	1,148,335	1,148,989	1,396,570	投資・出資金・貸付金	
1,772,275	1,392,972	899,056	1,061,089	1,205,599	878,612	臨時的繰出金	
0	0	0	0	0	0	前年度繰上充用金	
13,247,471	13,562,194	15,303,319	14,864,307	14,216,117	17,422,784	小計	
40,081,607	43,084,373	42,261,488	41,634,295	42,342,726	45,765,032	性質別合計	

### 第3節 特別会計・公営企業会計決算

#### ○決算額の推移

第18表 決算額の推移

(単位:千円)

	S52年度	H7年度	H8年度	H9年度	H10年度	H11年度
国民健康保険(事業)	999,338	3,383,233	3,516,551	3,726,772	4,145,783	4,546,204
うち一般会計繰入	10,000	333,333	746,737	549,090	769,214	915,040
国民健康保険(施設)						
うち一般会計繰入						
下水道事業	627,173	2,855,240	3,121,035	3,379,382	3,717,690	3,383,539
うち一般会計繰入	122,674	1,392,716	1,045,360	1,449,325	1,101,672	1,298,818
公設地方卸売市場	154,986	444,365	464,524	468,764	419,872	406,843
うち一般会計繰入	57,746	233,460	262,991	272,144	190,302	216,465
老人保健		3,238,882	3,745,544	4,001,684	4,239,310	4,488,492
うち一般会計繰入		274,420	263,309	215,440	132,475	297,361
介護保険						
うち一般会計繰入						
学校給食センター	395,484					
うち一般会計繰入	166,864					
交通災害共済	10,659	29,018	27,309	24,624	27,754	
うち一般会計繰入	3,809	10,958	10,590	12,214	10,102	
農業集落排水事業						
うち一般会計繰入						
水道事業会計	242,719	1,892,064	2,144,131	4,316,825	3,389,554	3,396,335
うち一般会計繰入						
簡易水道事業会計						
うち一般会計繰入						
特別会計等合計	2,430,359	11,842,802	13,019,094	15,918,051	15,939,963	16,221,413
うち一般会計繰入	361,093	2,244,887	2,328,987	2,498,213	2,203,765	2,727,684

	H12年度	H13年度	H14年度	H15年度	H16年度	H17年度
国民健康保健(事業)	4,877,691	5,178,781	5,214,948	5,853,842	6,197,740	6,697,111
うち一般会計繰入	832,476	602,043	712,182	636,769	744,821	888,796
国民健康保健(施設)						7,611
うち一般会計繰入						
下水道事業	3,534,306	3,086,488	2,509,553	2,575,217	2,412,950	2,272,096
うち一般会計繰入	1,041,348	1,203,716	732,441	871,729	746,005	794,810
公設地方卸売市場	395,485	392,908	376,648	364,383	402,719	238,208
うち一般会計繰入	205,829	211,160	215,744	209,894	266,615	83,642
老人保健	4,400,404	4,609,561	4,785,030	4,685,433	4,693,343	4,841,605
うち一般会計繰入	319,339	177,415	145,096	161,812	401,061	448,910
介護保険	1,524,860	2,077,088	2,233,557	2,402,228	2,565,517	2,683,178
うち一般会計繰入	310,313	176,873	281,362	311,357	365,646	383,962
学校給食センター						
うち一般会計繰入						
交通災害共済						
うち一般会計繰入						
農業集落排水事業						4,367
うち一般会計繰入						
水道事業会計	3,564,632	2,252,613	2,193,772	2,472,894	2,244,498	2,468,887
うち一般会計繰入						
簡易水道事業会計						560
うち一般会計繰入						
特別会計等合計	18,297,378	17,597,439	17,313,508	18,353,997	18,516,767	19,213,623
うち一般会計繰入	2,709,305	2,371,207	2,086,825	2,191,561	2,524,148	2,600,120

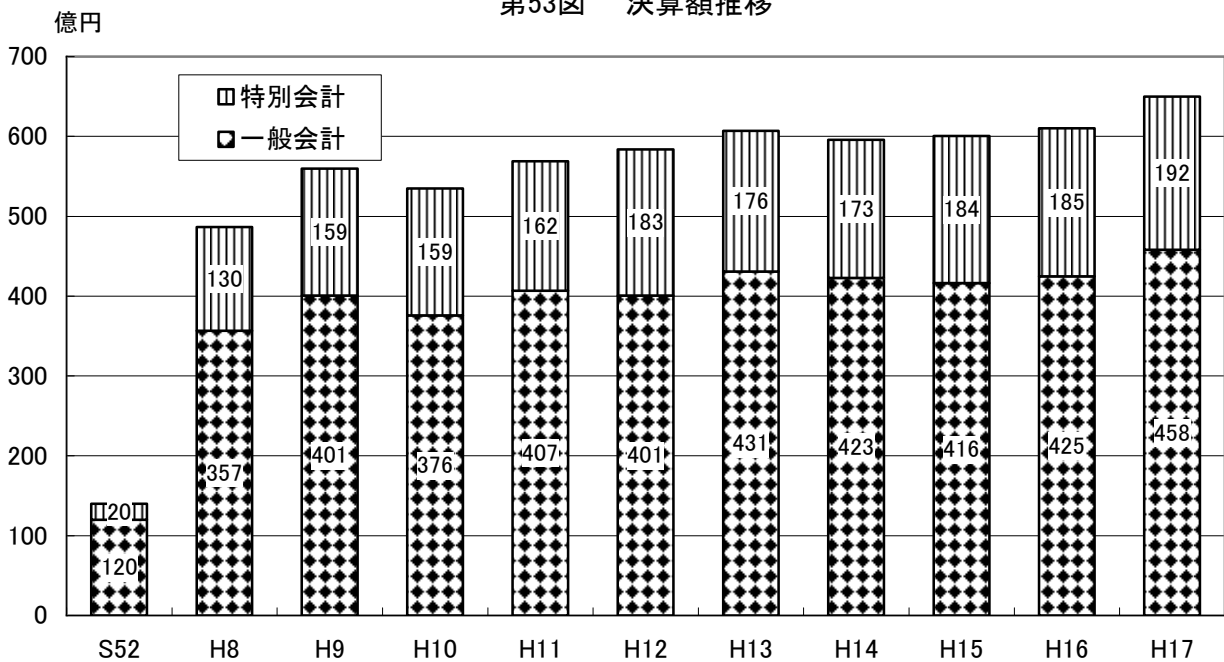
特別会計とは、特定事業を行う場合に一般会計と区分して経理する必要のあるときに設ける会計で、平成17年度は合併により新たに旧下総町・大栄町で編成されていた農業集落排水事業会計及び簡易水道事業特別会計、並びに大栄診療所を対象とする国民健康保険会計の施設勘定が加わり公営企業会計を含めて8会計(9勘定)あります。

水道事業、下水道事業などはその性格から施設整備の状況により決算額が増減していますが、国民健康保険、老人保健などは、医療費の増大により増加傾向にあります。

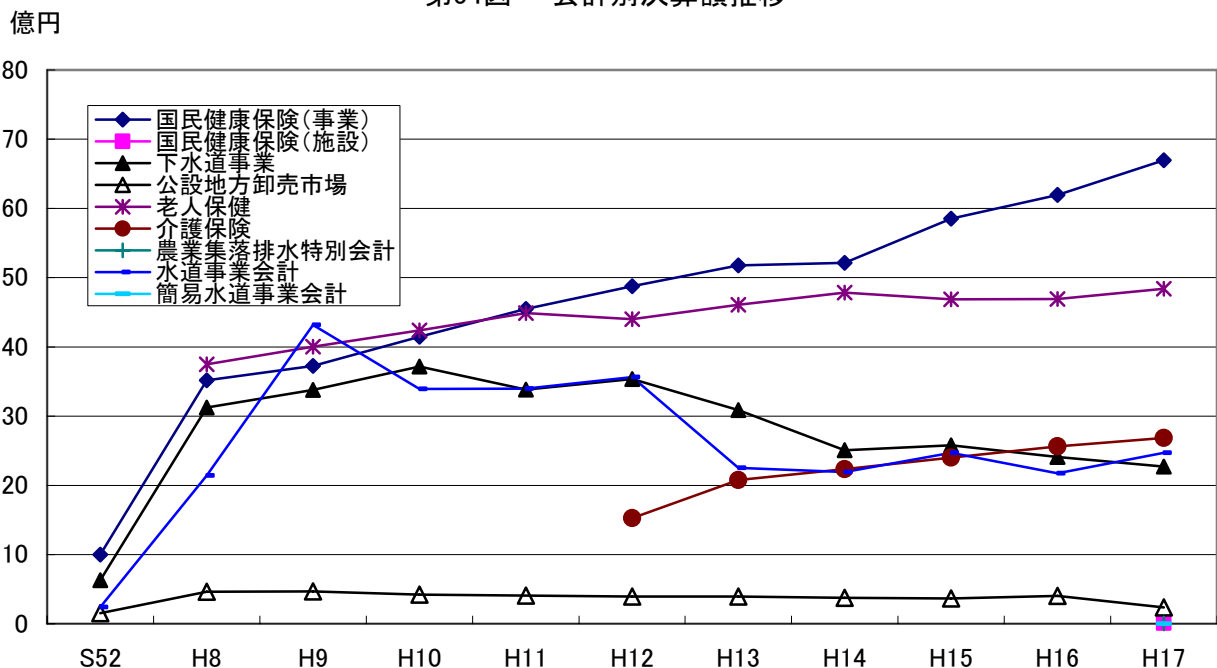
また、平成12年度から介護保険特別会計が新設されています。

第18表・第53図・第54図は、歳出決算額の推移です。

第53図 決算額推移



第54図 会計別決算額推移



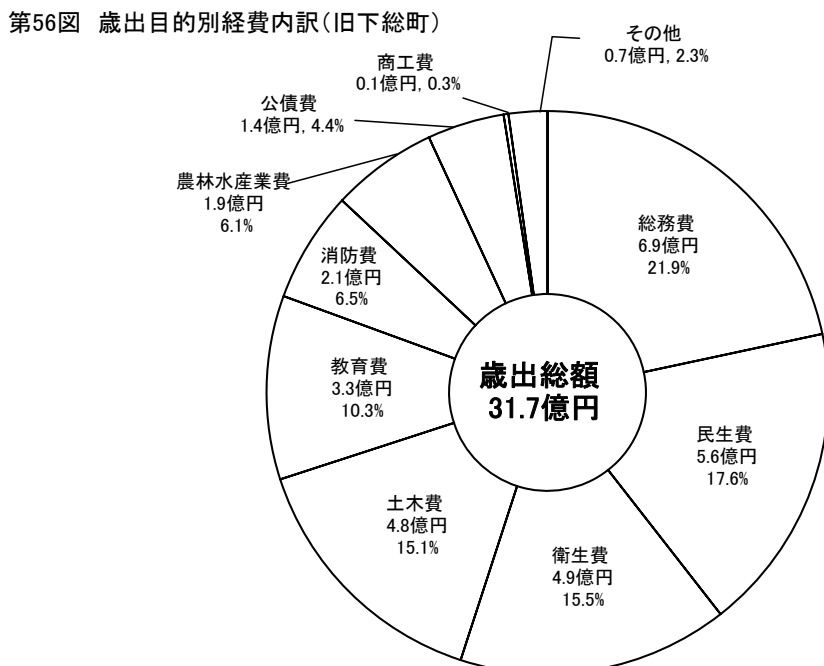
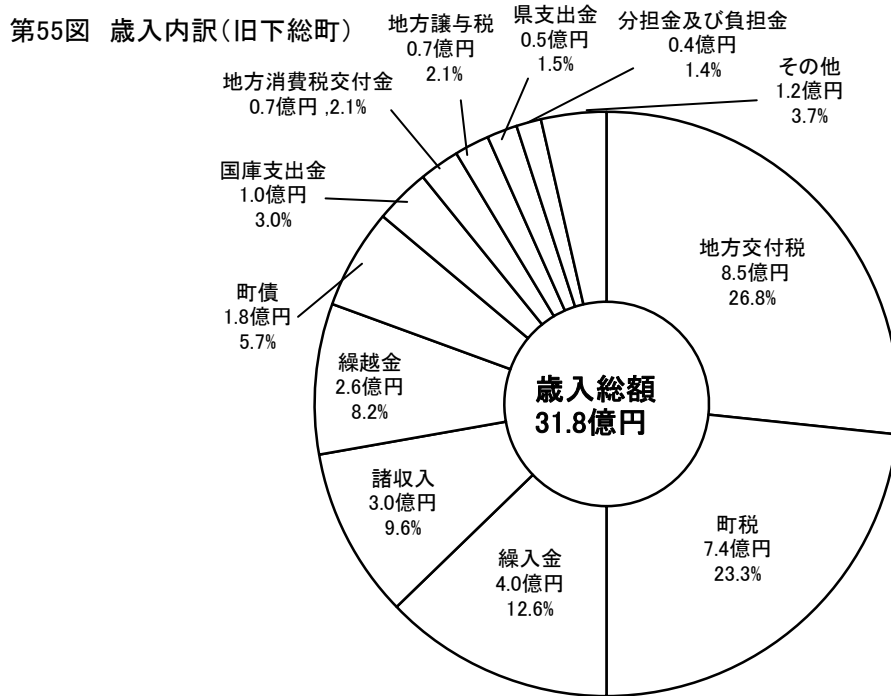
## 第4節 旧下総町・大栄町の決算

### ○ 旧下総町の決算（一般会計）

第55図・第56図はそれぞれ旧下総町の平成17年度（打ち切り決算となったため平成17年4月1日から平成18年3月26日まで）一般会計決算の内訳です。

成田市（P-43 参照）と比較すると、歳入では普通交付税の交付団体であったため地方交付税が、歳出では農林水産業費の割合が高くなっています。

また、合併に伴い打ち切り決算となり歳入歳出の収支差額が発生し、成田市に引き継がれました。

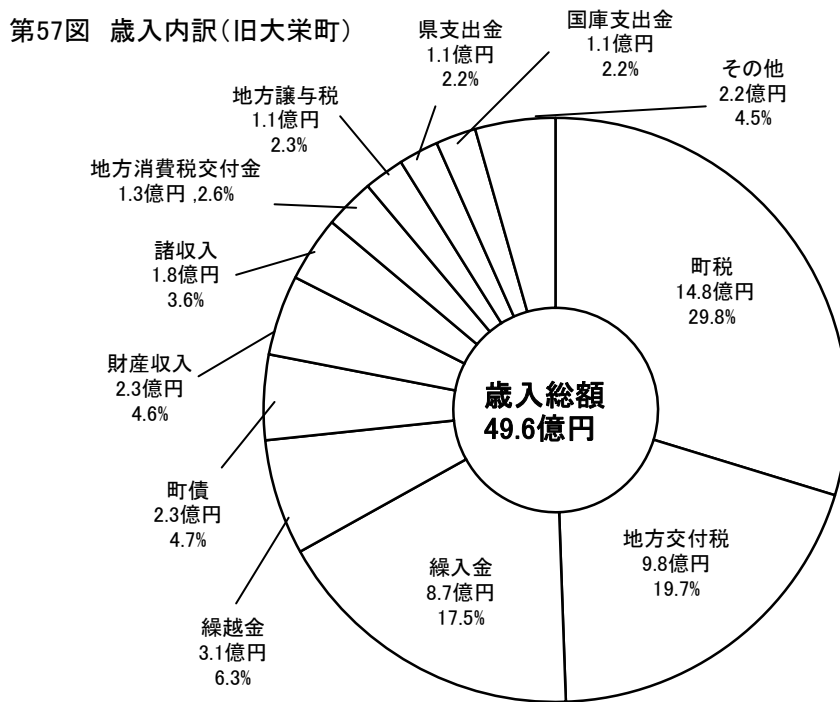


## ○ 旧大栄町の決算（一般会計）

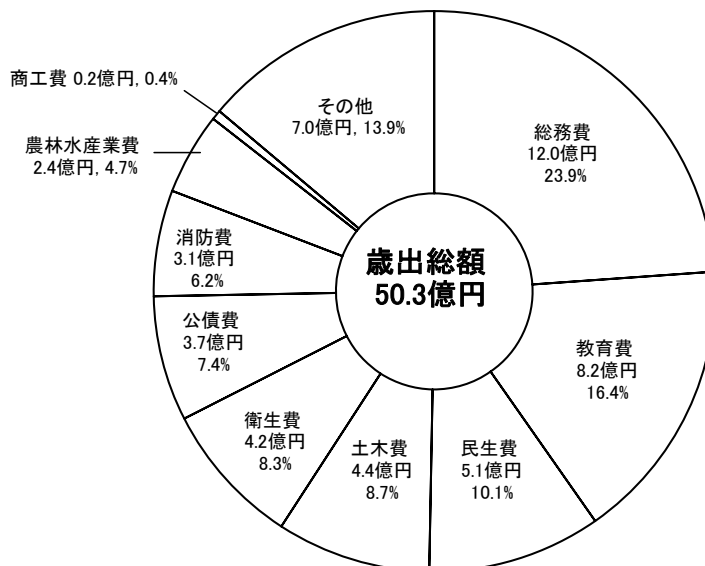
第57図・第58図はそれぞれ旧大栄町の平成17年度（打ち切り決算となったため平成17年4月1日から平成18年3月26日まで）一般会計決算の内訳です。

成田市（P-43 参照）との比較では、歳入・歳出とも成田市と旧下総町との比較の場合と同様の傾向が見られますが、歳出で特別会計繰出金を含む「その他」項目、また旧下総町との比較では、小学校の耐震補強工事や屋内運動場の増改築などを行った教育費の割合が高くなっています。

歳入歳出の収支差額についても旧下総町と同様に、成田市に引き継がれました。



第58図 歳出目的別経費内訳(旧大栄町)



## 第5節 財務分析

### 1) 財務分析

#### ○財政力指数

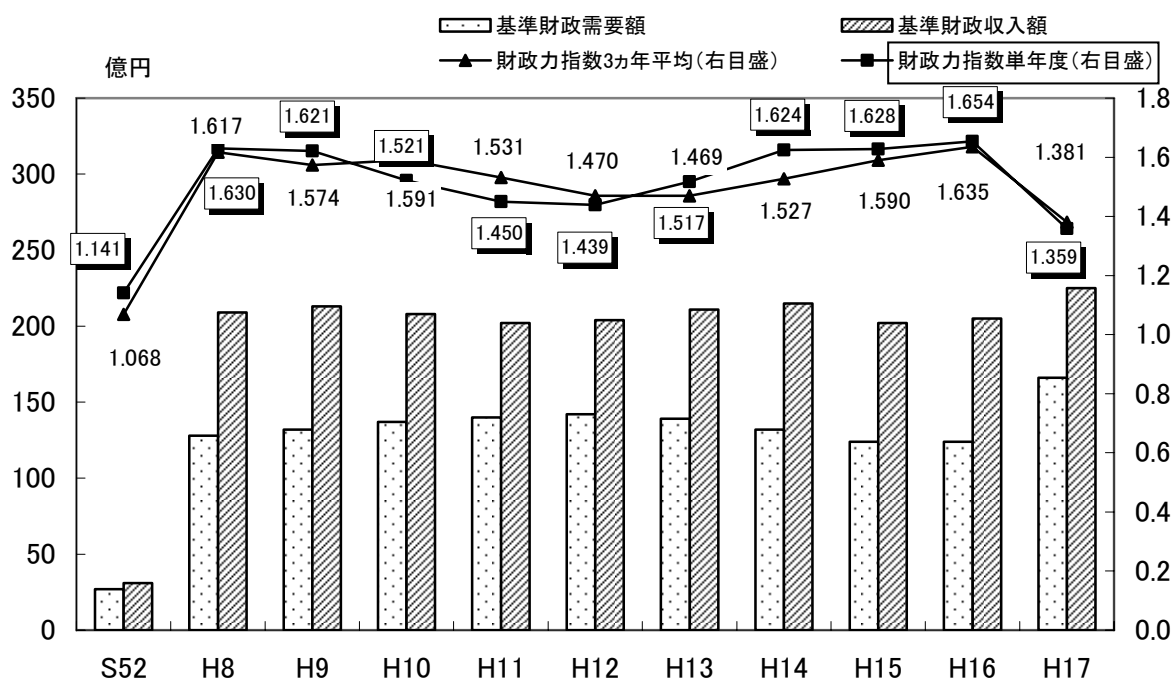
財政力指数は、地方公共団体の財政基盤の強弱を示す指数で、標準的な行政活動に必要な財源をどれくらい自力で調達できるかを表しており、普通交付税の算定基礎となる基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値の3ヶ年平均値をいいます。

基準財政収入額が基準財政需要額を下回る場合は、それを補うために普通交付税が交付されます（この場合単年度の財政力指数が「1」を下回る場合）が、成田市は大幅に上回っているため普通交付税は交付されません。ただし、超えた分だけ通常水準を超えた行政活動が可能であるといえるため、財政力は強いといえます。

第59図は、基準財政需要額・収入額・財政力指数の推移です。

$$\text{財政力指数} = \frac{\text{基準財政収入額}}{\text{基準財政需要額}} \quad (3 \text{ヶ年平均})$$

第59図 基準財政需要額・収入額・財政力指数



#### 【用語解説】基準財政収入額・基準財政需要額とは

基準財政収入額とは、普通交付税の算定基礎となるもので、各地方公共団体の財政力を合理的に測定するために、標準的な状態において徴収が見込まれる税収入を一定の方法によって算定した額の合計額をいいます。

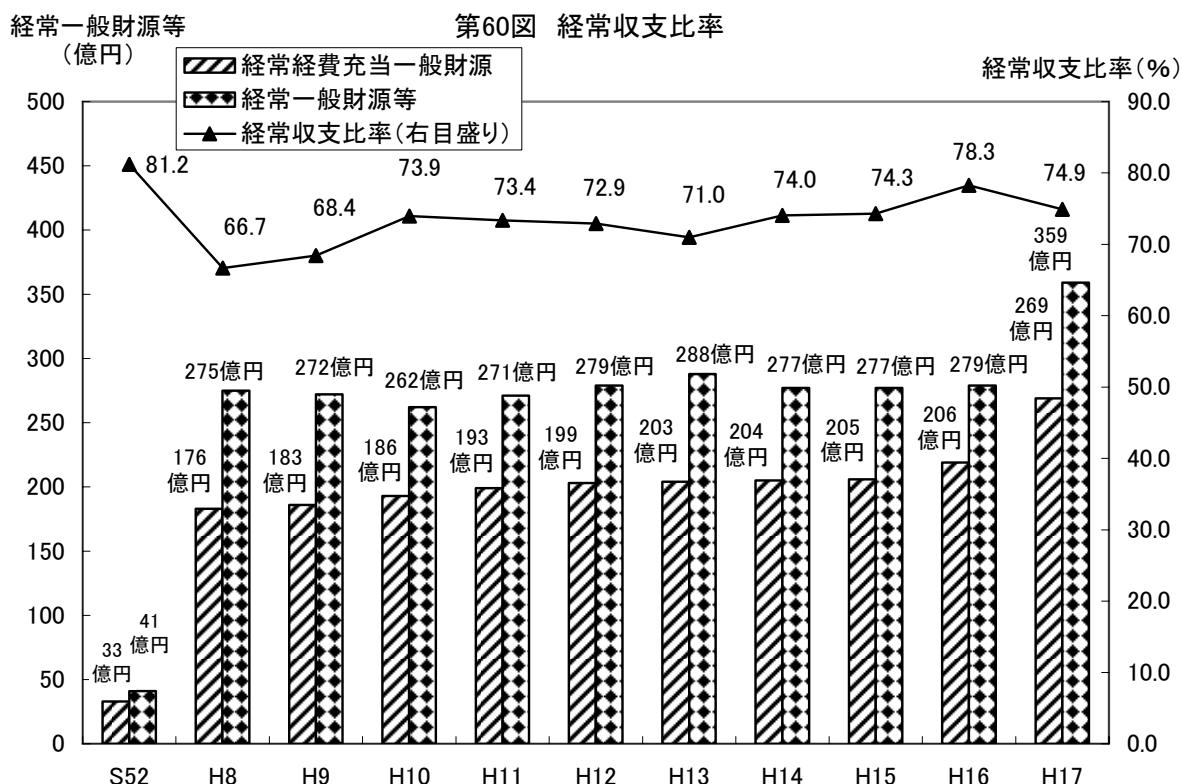
基準財政需要額とは、普通交付税の算定基礎となるもので、各地方公共団体が合理的、かつ、妥当な水準における行政を行い、または施設を維持するための財政需要を一定の方法によって合理的に算定した額をいいます。

## ○経常収支比率

経常収支比率とは、財政構造の弾力性を判断するための指標で、税など毎年度経常的に収入される一般財源を、人件費や扶助費、公債費などの毎年度経常的に支出する経費にどれほど充当しているかをみるものです。この比率が高い程、公共施設の整備など投資的な経費に充当する財源の余裕が少なくなり、財政運営が厳しくなります。

都市にあっては70～80%にあるのが望ましく、80%を超えると財政構造の弾力性が失われつつあるといわれています。

第60図は、経常収支比率の推移です。この10年、80%以下の範囲で推移しており財政の健全性を維持しています。平成14年度以降上昇傾向にありましたが、平成17年度は法人市民税の増加などの要因により、減少に転じています。



$$\text{経常収支比率} = \frac{\text{経常経費充当一般財源}}{\text{経常一般財源等}} \times 100$$

※ 平成13年度から経常一般財源等には減税補てん債が含まれています。  
また、平成17年度から合併に伴い旧下総町・大栄町の臨時財政対策債が含まれています。

### 【用語解説】一般財源・特定財源とは

一般財源とは、歳入のうち税などのように用途が特定されず、どのような経費にも使用することができるものをいいます。一方、特定財源とは、生活保護費の負担金や道路整備のための補助金などのように、用途が限定されているものをいいます。

## ○市債

市債は、財政運営上の資金調達手段であると同時に、学校・道路・公園など、長期間にわたり効果を生ずる施設整備にあたり、将来利用する住民の方々にもその一部を負担していただく方法として活用しています。

公債費はこの市債に対する元利償還金にあたりますが、これは義務的経費の中でも特に弾力性が乏しい経費であるので、その動向には十分留意する必要があります。

この公債費（市債）の財政負担の度合いを判断する指標には、「公債費比率」、「起債制限比率」、「公債費負担比率」、「実質公債費比率」などがあります。第 61 図は各指標の推移です。

### ・公債費比率

公債費比率とは、税などの一般財源をどれくらい借入金の返済である公債費に充当しているかの割合を表しています。

この比率が高いと、投資的経費に充当される一般財源が少なくなり、財政の弾力性が失われることとなります。

一般的には、10%を超えないことが望ましいとされています。成田市では平成8年度以降は9%台で推移しており健全な財政状態を維持しています。平成16年度は11%と高いですが、これは減税補てん債の一括償還による一時的なものです。

公債費比率 =

$$\frac{(\text{公債費充当一般財源}) - (\text{事業費補正を除いた基準財政需要額算入公債費})}{(\text{標準財政規模}) + (\text{臨時財政対策債発行可能額}) - (\text{事業費補正を除いた基準財政需要額算入公債費})} \times 100$$

### ・起債制限比率

起債制限比率とは、公債費比率と同様、地方債元利償還金に充当された一般財源の標準財政規模等に対する割合で、3ヵ年平均の数値です。これは、多額の公債費により財政を圧迫している団体に対し、地方債の発行を制限するために設けられた指標で、この数値が20%以上になると地方債の一部が、また30%以上になると殆どの地方債（公営企業債の一部を除く）の発行が制限されることとなります。成田市では7~8%台で推移しており良好な状態を維持しています。

起債制限比率 =

$$\frac{(\text{公債費充当一般財源}) - (\text{基準財政需要額算入公債費})}{(\text{標準財政規模}) + (\text{臨時財政対策債発行可能額}) - (\text{基準財政需要額算入公債費})} \times 100$$



・ **公債費負担比率**

公債費負担比率とは、一般財源総額に対する公債費に充当された一般財源（一時借入金利子等を含む）の占める割合です。すなわち、公債費により一般財源の使途がどの程度制約されているかをみるものであり、財政構造の弾力性を判断する指標です。一般的には15%が警戒ライン、20%を超えると危険であるといわれています。成田市は、10%前後で推移しており財政構造の弾力性を維持しています。

平成16年度が11%と高いのは、減税補てん債一括償還による一時的なものです。

$$\text{公債費負担比率} = \frac{\text{公債費充当一般財源}}{\text{一般財源総額}} \times 100$$

・ **実質公債費比率**

実質公債費比率とは、平成18年度に地方債許可制度が協議制度に移行したことに伴い設けられた新たな指標で、標準財政規模に占める実質的な公債費に費やした一般財源の割合を、3カ年平均した数値です。

従来の公債費比率に対し、上水道などの公営企業等の支出する元利償還金への一般会計からの繰出金、一部事務組合等の起こした地方債の元利償還金に対する負担金、公債費に準ずる債務負担行為に係る額を準元利償還金として算入しております。

この実質公債費比率が18%を超えると地方債許可団体となり、25%超で単独事業の起債が認められなくなる起債制限団体となります。

成田市の平成17年度実質公債比率は9.4%です。

$$\text{実質公債費比率} = \frac{\begin{matrix} \text{(公債費充当一般財源)} & + & \text{(準公債費充当一般財源)} & - & \text{(基準財政需要額算入公債費及び準公債費)} \\ \text{(標準財政規模)} & + & \text{(臨時財政対策債発行可能額)} & - & \text{(基準財政需要額算入公債費及び準公債費)} \end{matrix}}{\times 100}$$

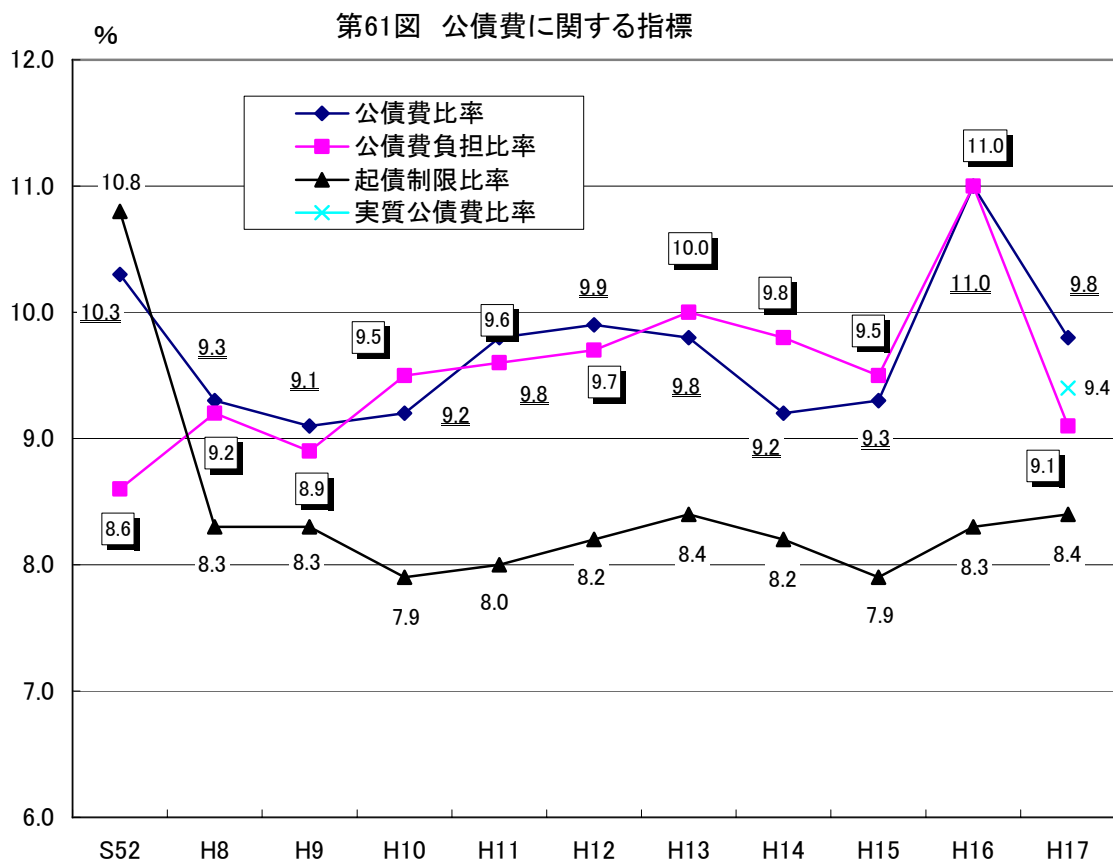
【用語解説】 **標準財政規模とは**

標準財政規模とは、普通交付税の算定の仕組みを通じて表されるもので、その団体の標準的な一般財源の規模を示すものです。

$$\text{算式} = (\text{基準財政収入額} - \text{譲与税額} - \text{交通安全対策特別交付金}) \times 100 / 75 + \text{譲与税額} + \text{交通安全対策特別交付金} + \text{普通交付税}$$

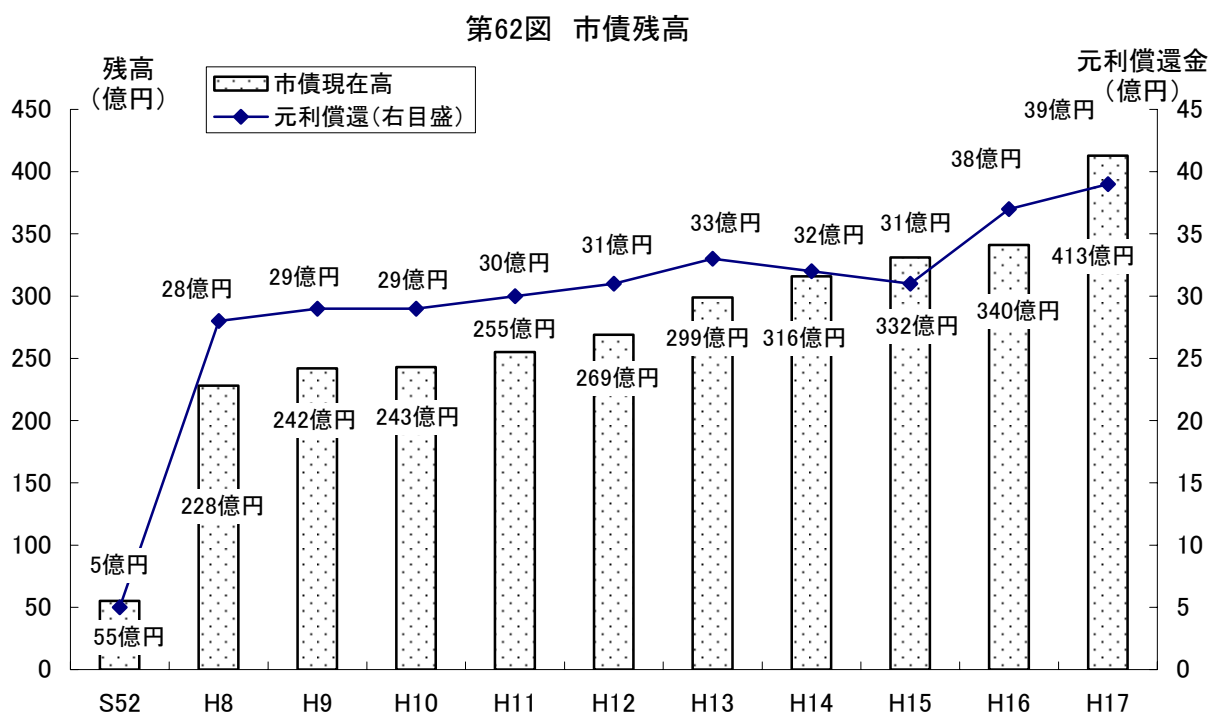
【用語解説】 **債務負担行為とは**

債務負担行為とは、履行された債務について、その翌年度以降に支出を行う行為で単年度予算の原則の例外の一つです。起こすにあたり事項、期間、限度額について予算書の項目の一つとして定める必要があります。



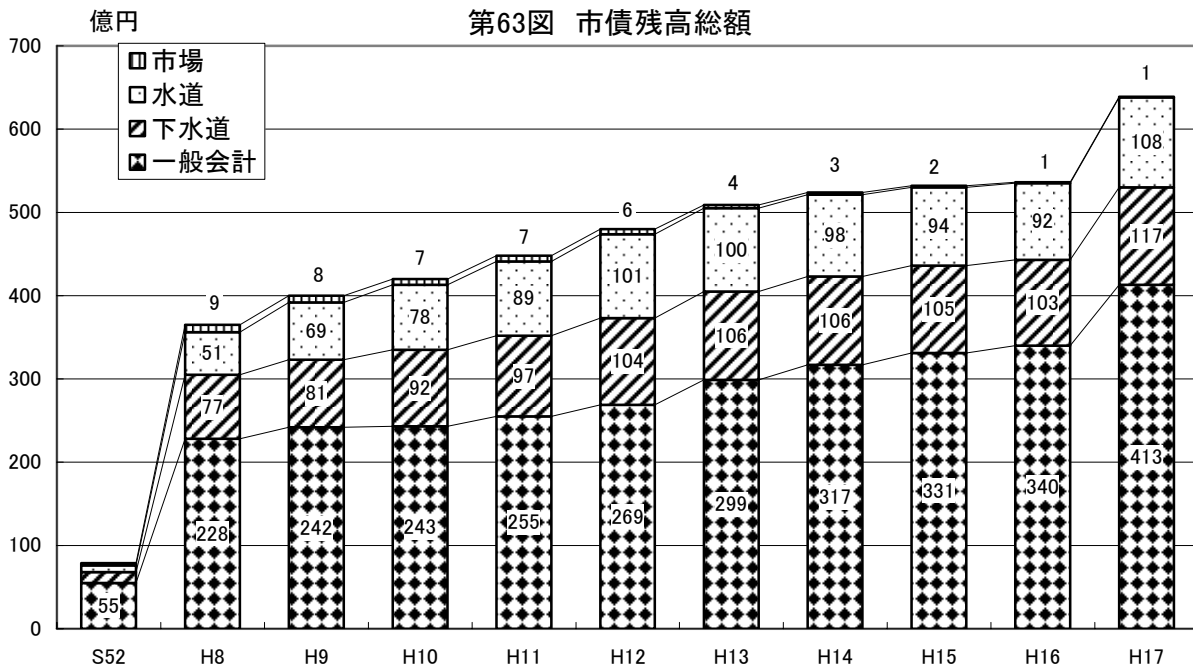
#### ・市債残高

市債残高は施設整備の進捗に伴い累増しており、また、公債費（元利償還金）も増加傾向にあります。第62図は市債残高と公債費の推移です。



### ・特別会計を含めた市債残高総額

特別会計を含めた市債残高も累増しており、上下水道事業、公設地方卸売市場事業を含めた平成17年度末の市債残高総額は639億円に達しています。第63図は市債残高総額の推移です。(水道事業には簡易水道事業を、下水道事業には農業集落排水事業を含む。)



### ・合併と市債について

合併により、特別会計・公営企業会計も含め旧下総町・大栄町の全ての町債を承継しましたが、これとは別に合併による影響で旧下総町・大栄町が加入していた佐原市外五町消防組合が消滅したため、組合所管の2町分の起債のうち消防庁舎（不動産）に関するものも承継しています。

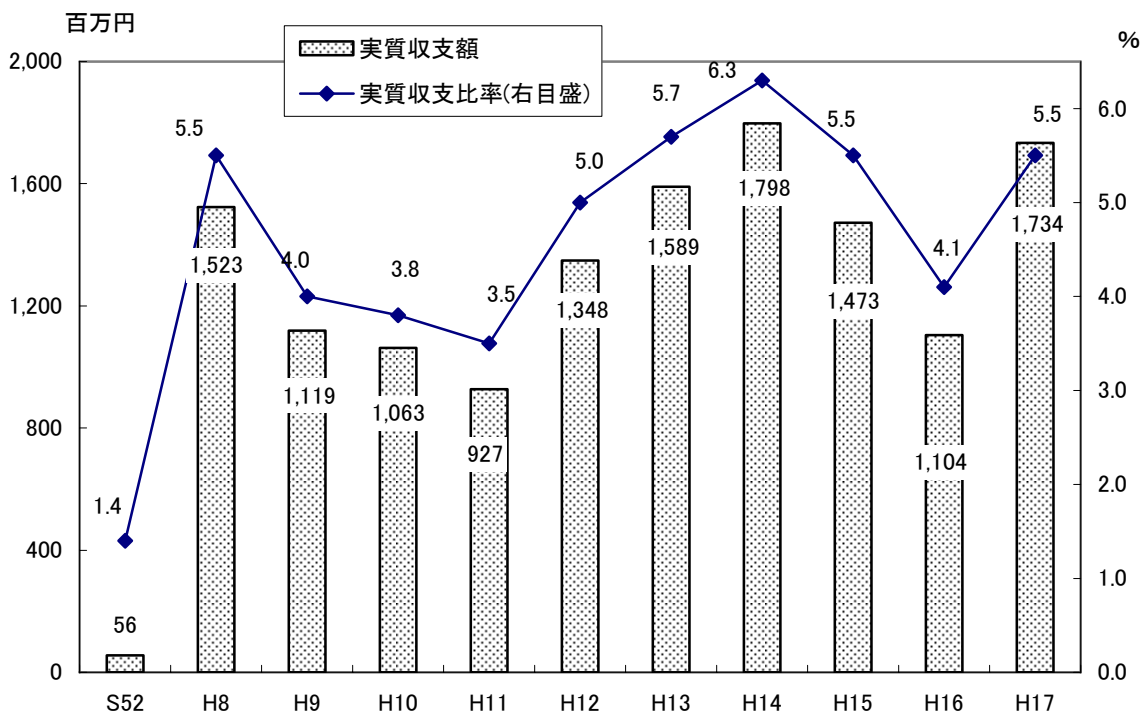
## ○実質収支比率

実質収支比率とは、標準財政規模に対する実質収支の割合をいいます。実質収支は、その年度に属すべき収入と支出の実質的な差額（形式収支から繰越すべき財源を差し引いたもの）、つまり市町村の「黒字」または「赤字」を意味します。黒字の場合は収支に純余剰があるということで健全な財政運営と言えますが、一般的には、3～5%程度が望ましいとされています。

第64図は実質収支比率の推移です。年度によって振幅はありますが概ね望ましい範囲で推移しており、財政運営の健全性は維持されています。

$$\text{実質収支比率} = \frac{\text{実質収支額}}{\text{標準財政規模}} \times 100$$

第64図 実質収支比率



### 【用語解説】実質収支比率とは

実質収支比率とは標準財政規模に対する実質収支額の割合をいいます。実質収支が赤字の場合の比率（赤字比率ともいう）が一定の限度を超える団体は地方債の発行が制限されます（起債制限比率とは別の指標による発行制限です）。これが、都道府県においては5%、市町村にあつては20%以上になると、財政再建計画を策定して財政再建を行う場合でなければ地方債をもって公共施設等の建設事業の財源とすることができません。

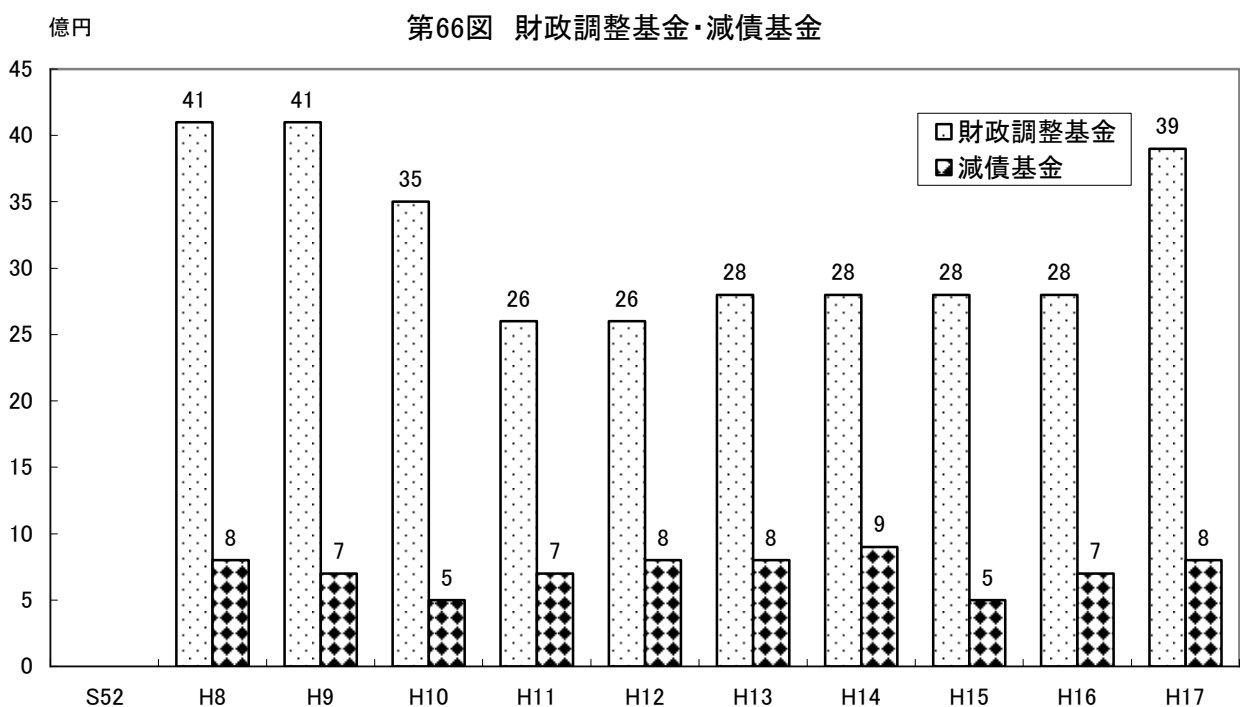
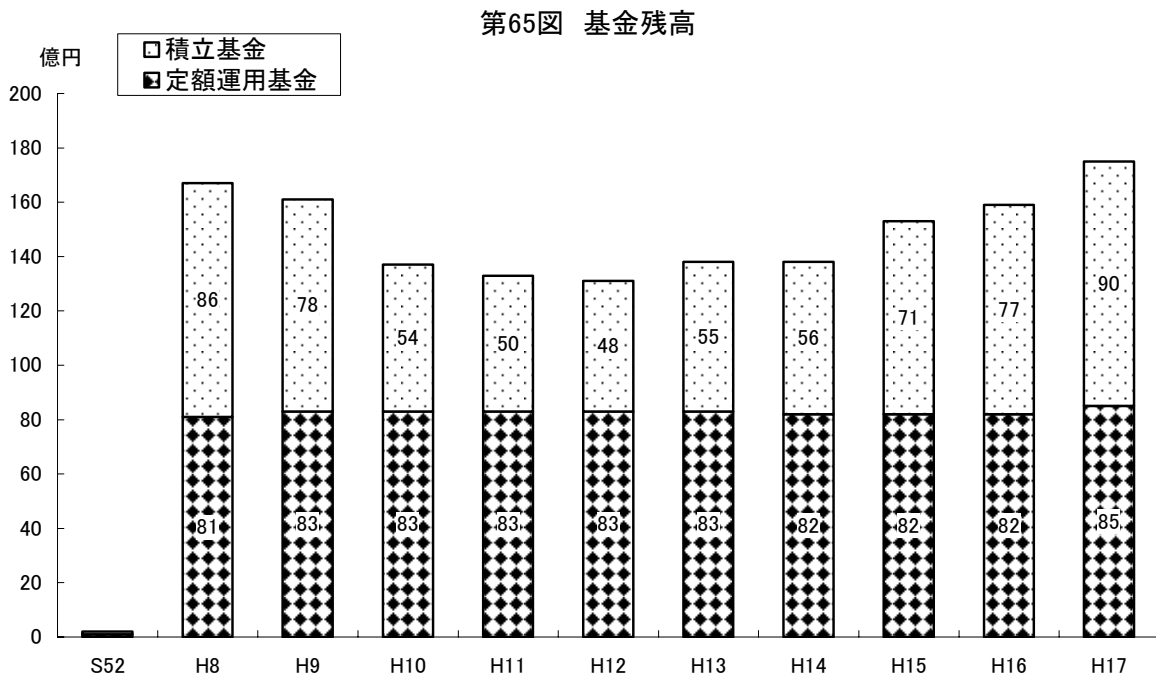
最近では、北海道で再建手続きを進めている団体があります。

## ○基金

基金は積立基金と定額運用基金の2つに区分され、積立基金とは、特定の目的のために資金を積み立て、必要な時に取崩して使用することで財源の調整機能を果たすものです。平成17年度は財政調整基金などに積立を行っています。定額運用基金とは、土地開発基金のように特定の目的のために定額の資金を運用するものです。

平成17年度残高は合併などの理由で、合わせて15億5千万円の対前年度比増となりました。今後も引き続き適正な利用に努め、安全で有利な有価証券への預託など、運用についても検討してまいります。第65図・第66図は基金残高の推移です。

また、第19表は、市の保有する基金の状況です。(水道事業会計分は除く)



第19表 基金推移

		S 5 2	H 8	H 9	H 1 0	H 1 1
積立基金	財政調整基金	7,836	4,068,607	4,095,053	3,511,846	2,552,714
	庁舎再建設基金	12,258	1,204	1,207	1,211	1,213
	減債基金		827,272	677,612	519,615	667,568
	社会福祉事業基金	8,888	186,883	189,224	190,616	191,595
	開発整備基金	80,000	842,233	370,427		
	一世紀夢の基金		3,942	3,969	3,994	4,007
	ふるさと基金		92,300	94,800	95,800	256,300
	空港周辺対策事業基金		1,740,541	1,532,941	262,089	113,009
	国際交流基金		200,000	200,000	200,000	200,000
	高齢者社会対策基金		450,000	450,000	450,000	450,000
	と蓄場跡地整備基金		58,290	60,873	63,386	65,772
	少子化対策臨時特例基金					33,960
	子ども夢基金					
	中学校建設基金					
	交通・火災共済財政調整基金	16,336	11,007	6,906		
	国民健康保健財政調整基金（事業勘定）	13,928	68,794	69,214	69,539	69,713
	国民健康保健財政調整基金（施設勘定）					
	介護保険円滑導入基金					431,441
	介護保険財政調整基金					
	大栄工業団地汚水処理施設等維持管理基金					
準用河川天昌寺川整備基金						
伊能歌舞伎基金						
<b>積立基金 合計</b>		139,246	8,551,073	7,752,226	5,368,096	5,037,292
定額運用基金	国民年金印紙調達基金	15,000	100,000	100,000	100,000	100,000
	用品調達基金	1,000	5,000	5,000	5,000	5,000
	交通遺児及び母子家庭等就学資金貸付基金	1,781	23,815	23,815	23,836	23,841
	土地開発基金	96,961	7,604,312	7,779,962	7,782,209	7,783,047
	文化基金		391,092	393,593	396,348	397,690
	国民健康保健出産費資金貸付基金					
	国民健康保健高額医療費資金貸付基金					
	農業集落排水事業宅内接続費資金貸付基金					
<b>定額運用基金 合計</b>		114,742	8,124,219	8,302,370	8,307,393	8,309,578
<b>基金 合計</b>		253,988	16,675,292	16,054,596	13,675,489	13,346,870

(単位:千円)

H 1 2	H 1 3	H 1 4	H 1 5	H 1 6	H 1 7	
2,556,619	2,810,003	2,810,331	2,810,376	2,782,774	3,878,423	財政調整基金
1,214	1,215	1,215	1,215	1,215	1,215	庁舎再建設基金
757,807	846,550	863,335	530,908	726,244	752,323	減債基金
192,421	192,505	192,511	192,515	192,520	449,236	社会福祉事業基金
						開発整備基金
4,017	4,021	4,023	4,025	4,026	4,027	一世紀夢の基金
260,800	261,800	261,800	261,800	261,800	291,800	ふるさと基金
113,256	413,369	413,404	613,435	1,113,457	1,013,566	空港周辺対策事業基金
200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	214,066	国際交流基金
450,000	450,000	450,000	450,000	450,000	507,882	高齢者社会対策基金
68,088	70,322	72,547	74,529	76,511	78,504	と蓄場跡地整備基金
						少子化対策臨時特例基金
	22,333	24,305	21,481	18,477	16,280	子ども夢基金
			1,494,040	1,479,798	545,240	中学校建設基金
						交通・火災共済財政調整基金
69,832	69,862	69,862	69,863	69,864	129,337	国民健康保健財政調整基金(事業勘定)
					125,142	国民健康保健財政調整基金(施設勘定)
112,833						介護保険円滑導入基金
46,039	153,477	224,994	333,512	328,016	529,715	介護保険財政調整基金
					201,808	大栄工業団地汚水処理施設等維持管理基金
					200,492	準用河川天昌寺川整備基金
					20,000	伊能歌舞伎基金
4,832,926	5,495,457	5,588,327	7,057,699	7,704,702	8,959,056	<b>積立基金 合計</b>
100,000	100,000					国民年金印紙調達基金
5,000	5,000	5,000	5,000	5,000		用品調達基金
23,844	23,845	23,845	23,845	23,845	23,845	交通遺児及び母子家庭等就学資金貸付基金
7,783,384	7,783,793	7,783,802	7,783,810	7,783,817	8,075,741	土地開発基金
398,761	398,926	398,935	398,943	398,951	399,111	文化基金
	5,000	5,000	5,000	5,000	6,000	国民健康保健出産費資金貸付基金
		4,000	6,000	6,000	10,000	国民健康保健高額医療費資金貸付基金
					5,000	農業集落排水事業宅内接続費資金貸付基金
8,310,989	8,316,564	8,220,582	8,222,598	8,222,613	8,519,697	<b>定額運用基金 合計</b>
13,143,915	13,812,021	13,808,909	15,280,297	15,927,315	17,478,753	<b>基金 合計</b>

## 2) 主な財政指標の全国比較（16年度決算）

市の財政状況を判断する材料として、今までいろいろな財政指標をみてきました。財政力指数、経常収支比率、公債費に係る各種比率など、いずれの指標においても健全な財政状況だということがわかったかと思いますが、ここでは、全国的な傾向と他の自治体と比較することにより、成田市の財政状況をみていきます。

比較対象として、近隣及び類似団体と比較していきます。類似団体は「人口規模や産業構造が同じような条件、状況にある市」を基に、第20表のように分類されます。

成田市はⅢ－3に分類されますので、同類型の団体を中心にみていきます。

第20表 都市の類型区分

産業構造		Ⅱ,Ⅲ次 95%以上		Ⅱ,Ⅲ次 85~95%未満		Ⅱ,Ⅲ次 85%未満	
		Ⅲ次 65% 以上	Ⅲ次 65% 未満	Ⅲ次 55% 以上	Ⅲ次 55% 未満	Ⅲ次 50% 以上	Ⅲ次 50% 未満
人口	類型	5	4	3	2	1	0
35,000人未満	0	0-5	0-4	0-3	0-2	0-1	0-0
35,000~55,000	I	I-5	I-4	I-3	I-2	I-1	I-0
55,000~80,000	Ⅱ	Ⅱ-5	Ⅱ-4	Ⅱ-3	Ⅱ-2	※	※
80,000~130,000	Ⅲ	Ⅲ-5	Ⅲ-4	<b>Ⅲ-3</b>	Ⅲ-2	※	※
130,000~230,000	Ⅳ	Ⅳ-5	Ⅳ-4	Ⅳ-3	※	Ⅳ-1	※
230,000~430,000	V	V-5	V-4	V-3	※	※	※
430,000~	Ⅵ	Ⅵ-5	Ⅵ-4	※	※	※	※

(注) 産業及び人口構造は、平成12年国勢調査による。

第21表 比較対象都市の状況（歳出）

(人口:H17.3.31現在)

都市名	人口	平成16年度決算額	1人当り決算額	類型
成田市	98,708人	42,342,726千円	428,970円	Ⅲ-3
君津市	92,072人	26,436,660千円	287,130円	Ⅲ-3
木更津市	123,150人	34,276,295千円	278,330円	Ⅲ-3
佐倉市	175,118人	39,624,924千円	226,276円	Ⅳ-5
四街道市	85,186人	20,776,595千円	243,897円	Ⅲ-5
印西市	60,898人	19,963,935千円	327,826円	Ⅱ-3
栃木市	82,698人	26,210,776千円	316,946円	Ⅲ-3
岩槻市※	110,334人	36,340,321千円	329,366円	Ⅲ-3
新発田市	90,623人	34,195,062千円	377,333円	Ⅲ-3
八代市	105,154人	36,199,524千円	344,252円	Ⅲ-3

※岩槻市は平成17年4月1日付けでさいたま市に編入合併されましたが、本データは平成16年度に関するものであり、今回対象としています。

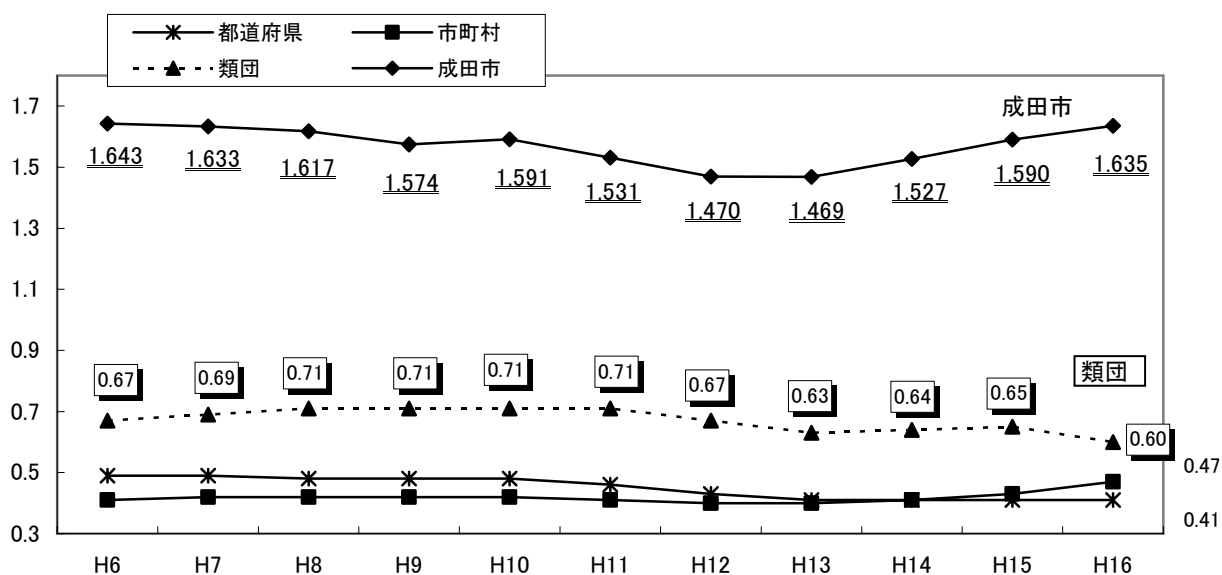


## ○財政力指数

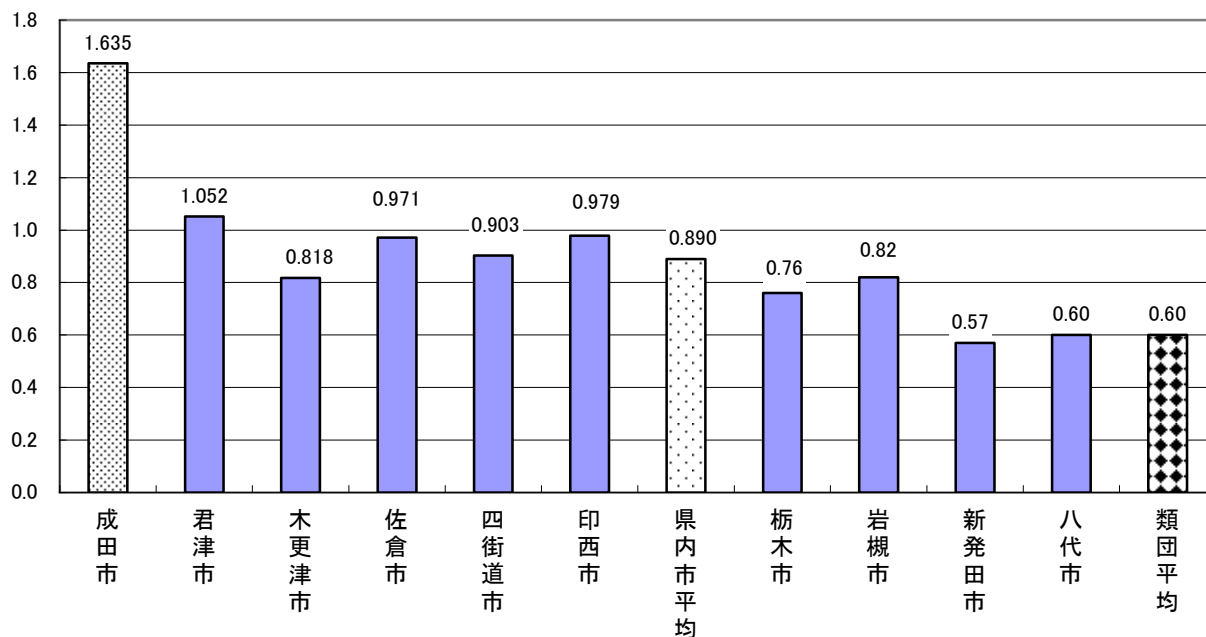
財政力指数が1に満たない団体には普通交付税が交付されます。平成16年度は、全国の都道府県を含む3,147団体のうち3,013団体に交付されました（不交付団体は134）。県内では、前年度と同じ成田市、市原市、浦安市、袖ヶ浦市、市川市、君津市、富津市の7市に、新たに印西市、芝山町が加わり、計9団体が不交付団体となりました。

第67図・68図は全国及び他市の財政力指数の状況ですが、成田市の財政力指数が高いことがわかります。

第67図 財政力指数(全国比較)



第68図 財政力指数(他市比較)

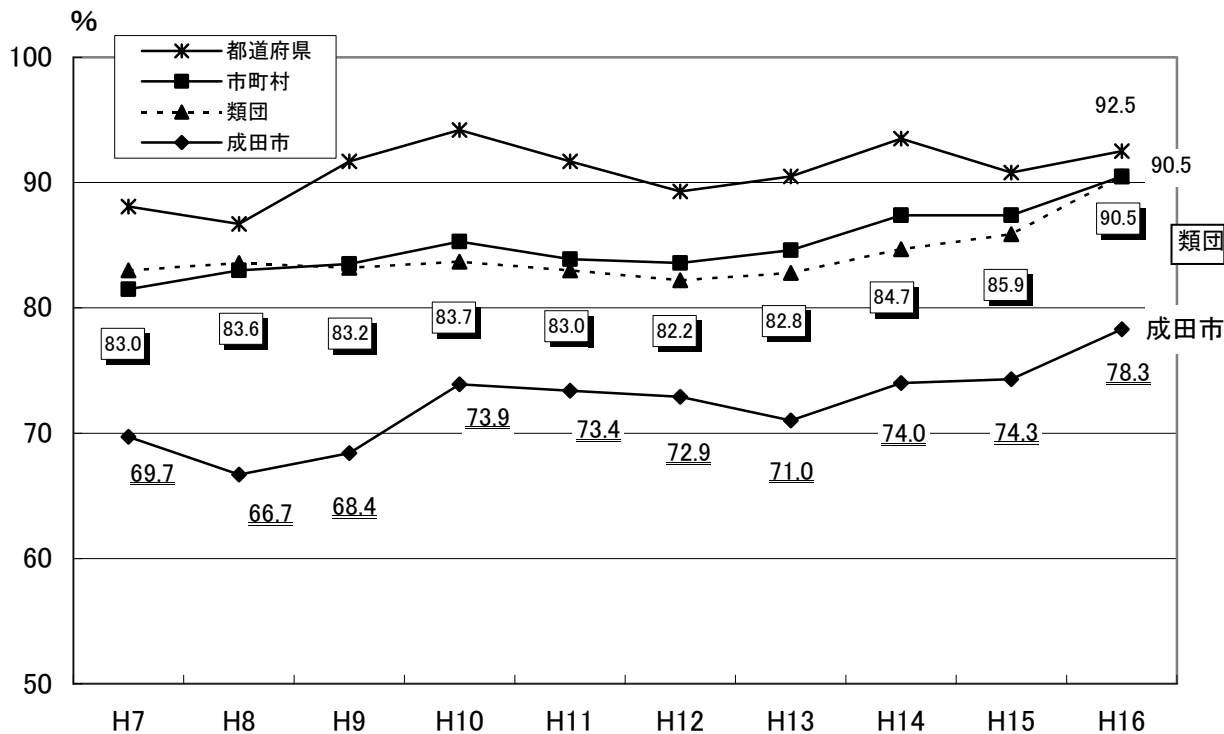


## ○経常収支比率

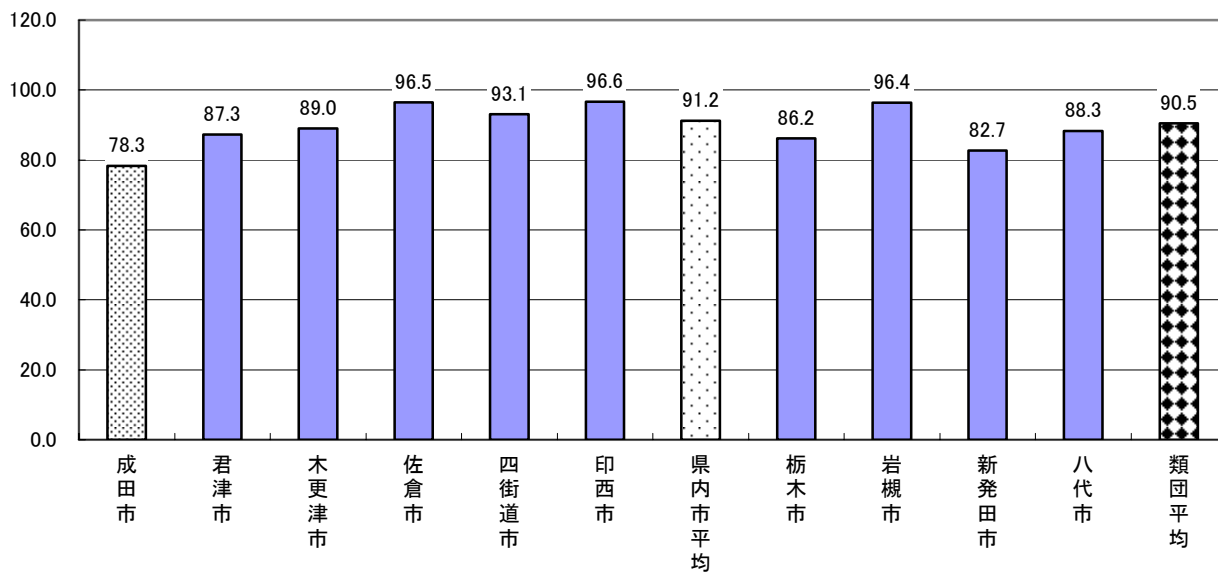
経常収支比率は70～80%が望ましいとされています。成田市では、類似団体に比べて10～15%程度低い水準で望ましい範囲の中で推移しています。

第69図・70図は全国及び他市の経常収支比率の状況です。

第69図 経常収支比率(全国比較)

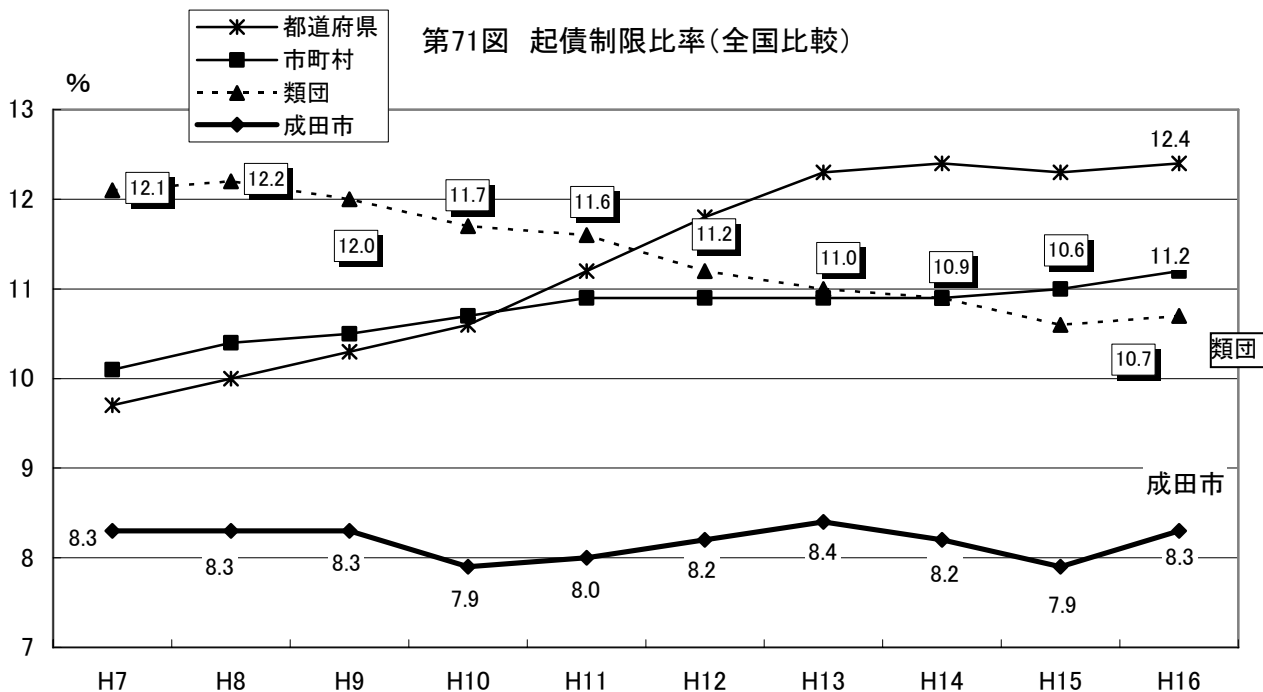


第70図 経常収支比率(他市比較)

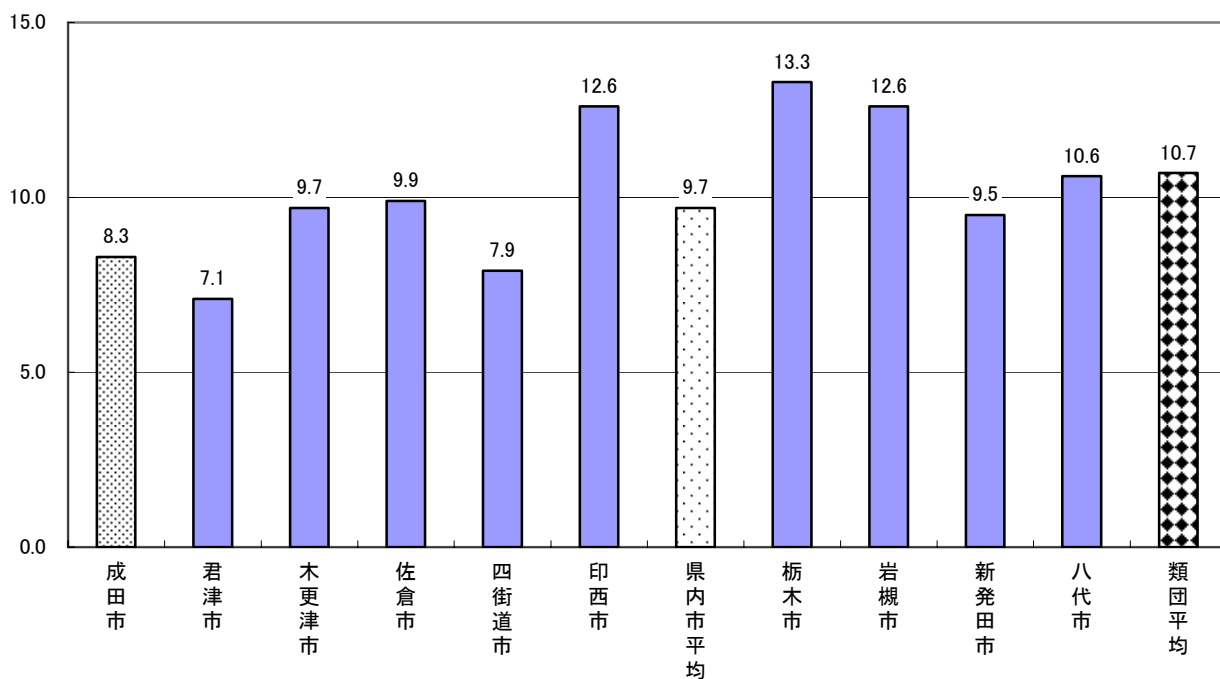


## ○起債制限比率

起債制限比率は20%以上になると地方債の発行が制限されます。成田市では類似団体に比べ、30～50%程度低い水準で健全な範囲で推移しています。全国的には都道府県、市町村とも上昇傾向にあり、財政構造の硬直化が進んでいます。第71図・72図は全国及び他市の起債制限比率の状況です。



第72図 起債制限比率(他市比較)

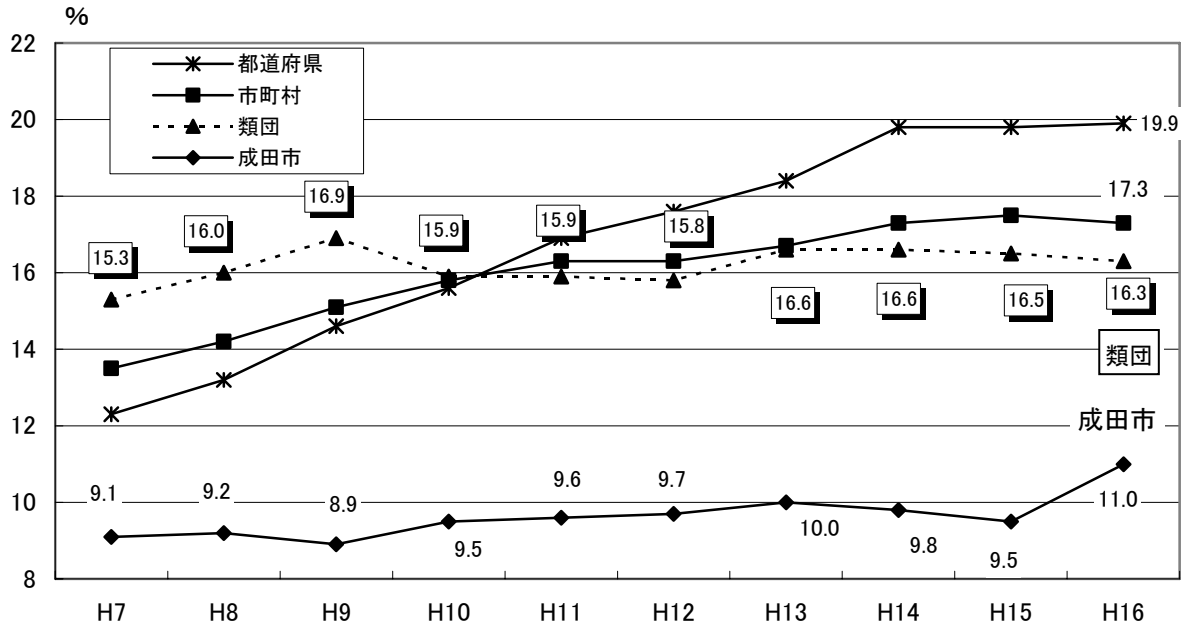


## ○公債費負担比率

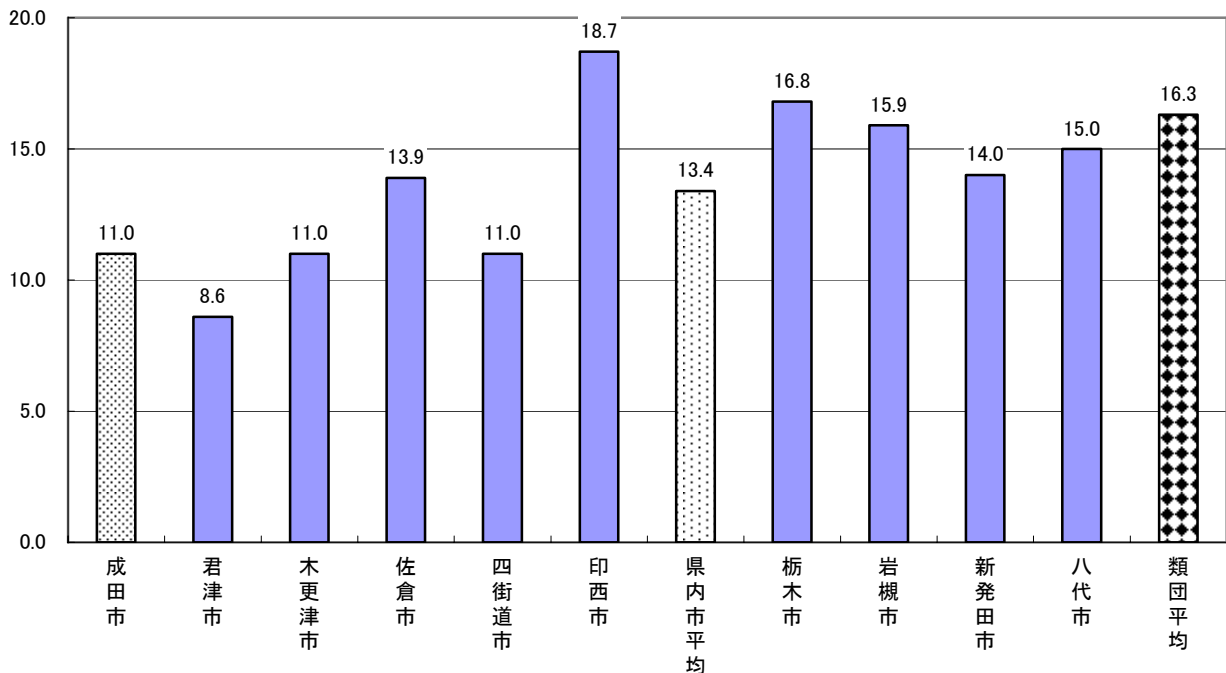
公債費負担比率は20%を超えると危険ラインといわれています。成田市では、類似団体に比べて、40～70%程度低い水準で推移しており財政の健全性を確保しています。全国的には、都道府県、市町村とも上昇傾向にあり財政の硬直化が進んでいます。

第73図・74図は全国及び他市の公債費負担比率の状況です。

第73図 公債費負担比率(全国比較)



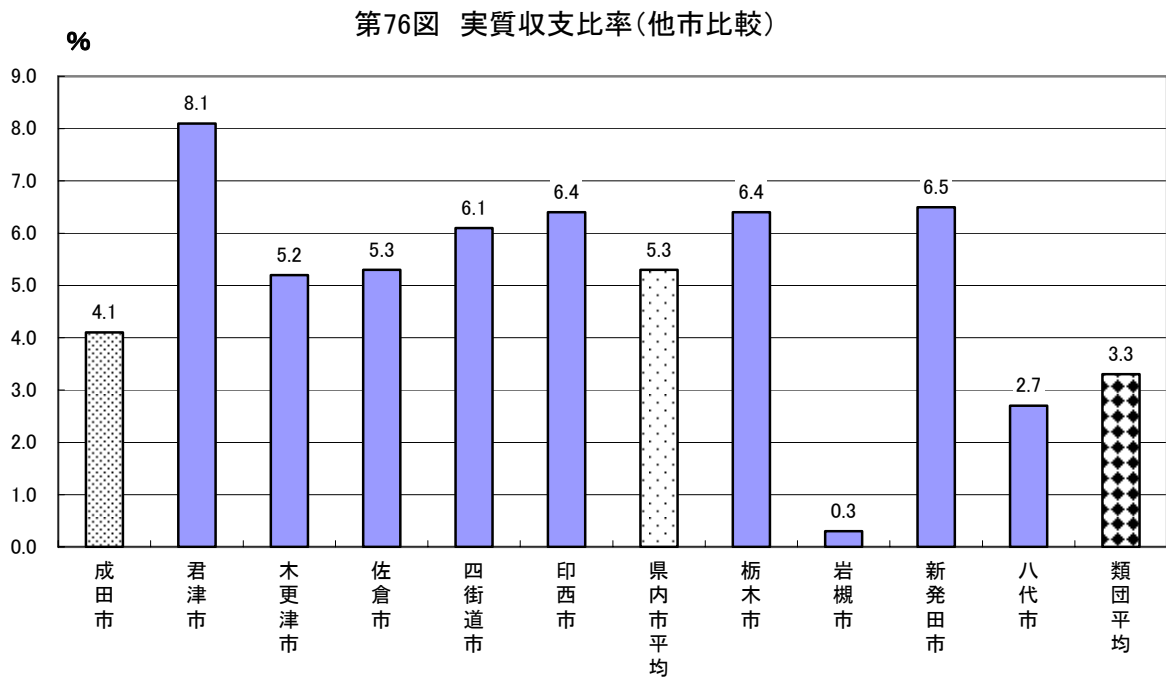
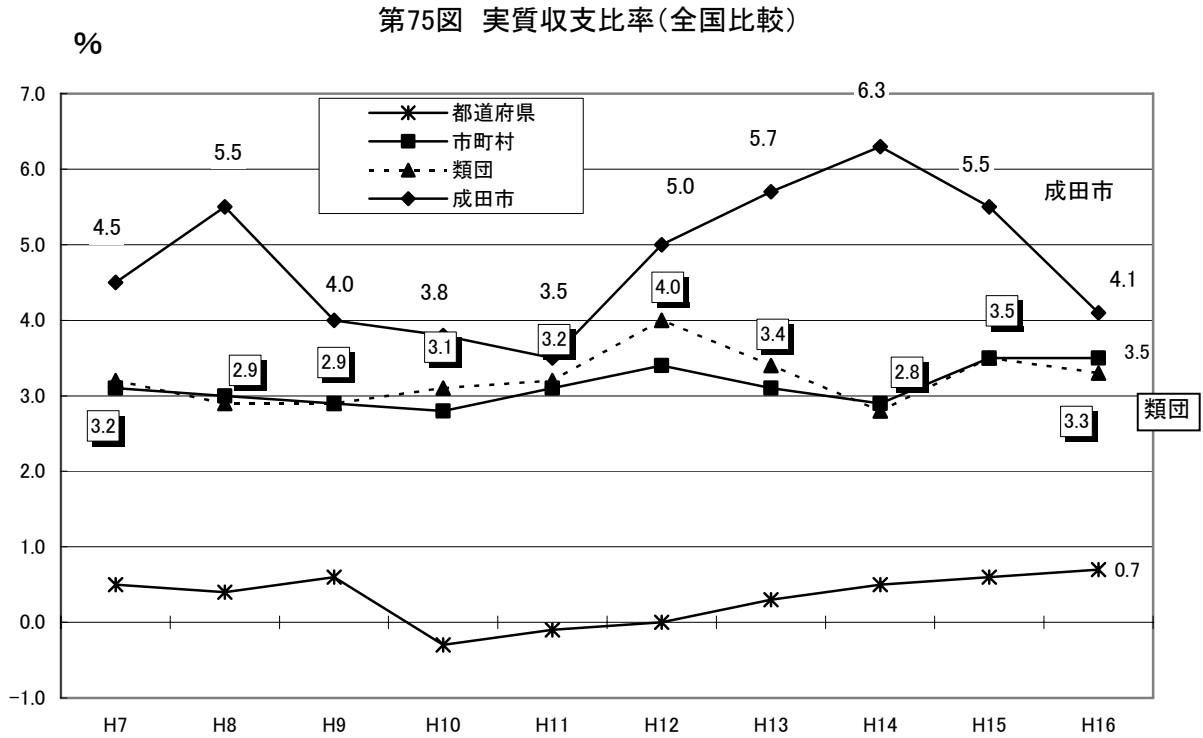
第74図 公債費負担比率(他市比較)



## ○実質収支比率

実質収支比率は、3～5%程度が望ましいとされています。成田市では類似団体に比べ、上下幅は大きいものの概ね良好な範囲で推移しています。全国的にみると、都道府県においては一時赤字比率を示すなど大変低い水準で推移しており、厳しい財政状況が続いています。

第75図・76図は全国及び他市の実質収支比率の状況です



## 第4章 バランスシートと行政コスト計算書

### 第1節 バランスシート

#### 1) 成田市全体のバランスシート

第22表 成田市全体のバランスシート

(平成18年3月31日現在)

【資産】		【負債】	
1. 固定資産	2,400億4,500万円	1. 固定負債	698億4,200万円
総務費(市庁舎、防災施設等)	140億3,500万円	市債	597億7,500万円
民生費(保健福祉館、保育園等)	65億3,200万円	退職給与引当金	98億2,800万円
衛生費(ごみ処理施設、急病診療所等)	131億3,000万円	その他引当金等	2億3,900万円
労働費(勤労者会館等)	8,400万円		
農林水産業費(農道、排水路等)	61億4,000万円	2. 流動負債	45億8,400万円
商工費(東和田駐車場、公衆トイレ等)	10億1,100万円	(翌年度に支払う市債等)	
土木費(道路橋りょう、公園、河川等)	766億9,400万円		
消防費(消防署、消防車等)	26億3,000万円	<b>負債合計</b>	<b>744億2,600万円</b>
教育費(学校、図書館、公民館等)	692億1,600万円		
卸売市場(水産棟、青果棟等)	20億3,000万円		
下水道(下水管、ポンプ施設等)	291億8,800万円		
水道(配水管、配水場等)	193億0,900万円	<b>【正味資産】</b>	
その他	4,600万円	国からの補助金	271億5,100万円
2. 投資等(出資金、貸付金等)	211億2,600万円	県からの補助金	50億1,400万円
		市税等の一般財源	1,745億5,700万円
3. 流動資産(現金、預金等)	199億7,700万円	<b>正味資産合計</b>	<b>2,067億2,200万円</b>
4. 繰延資産	0万円		
<b>資産の合計</b>	<b>2,811億4,800万円</b>	<b>負債と正味資産の合計</b>	<b>2,811億4,800万円</b>

第23表 市民1人あたりのバランスシート

資産	233万円	負債	62万円
		正味資産	171万円

## ○バランスシートの作成基準

### ・バランスシートの意義

このバランスシートは、年度末時点の財務状況を把握するもので、「貸方」は資金をどのように集めたか、「借方」は資金をどのように使ったかを表しています。

資産は、行政サービスを提供するための長期的な経営資源を表しており、土地・建物・出資金・基金等が該当します。

負債は、市債や退職給与引当金等で、将来の返済や支出が確実に見込まれるものです。正味資産は、負債とは逆に国・県からの補助金や市税等の一般財源で資産を形成したもので、返済の必要がないものとなります。

借方	貸方
資 産	負 債
	正味資産

### ・作成の手法

国の基準に基づき、昭和 44 年度以降の決算統計から資産を推計する手法により作成しています。これは、普通建設事業費をもって固定資産の取得原価とするもので、さらに、次の世代に継承される資産価値を把握するために、区分別に減価償却を行っています。耐用年数は庁舎 50 年、保育園 30 年、道路 15 年、橋りょう 60 年等となっており、この年数で価値がゼロになるよう定額法により減価償却します。ただし、土地は取得時点の購入費がそのまま計上されます。また、職員の退職金総額を推計し、退職給与引当金として負債に計上する等の特徴があります。

特別会計も、同様の手法により作成してあります。また、水道事業会計はバランスシートを作成済みですが、普通会計等に準じてバランスシートを組替えました。

さらに、全会計を連結するに当たっては、普通会計からの出資金等の内部的な取引を相殺する調整を加えてあります。

### ・連結の範囲

普通会計（一般会計。旧下総・大栄町の給食センター事業特別会計を含む）、全ての特別会計（国民健康保険、老人保健、公設地方卸売市場、下水道事業、介護保険、農業集落排水事業、簡易水道事業）、公営企業会計（水道事業）を対象に作成してあります。

### 【用語解説】 バランスシートの項目

固定資産	市が保有する土地や建物など。
投資等	市が所有する基金（財政調整基金等を除く）、他団体への投資・出資・貸付金。
流動資産	歳入額から歳出額を差引いた形式収支、財政調整基金、税や保育料などの収入未済額、水道事業の未収金など。
繰延資産	水道事業の繰延資産で、研究費等を資産計上し 3 年で償却します。
固定負債	返済期限が 1 年を超える債務（市債のうち翌年度の元金償還分を除く残高、退職給与引当金）。
退職給与引当金	年度末に職員全員が普通退職すると仮定した場合の要支給額。
流動負債	市債のうち翌年度の元金償還額など。
正味資産	資産形成に充てられた資金のうち返済不要の財源。

## ○バランスシートからわかること

このバランスシートは、一般会計、全ての特別会計及び公営企業会計を含めて作成してありますので、成田市が、これまでにどれだけの資産を形成し、どれだけの負債を抱えているかなど、市の全体像を概観することができます。

平成 17 年度末現在、2,811 億円の資産があります。特に、空港開港に伴う空港関連事業及び人口増加等により、道路・公園等の土木費、小中学校・公民館・図書館等の教育費、上水道や下水道等の整備が大きな割合を占めていることがわかります。

一方、744 億円の負債があるのも把握できます。これは、市民が長期にわたって使用する施設の整備にあたっては、将来の市民にもその一部を負担していただくために、市債を財源としているため、今後必ず返済しなければならないものです。

正味資産は、2,067 億円。資産形成の財源のうち将来に負担を残さない資金として、市税や国・県からの補助金等で賄ったものです。資産に対する割合が多く、成田市が健全な財政運営をしてきたことがわかります。

## ○バランスシートの分析

### ・社会資本形成の世代間負担比率（これまでの世代による社会資本負担比率）

社会資本の整備の結果である「固定資産」のうち、正味資産によって形成されている比率です。正味資産は、『これまでの世代による資産形成』の額を示しますので、この比率が高いほど、将来世代の負担が少ないといえます。

成田市では、市民が長期にわたって使用する施設の整備にあたっては、将来世代にもその一部を負担していただくために、市債も財源としていますが、これまでの世代による負担比率が高く、健全な財政運営をしてきたことがわかります。

平成 17 年度においても公津の杜小学校・美郷台小学校、久住中学校建設事業などの大規模事業が進捗していますが、第 24 表のとおり「社会資本形成の世代間負担比率」は横ばいの状況にあります。

第 24 表 社会資本形成の世代間負担比率

	平成 15 年 3 月	平成 16 年 3 月	平成 17 年 3 月	平成 18 年 3 月
固定資産 A	195,388 百万円	198,348 百万円	202,182 百万円	240,045 百万円
正味資産合計 B	168,182 百万円	170,488 百万円	173,069 百万円	206,722 百万円
これまでの世代による社会資本負担比率 b/a	86.1%	86.0%	85.6%	86.1%



・固定資産の目的別割合

固定資産の行政目的別割合を見ることにより、分野ごとの資産形成の比重を把握することができます。第25表・第77図は固定資産の目的別割合です。

成田市では、平成17年度末現在で2,400億円の固定資産残高を保有していますが、道路・公園等の土木費、小中学校・公民館・図書館等の教育費、上下水道等の整備が大きな割合を占めていることがわかります。

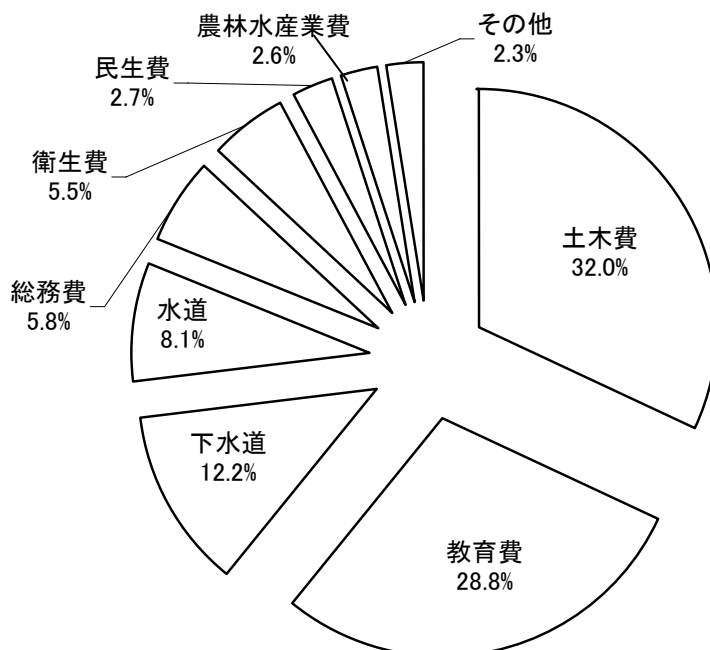
また、前年度との比較では、合併によりおおむね増加しましたが、公津の杜小学校の開校などの要因もある教育費は、金額・割合共に大きく増加しているのが目立ちます。

第25表 固定資産の行政目的別割合前年度比較

(単位：百万円)

	平成17年3月		平成18年3月		増減金額
	金額	割合	金額	割合	
総務費(支所を含む市庁舎、防災施設等)	10,882	5.4%	14,035	5.8%	3,153
民生費(保育園、福祉作業所等)	5,366	2.7%	6,532	2.7%	1,166
衛生費(ごみ処理施設、急病診療所等)	12,513	6.2%	13,130	5.5%	617
労働費(勤労者会館等)	92	0.0%	84	0.0%	△8
農林水産業費(農道、排水路等)	4,447	2.2%	6,140	2.6%	1,693
商工費(東和田駐車場、公衆トイレ等)	997	0.5%	1,011	0.4%	14
土木費(道路橋りょう、公園、河川等)	66,989	33.1%	76,694	32.0%	9,705
消防費(消防署、消防車等)	2,593	1.3%	2,630	1.1%	37
教育費(学校、図書館、公民館等)	54,905	27.2%	69,216	28.8%	14,311
卸売市場(水産棟、青果棟等)	2,071	1.0%	2,030	0.8%	△41
下水道(下水管、ポンプ施設等)	25,352	12.5%	29,188	12.2%	3,836
水道(配水管、配水場等)	15,952	7.9%	19,309	8.1%	3,357
その他	23	0.0%	46	0.0%	23
合計	202,182	100.0%	240,045	100.0%	37,863

第77図 固定資産の行政目的別割合



## ・負債の状況

負債とは、将来の支出が確実に見込まれる債務であり、将来世代が負担する借金です。負債は、市債及び退職給与引当金等の固定負債と、市債の翌年度償還予定額である流動負債で構成されています。翌年度償還予定額を含めた市債残高の総額は639億円となっており、世代間の負担の公平化を考慮しても、その運用には細心の注意が必要となります。第26表は市債の平成17年度の増減状況です。

第26表 市債増減状況

(単位：千円)

	前年度末 現在高	増加 (合併引継含む)	減少	当年度末 現在高	前年度比較
一般会計	34,015,961	9,846,084	2,593,689	41,268,356	7,252,395
下水道事業	10,314,065	241,400	561,842	9,993,623	△320,442
市場事業	115,161		19,482	95,679	△19,482
農業集落排水事業		1,670,792	688	1,670,104	1,670,104
水道事業	9,166,639	100,300	311,512	8,955,427	△211,212
簡易水道事業		1,904,100		1,904,100	1,904,100
合計	53,611,826	13,762,676	3,487,213	63,887,289	10,275,463

## ・市民1人あたりの資産と負債

資産や負債を「市民1人あたり」に換算することで、具体的なイメージをつかむことができます。第27表は市民1人あたりの資産と負債の状況です。

第27表 市民1人あたりの資産と負債

	平成15年3月	平成16年3月	平成17年3月	平成18年3月
人 口 a	97,057人	97,740人	98,708人	120,534人
資 産 b	228,948百万円	232,107百万円	235,052百万円	281,148百万円
負 債 c	60,766百万円	61,619百万円	61,983百万円	74,426百万円
1人あたりの資産 b/a	236万円	237万円	238万円	233万円
1人あたりの負債 c/a	63万円	63万円	63万円	62万円

## ・拡大したバランスシート

第22表「成田市全体のバランスシート」では、国の基準に準拠して、関連する団体は連結対象から除外してありますが、土地開発公社、開発協会、教育文化振興財団、農業センター、及び旧下総町・大栄町が出資していた(有)ティ・ティ・エスを連結すると第28表のとおりとなります。資産、負債とも増加しますが、これは主に土地開発公社が公有用地の先行取得にあたり、財源の全てを銀行からの借入金で賄っているためです。

第28表 拡大したバランスシート

( )内は市民1人あたりの数値

資 産	2,828億 200万円 (235万円)	負 債	758億 8,300万円 (63万円)
		正味資産	2,069億 1,900万円 (172万円)

・普通会計と連結後の比較

普通会計のバランスシートと連結したバランスシートを比較すると、第 29 表・第 78 図のとおりです。

「成田市全体のバランスシート」の資産合計は 1.27 倍に増加するのに対し、正味資産合計の増加は 1.21 倍に止まっています。一方、負債は 1.50 倍に増加し、資産の増加率を大幅に上回ります。これは、普通会計と連結した水道事業、簡易水道事業、下水道事業、農業集落排水事業が社会資本整備にあたり、財源の多くを市債により賄っているためです。このことは、社会資本形成の世代間負担比率にも反映され、これまでの世代による社会資本負担比率が、普通会計では 90.4%であるのに対し、連結後は 86.1%に減少します。

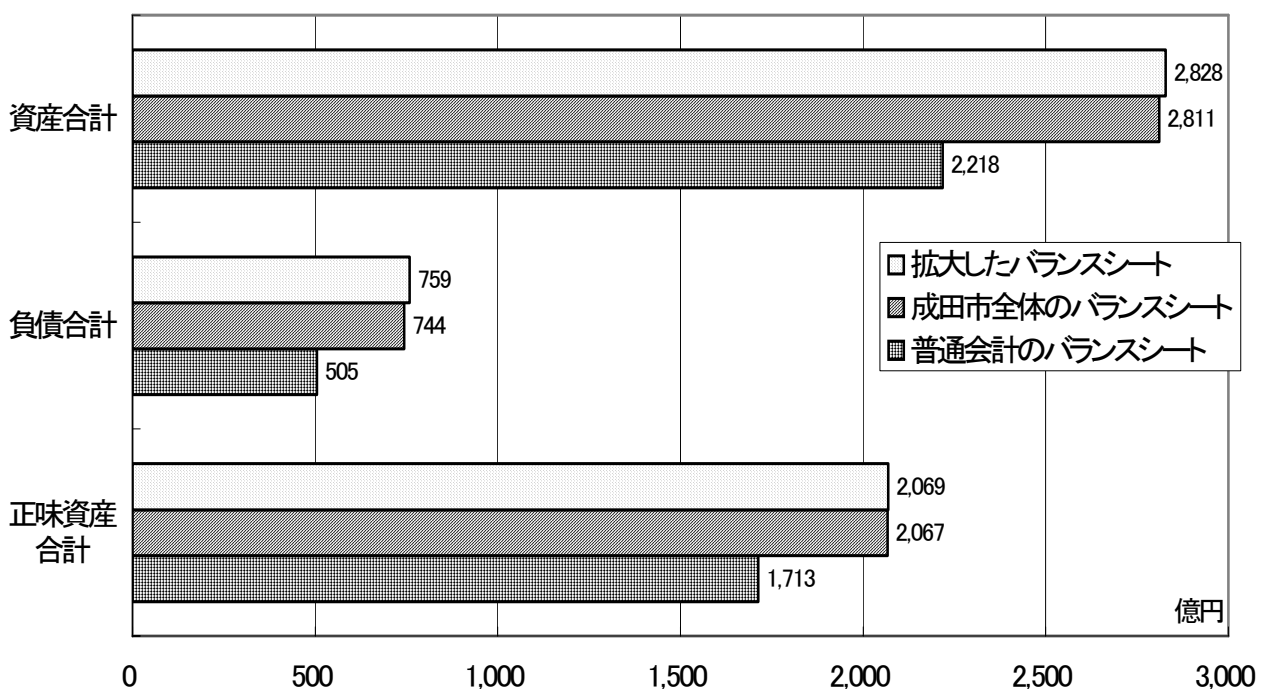
さらに、土地開発公社などを連結した「拡大したバランスシート」では、その傾向が更に強くなります。

このように、普通会計バランスシートだけでは把握できない成田市全体の実態について、特別会計等を含めた連結バランスシートを作成することにより明らかになります。

第 29 表 普通会計と連結後の比較

	普通会計の バランスシート (A) 百万円	成田市全体の バランスシート (B) 百万円	比較 (B)/(A) 倍	拡大した バランスシート (C) 百万円	比較 (C)/(A) 倍
資産合計	221,758	281,148	1.27	282,802	1.28
(うち固定資産)	189,514	240,045	1.27	241,350	1.27
負債合計	50,461	74,426	1.47	75,883	1.50
正味資産合計	171,297	206,722	1.21	206,919	1.21
負債・正味資産合計	221,758	281,148	1.27	282,802	1.28
これまでの世代による 社会資本負担比率	90.4%	86.1%		85.7%	

第78図 普通会計と連結後の比較



## ・バランスシートにおける留意点

このバランスシートは、企業会計基準に基づくものではありません。

国の基準は、昭和44年度以降の決算統計データにより固定資産を推計する手法であるため、昭和43年度以前に取得した資産は計上されていません。また、昭和44年度以後の売却や滅失により除却された資産が計上されるなどの不合理があります。また、個々の資産価値を特定できないなどの問題点もあります。

さらに、特別会計（公設地方卸売市場事業、下水道事業会計、農業集落排水事業会計）の耐用年数が明示されておらず、耐用年数を何年に設定するかによって残存価額に大きな違いが生じます。また、今回計上されていない一部事務組合への負担金の取扱いも課題として残っています。

## ☆紫陽花（アジサイ）好きの陽花ちゃんと財政課長の「なるほど・ザ・財政」 ～バランスシートの見方～



成田市全体のバランスシートをみると、資産が3,000億円近くあるようになっているけど、なんだかピンとこないな。



「資産」は行政サービスを提供するための資源、つまり道路や公園、学校、体育館などの残存価値を示すものになるから、金額が多いほど施設整備が進んでいて、住民はより質の高いサービスが受けられることになるよ。一方「負債」は、施設整備のために借り入れた市債などだから、少ないほうが将来の負担が軽いことを示しているんだ。住民1人当たりで換算してみるとイメージがつかみやすいと思うよ。



なるほど、住民1人当たりでは、233万円の資産と62万円の負債があるわね。うち4人家族だから、932万円の資産と248万円の借金があるってことだよ。これって、マイホームを新築した時にローンを組んで返済してるのと同じことになるの？借金が多いと将来が不安になるけど成田市は大丈夫なの？



市債は資金調達的手段だけでなく、世代間負担の公平化や財政負担の平準化という機能があるんだよ。だから、市債という借金も活用しながら施設整備を進めているんだ。ただし、市債に依存しすぎると将来世代の負担が増えて、財政が硬直化することになるけれど、成田市は固定資産に対する負債の割合が低くなっているよ。



成田市の財政は健全っていうことね。



そうだね。ただし、バランスシートによる財務分析はまだ確立されていないから、公債費比率や起債制限比率などの指標を活用して総合的に判断しないとイケないよ。もちろん、いずれの指標をみても、財政の健全性は確保されているから安心してね。

## 2) 普通会計のバランスシート

第 30 表 普通会計のバランスシート

(平成 18 年 3 月 31 日現在、単位：千円)

借 方		貸 方	
<b>[資産の部]</b>		<b>[負債の部]</b>	
1. 有形固定資産		1. 固定負債	
(1) 総務費	14,034,567	(1) 地方債	38,120,695
(2) 民生費	6,531,950	(2) 債務負担行為	
(3) 衛生費	13,127,001	① 物件の購入等	0
(4) 労働費	83,773	② 債務保証又は損失補償	0
(5) 農林水産業費	6,139,885	債務負担行為計	0
(6) 商工費	1,011,065	(3) 退職給与引当金	9,192,438
(7) 土木費	76,693,685	(4) その他	
(8) 消防費	2,630,192	① 公営企業からの固定負債	0
(9) 教育費	69,215,596	その他計	0
(10) その他	46,315		
計	189,514,029	固定負債合計	47,313,133
(うち土地	64,682,511 )		
有形固定資産合計	189,514,029	2. 流動負債	
2. 投資等		(1) 翌年度償還予定額	3,147,661
(1) 投資及び出資金	6,258,255	(2) 翌年度繰上充用金	0
(2) 貸付金	4,550	(3) その他	
(3) 基金		① 未払費用	0
① 特定目的基金	3,417,027	② 賞与引当金	0
② 土地開発基金	8,075,741	③ 公営企業からの流動負債	0
③ 定額運用基金	422,956	その他計	0
基金計	11,915,724	流動負債合計	3,147,661
(4) 退職手当組合積立金	745,501		
投資等合計	18,924,030	負債合計	50,460,794
3. 流動資産			
(1) 現金・預金		<b>[正味資産の部]</b>	
① 財政調整基金	5,871,410	1. 国庫支出金	21,141,496
② 減債基金	1,152,199	2. 都道府県支出金	4,238,846
③ 歳計現金	2,461,082	3. 一般財源等	145,916,647
現金・預金計	9,484,691		
(2) 未収金			
① 地方税	3,436,379		
② その他	398,654		
未収金計	3,835,033		
(3) その他			
① 前払費用	0		
その他計	0		
流動資産合計	13,319,724	正味資産合計	171,296,989
資産合計	221,757,783	負債・正味資産合計	221,757,783

※債務負担行為に係る補償等

①物件の購入等に係るもの	510,819	千円
②債務保証及び損失補償に係るもの	0	千円
③利子補給等に係るもの	1,824	千円

合併前の旧下総町・大栄町の「学校給食センター事業特別会計」は普通会計に区分されます。

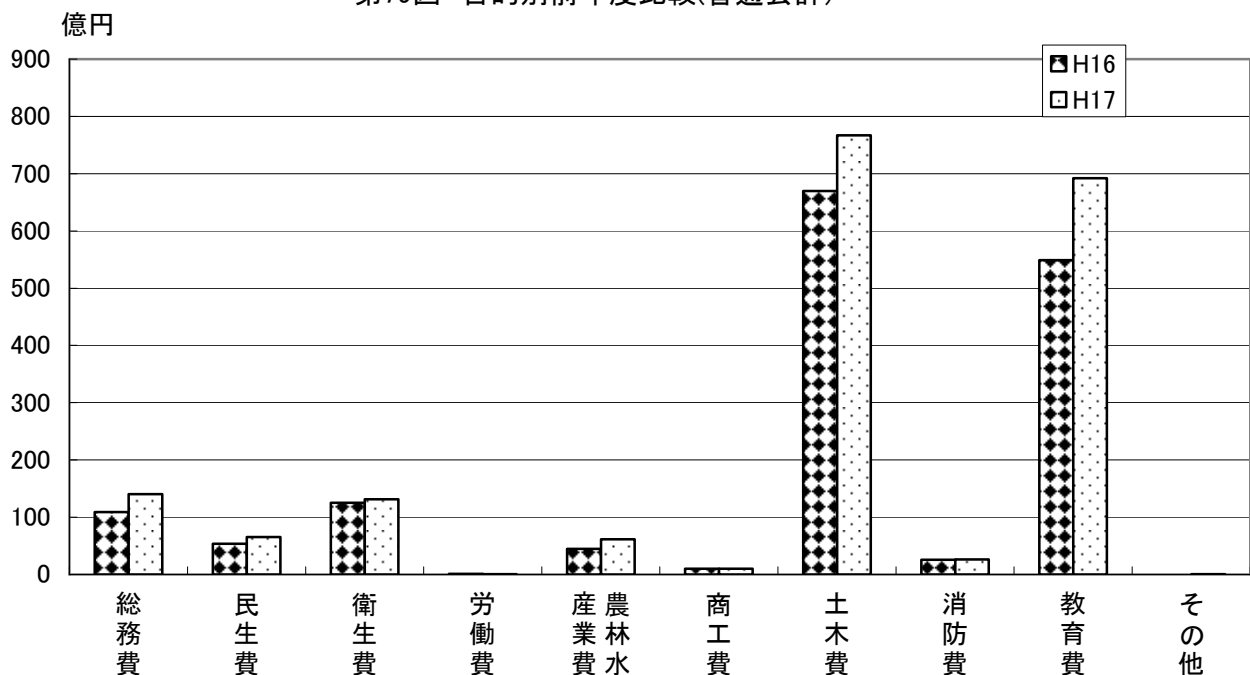
・社会資本形成の世代間負担比率（これまでの世代による社会資本負担比率）

第 31 表 社会資本形成の世代間負担比率（普通会計）（単位：千円）

	平成 15 年 3 月	平成 16 年 3 月	平成 17 年 3 月	平成 18 年 3 月
有形固定資産合計 a	151,839,265	154,853,928	158,806,864	189,514,029
正味資産合計 b	139,983,846	141,724,814	143,720,805	171,296,989
これまでの世代による社会資本負担比率 b/a	92.2%	91.5%	90.5%	90.4%

・固定資産の目的別割合

第 79 図 目的別前年度比較(普通会計)



・市民 1 人あたりの資産と負債

第 32 表 市民 1 人あたりの資産と負債（普通会計）

	平成 15 年 3 月	平成 16 年 3 月	平成 17 年 3 月	平成 18 年 3 月
人 口 a	97,057 人	97,740 人	98,708 人	120,534 人
資 産 b	179,123,606 千円	182,435,366 千円	185,267,597 千円	221,757,783 千円
負 債 c	39,139,760 千円	40,710,552 千円	41,546,792 千円	50,460,794 千円
1 人あたりの資産 b/a	1,846 千円	1,867 千円	1,877 千円	1,840 千円
1 人あたりの負債 c/a	403 千円	417 千円	421 千円	419 千円

## 第2節 行政コスト計算書

### 1) 行政コスト計算書

行政コストの総額は442億円です。一方、一般財源や国庫（県）支出金、使用料・手数料などを合わせた収入は451億円で、9億円の黒字となり、国庫（県）支出金償却額11億円を加えると20億円の黒字となります。

第33表 行政コスト計算書（平成17年4月1日～平成18年3月31日）

	金額(千円)	構成比	内容の説明
人にかかるコスト	11,778,665	26.6%	行政サービスの担い手である職員に要するもの。人件費等を計上しています。
物にかかるコスト	17,737,117	40.1%	施設の運営管理費や減価償却費等を計上しています。
移転支的的なコスト	13,463,683	30.5%	他の主体に移転して効果が出てくるようなもの。扶助費、補助費等を計上しています。
その他のコスト	1,218,217	2.8%	公債費(利子分のみ)と、時効などにより徴収できなかった市税や使用料など。
行政コスト合計 a	44,197,682	100.0%	
収入 b	45,082,797		行政サービスの財源として受ける市税、使用料、手数料、国庫支出金(資産形成に資するものを除く)など。
正味資産国庫(県)支出金償却額 c	1,163,470		有形固定資産の減価償却に合わせて償却された国(県)支出金。
一般財源増減額 b-(a-c)	2,048,585		

### ○コスト計算書の意義

バランスシートは、主に社会資本の整備（資産）とその財源（負債・正味資産）の状況を把握するためのものであり、人的サービスや給付サービスなど、資産形成につながらない支出を把握することができません。成田市では、これまでも福祉・環境・教育等をはじめ、各行政分野でソフトサービスの充実を図っておりますが、これらの経費が見えにくい状況となっております。

今後、住民ニーズの多様化、少子化・高齢化等の要因から、ソフト面の支出が増加することが予想され、減価償却費を含めた全体コストを的確に捉えることが必要となります。そこで、当該年度の行政サービスの提供状況を説明する手段として平成13年度より「行政コスト計算書」を作成しています。

### ○作成基準

国の作成基準により作成しています。

- ① 対象とする会計 普通会計を対象としています。
- ② 計上コストの範囲

現金の出納に止まらず、当該年度の住民に提供した行政サービスに要した全てのコスト（現金支出に、減価償却費、不納欠損額、退職給与引当金といった非現金支出を加えたもの）を計上します。

## 2) 行政コスト計算書の分析

### ○コスト計算書詳細

第 34 表 コスト計算書詳細

(単位：千円)

	総額	(構成比率)	議会費	総務費	民生費	衛生費	労働費	農林水産業費
人件費	10,788,798	24.4%	493,635	3,747,572	1,513,950	802,735	7,569	348,507
退職給与引当金繰入等	989,867	2.2%	45,291	343,838	138,904	73,651	694	31,975
人にかかるコスト	11,778,665	26.6%	538,926	4,091,410	1,652,854	876,386	8,263	380,482
物件費	9,137,552	20.7%	44,273	1,540,279	646,360	2,591,656	11,980	37,858
維持補修費	550,186	1.2%		13,792	8,601	14,842	332	19,283
減価償却費	8,049,379	18.2%	18,943	752,095	533,179	684,386	7,832	519,638
物にかかるコスト	17,737,117	40.1%	63,216	2,306,166	1,188,140	3,290,884	20,144	576,779
扶助費	4,615,558	10.4%			4,354,049	134,947		
補助費等	3,308,778	7.5%	25,923	467,921	423,958	1,263,950	11,853	241,919
繰出金	3,596,428	8.1%			2,564,213			
普通建設事業費 (他団体への補助金等)	1,942,919	4.4%		355,711	194,256	741,224		250,682
移転支出的なコスト	13,463,683	30.5%	25,923	823,632	7,536,476	2,140,121	11,853	492,601
公債費(利子分)	872,746	2.0%						
不納欠損額	345,471	0.8%						
その他コスト	1,218,217	2.8%						
<b>行政コスト a</b>	<b>44,197,682</b>		<b>628,065</b>	<b>7,221,208</b>	<b>10,377,470</b>	<b>6,307,391</b>	<b>40,260</b>	<b>1,449,862</b>
構成比率			1.4	16.3	23.5	14.3	0.1	3.3

	商工費	土木費	消防費	教育費	災害復旧費	公債費	諸支出金	不納欠損額
人件費	109,761	687,945	1,599,105	1,478,019				
退職給与引当金繰入等	10,071	63,119	146,717	135,608				
人にかかるコスト	119,832	751,064	1,745,822	1,613,627				
物件費	138,842	607,280	342,841	3,176,183				
維持補修費	3,204	411,586	3,734	74,812				
減価償却費	59,447	3,620,307	368,097	1,485,455				
物にかかるコスト	201,493	4,639,173	714,672	4,736,450				
扶助費				126,562				
補助費等	129,733	16,006	480,562	246,953				
繰出金	83,642	948,413		160				
普通建設事業費 (他団体への補助金等)	4,743	396,303						
移転支出的なコスト	218,118	1,360,722	480,562	373,675				
公債費(利子分)						872,746		
不納欠損額								345,471
その他コスト						872,746		345,471
<b>行政コスト</b>	<b>539,443</b>	<b>6,750,959</b>	<b>2,941,056</b>	<b>6,723,752</b>		<b>872,746</b>		<b>345,471</b>
構成比率	1.2	15.3	6.6	15.2	0.0	2.0	0.0	0.8

#### [収入]

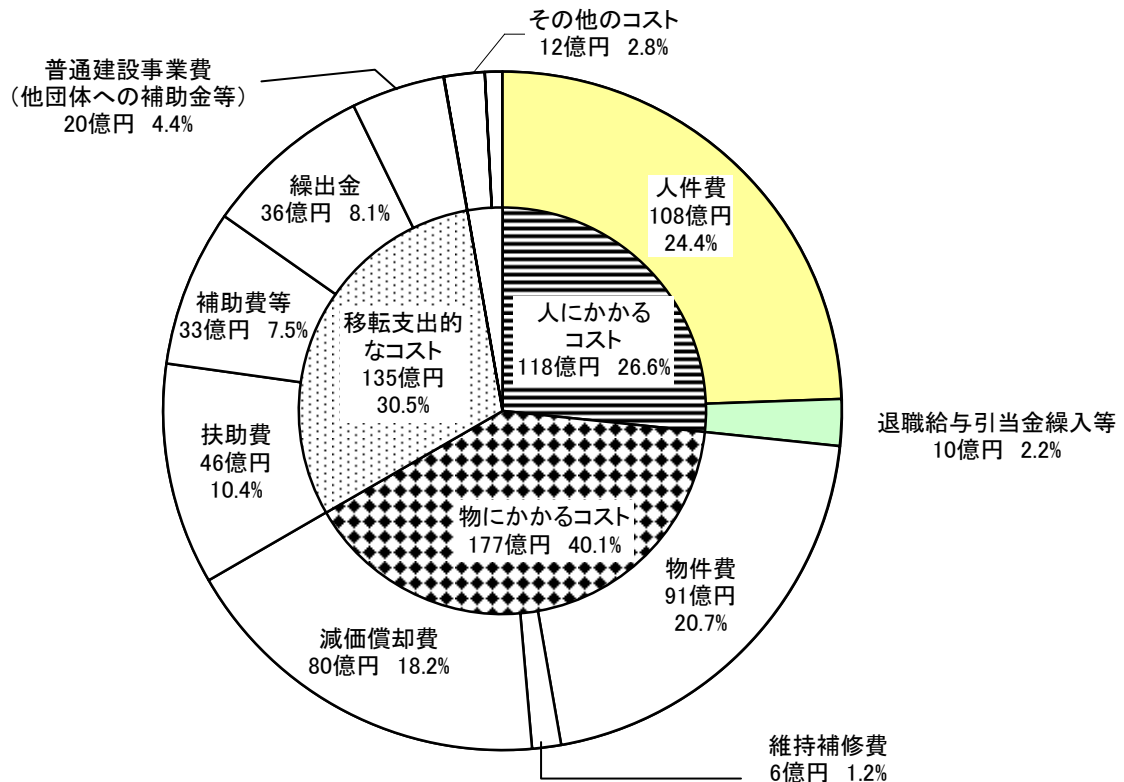
使用料・手数料 b	4,657,630
国庫(県)支出金 c	4,597,286
一般財源等 d	35,827,881
収入(b+c+d) e	45,082,797
正味資産国庫(県)支出金償却額 f	1,163,470
期首一般財源等	143,868,062
差引(e-a+f) 一般財源等増減額	2,048,585
期末一般財源等	145,916,647



## ○費目別コスト内訳

行政コストの総額は 442 億円で、費目別に分類すると第 80 図のとおりです。

第80図 費目別コスト内訳



### 【用語解説】 行政コスト計算書の項目

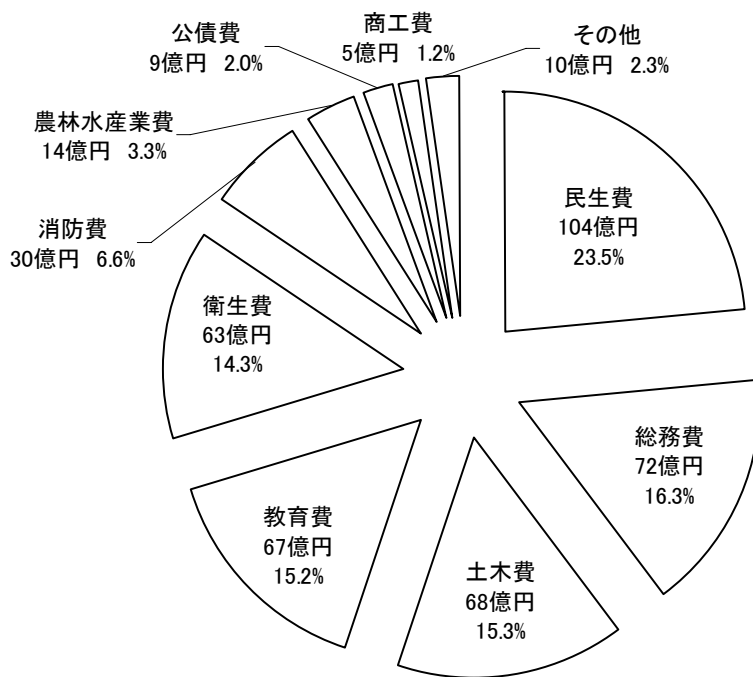
人件費	職員給与、議員、特別職、各種委員会委員及び嘱託職員の報酬や社会保険料などのための経費で、退職手当を除いた額。
退職給与引当金繰入等	この1年間職員が勤務したことにより発生する退職手当の増加分。
物件費	旅費、消耗品や備品の購入、施設の清掃等の管理・運営委託料、土地やコンピュータ機器の使用などのための経費。
維持補修費	施設の維持修繕に要する経費。
減価償却費	年数の経過とともに減少する施設の価値の減少分を経費として計上。
扶助費	生活保護や医療費の援助や各種手当での支給などに要する経費。
補助費等	他団体への運営費補助金や負担金、自動車保険などの保険料、講習会などの講師謝礼などのための経費。
繰出金	国民健康保険事業や下水道事業などの特別会計へ繰り出す経費。
普通建設事業費 (他団体への補助金)	普通建設事業費のうち、国、県、組合や個人が実施する事業に対する負担金や補助金など。(他の団体での資産形成に支出した負担金や補助金)
その他	公債費のうち利子の支払、不納欠損額 (時効などにより徴収できなかった市税や使用料など)

## ○行政目的別コスト内訳

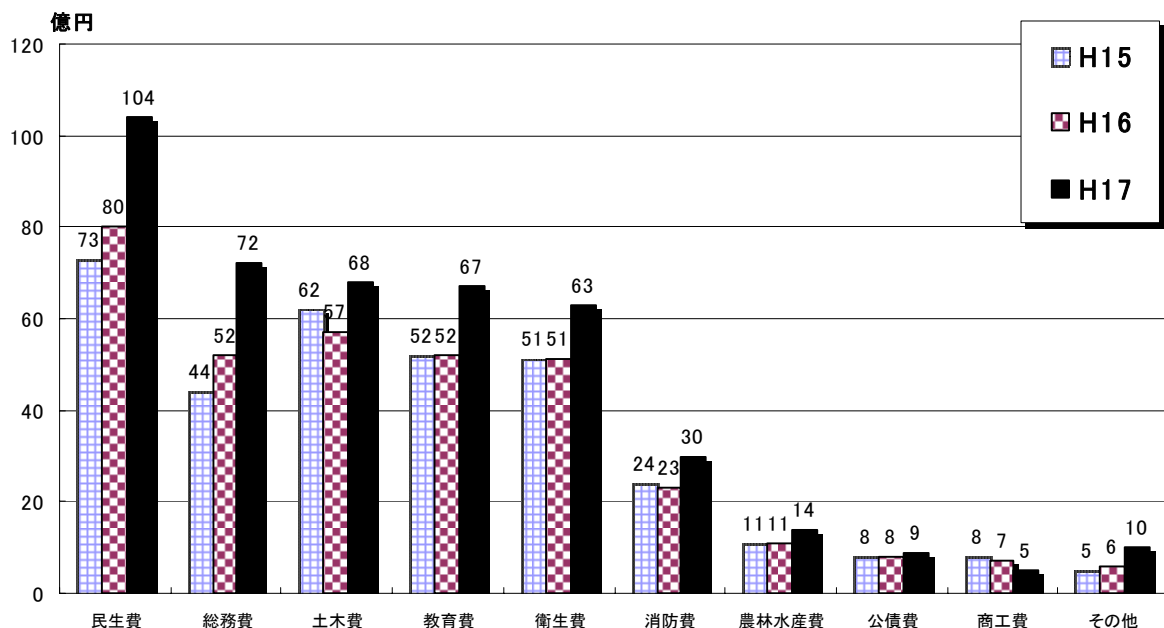
行政コストを行政目的別に見ることで、行政分野ごとに比重を把握することができます。第81図は行政目的別コスト内訳です。

行政コストは、資産形成につながらない給付サービスや人的サービスに消費される経費であり、この割合により行政コストがどの分野に費やされているかが明確になります。成田市では、高齢者や障がい者、児童福祉などにかかる民生費が104億円と一番多くなっています。また、第82図は直近3ヵ年での比較です。合併によりおおむね増加していますが、なかでも昨年との比較で総務費にかかるコストが土木費を抜いて2位になったのが目立ちます。

第81図 行政目的別コスト内訳



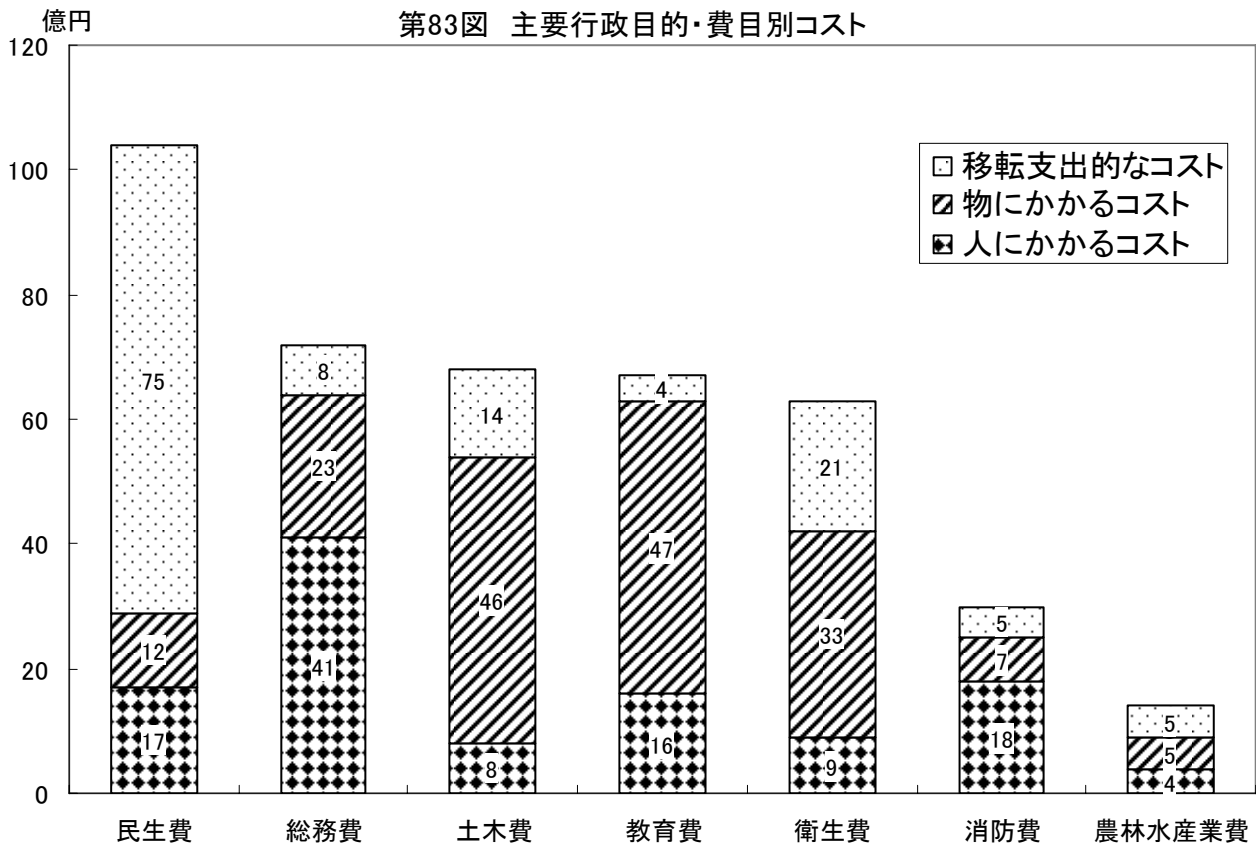
第82図 行政目的別コスト経年変化



## ○行政目的別・費目別コスト内訳

行政目的別にコスト費目ごとの状況を見ることで、行政分野ごとの特徴を把握することができます。第83図は、主要行政目的・費目別コスト内訳です。

民生費では、扶助費などの「移転支出的なコスト」と人件費などの「人にかかるコスト」が多いことがわかります。また、土木費は減価償却費などの「物にかかるコスト」が多く、一方、総務費や消防費は「人にかかるコスト」が大きな比重を占めています。



## ○行政コスト計算書における留意点

この行政コスト計算書は、企業会計基準に基づくものではありません。

国の基準は、昭和44年度以降の決算統計データにより固定資産を推計する手法であるため、個々の資産が特定できません。このため減価償却なども想定上の数値となっています。

なお、住民福祉の増進を目的とし、利益追求の概念を持たず、清算が予定されていない地方公共団体のバランスシートや行政コスト計算書と、民間企業のそれとでは、その意味するところが異なるので、単純に比較ができないことに留意する必要があります。

## 第5章 総合計画と財政見通し

### 第1節 総合計画

#### 1) 総合計画

成田市新総合計画は、まちづくりの基本理念、将来像、施策の大綱等を示した「基本構想」、具体的な施策や事業を示した「基本計画」、施策や事業を実施するための年次計画である実施計画（総合5か年計画'06）からなっています。

本市では、「市民が主役のまちづくり」を基本理念に「空港(そら)、交流(ふれあい)、希望(ゆめ) 創造都市成田」の実現をテーマとし、新たな時代における新生成田市のさらなる発展と市民一人ひとりの幸せを目指すまちづくりを推進します。

基本構想	平成18年度～27年度
基本計画	平成18年度～27年度
総合5か年計画'06 平成18年度～22年度	次期総合5か年計画 平成23年度～27年度

#### ○総合5か年計画'06

「総合5か年計画'06」は、基本構想・基本計画を具現化するための行財政運営の基本となるものであり、予算編成の指針となっています。第35表は施策の体系です。

第35表 「総合5か年計画'06」の施策の体系

<p><b>1. 世界との交流拠点として市民が誇れる都市をつくる</b></p> <p>①成田に集まり世界とつながる交流基盤を整える</p> <p>②活動しやすく機能的な都市基盤・都市環境を整える</p>	<p><b>2. 市民がいきいき働く活力ある産業を育てる</b></p> <p>①伝統がいきづく国際性豊かな観光地づくりを推進する</p> <p>②創意と工夫により農林水産業の持続的発展を図る</p> <p>③地域特性を活かした商工業の振興を図る</p>
<p><b>3. 市民一人ひとりの健康で生きがいを持った生活をささえる</b></p> <p>①高齢者や障がい者が自立し安心して暮らせる体制をつくる</p> <p>②安心して出産し子育てができる環境をつくる</p> <p>③住みなれた地域で安心して暮らせる福祉環境を整える</p> <p>④市民みんなが健康で長生きできる暮らしを実現する</p>	<p><b>4. 市民が地域文化を愛し、次代を担う心豊かな人材を育む</b></p> <p>①成田の個性を活かした国際交流・地域文化の発展を図る</p> <p>②子どもも大人もともに学び育つ教育を推進する</p> <p>③生涯を通して学びスポーツができる環境づくりを推進する</p>
<p><b>5. 市民が安全、安心、快適に暮らせる生活環境をつくる</b></p> <p>①安全に暮らせる地域社会をつくる</p> <p>②空港と共生し安心して暮らせるまちづくりを推進する</p> <p>③市民が快適に暮らせる身近な生活環境を整える</p>	<p><b>6. 市民と行政が協働する効率的な自治体運営を行う</b></p> <p>①みんなが参加する地域社会をつくる</p> <p>②市民本位の効率的な自治体運営を行う</p>

## ・年度別事業費

「総合5か年計画'06」は、新総合計画の前期の実施計画となります。この計画期間においては、成田国際空港や成田新高速鉄道の整備などが本格化するとともに、国の行政改革と地方分権の進展等、社会経済情勢も極めて流動的であると予想されるため、計画の弾力的な運用を図るものとします。第36表は年度別事業費です。

第36表 年度別事業費

(単位：千円)

区分	年度別 事業費	財源内訳					
		国庫支出金	県支出金	地方債	その他 特定財源	一般財源	
平成 18 年度	事業費	36,405,816	4,133,094	1,144,858	3,824,000	3,858,510	23,445,354
	公債費	4,027,599	0	14,897	0	0	4,012,702
	人件費	10,366,585	27,478	27,997	0	458,575	9,852,535
	計	50,800,000	4,160,572	1,187,752	3,824,000	4,317,085	37,310,591
平成 19 年度	事業費	41,101,447	5,565,668	1,224,225	6,412,200	4,001,470	23,897,884
	公債費	4,224,546	0	12,859	0	0	4,211,687
	人件費	10,174,007	27,478	27,997	0	458,575	9,659,957
	計	55,500,000	5,593,146	1,265,081	6,412,200	4,460,045	37,769,528
平成 20 年度	事業費	42,785,713	5,902,713	1,212,294	6,279,400	3,927,023	25,464,283
	公債費	4,232,256	0	11,158	0	0	4,221,098
	人件費	10,082,031	27,478	27,997	0	458,575	9,567,981
	計	57,100,000	5,930,191	1,251,449	6,279,400	4,385,598	39,253,362
平成 21 年度	事業費	42,515,685	5,501,734	1,176,179	6,539,700	5,050,511	24,247,561
	公債費	4,387,380	0	7,608	0	0	4,379,772
	人件費	9,996,935	27,478	27,997	0	458,575	9,482,885
	計	56,900,000	5,529,212	1,211,784	6,539,700	5,509,086	38,110,218
平成 22 年度	事業費	43,465,798	4,756,078	1,305,704	6,548,300	7,048,704	23,807,012
	公債費	4,337,329	0	6,535	0	0	4,330,794
	人件費	9,896,873	27,478	27,997	0	458,575	9,382,823
	計	57,700,000	4,783,556	1,340,236	6,548,300	7,507,279	37,520,629
合計	事業費	206,274,459	25,859,287	6,063,260	29,603,600	23,886,218	120,862,094
	公債費	21,209,110	0	53,057	0	0	21,156,053
	人件費	50,516,431	137,390	139,985	0	2,292,875	47,946,181
	合計	278,000,000	25,996,677	6,256,302	29,603,600	26,179,093	189,964,328

## 第2節 財政計画

平成18年度を初年度とする、総合5か年計画を基本にして、平成18年度から平成22年度までの5年間の財政計画を策定しました。

本計画は、一般会計について年度別の財政状況を示すことにより、今後の財政運営の指針とするものです。第37表は年次別計画です。

### 1) 年次別計画

第37表 年次別計画

		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	計	
歳	市税	27,562,932	30,175,154	30,470,546	30,033,260	30,325,561	148,567,453	
	地方譲与税	1,442,328	566,150	577,150	589,150	605,365	3,780,143	
	利子割交付金	102,300	102,300	102,300	102,300	102,300	511,500	
	配当割交付金	32,700	32,700	32,700	55,500	55,500	209,100	
	株式等譲渡所得割交付金	8,400	8,400	14,200	14,200	14,200	59,400	
	地方消費税交付金	1,700,000	1,700,000	1,700,000	1,700,000	1,700,000	8,500,000	
	ゴルフ場利用税交付金	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000	1,250,000	
	自動車取得税交付金	366,000	366,000	366,000	366,000	366,000	1,830,000	
	地方特例交付金	560,000	331,010	181,010	31,010	31,010	1,134,040	
	地方交付税	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	1,900,000	9,500,000	
	交通安全対策特別交付金	24,600	24,600	24,600	24,600	24,600	123,000	
	入	国庫支出金	4,160,572	5,593,146	5,930,191	5,529,212	4,783,556	25,996,677
		県支出金	1,187,752	1,265,081	1,251,449	1,211,784	1,340,236	6,256,302
		市債	3,824,000	6,412,200	6,279,400	6,539,700	6,548,300	29,603,600
その他特定財源		4,317,085	4,460,045	4,385,598	5,509,086	7,507,279	26,179,093	
その他一般財源		3,361,331	2,313,214	3,634,856	3,044,198	2,146,093	14,499,692	
計		50,800,000	55,500,000	57,100,000	56,900,000	57,700,000	278,000,000	

		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	計
歳	議会費	80,276	68,876	68,807	68,807	60,625	347,391
	総務費	18,007,477	22,529,001	21,181,698	18,616,726	15,637,332	95,972,234
	(うち人件費)	10,366,585	10,174,007	10,082,031	9,996,935	9,896,873	50,516,431
	民生費	8,617,646	8,537,241	8,609,979	8,772,901	8,901,871	43,439,638
	衛生費	4,512,454	5,019,735	6,307,351	8,809,284	11,231,117	35,879,941
	労働費	26,101	26,101	26,101	26,101	26,101	130,505
	農林水産業費	1,060,456	1,130,270	1,111,400	1,021,402	954,788	5,278,316
	商工費	1,317,611	1,358,345	1,327,543	1,324,831	1,325,125	6,653,455
	土木費	6,084,833	6,416,859	7,277,410	6,999,806	8,730,456	35,509,364
	消防費	682,558	1,195,484	761,356	722,787	595,208	3,957,393
	教育費	6,280,958	4,929,877	6,148,622	6,088,004	5,864,101	29,311,562
	災害復旧費	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	10,000
	公債費	4,027,599	4,224,546	4,232,256	4,387,380	4,337,329	21,209,110
	諸支出費	31	31	31	31	31	155
	予備費	100,000	61,634	45,446	59,940	33,916	300,936
	計	50,800,000	55,500,000	57,100,000	56,900,000	57,700,000	278,000,000

本計画は、次のように推計しました。

地方譲与税のうち、所得譲与税は平成18年度で廃止、地方特例交付金（児童手当特例交付金を除く）は、平成20年度で廃止を前提としました。

国・県支出金、市債は、現行の制度を前提としました。

地方交付税は、現行の交付税制度を基に推計しました。

人件費は、職員数を減員し、定期昇給を見込まないで推計しました。

公債費は、現行の償還年数、利率を適用して推計しました。

## 2) 税収見込み

第 38 表 税収見込み

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	計
個人市民税	6,101,844	7,495,132	7,604,137	7,663,335	7,684,910	36,549,358
法人市民税	4,031,032	4,110,494	4,208,922	4,233,092	4,344,914	20,928,454
固定資産税	15,923,738	17,060,085	17,145,659	16,632,858	16,785,710	83,548,050
軽自動車税	146,919	152,441	158,033	163,575	169,226	790,194
都市計画税	186,575	188,772	189,721	181,650	183,706	930,424
特別土地保有税	25,507	20,913	16,757	11,433	9,778	84,388
地方たばこ税	1,146,836	1,146,836	1,146,836	1,146,836	1,146,836	5,734,180
鉱産税	480	480	480	480	480	2,400
入湯税	1	1	1	1	1	5
計	27,562,932	30,175,154	30,470,546	30,033,230	30,325,561	148,567,453

市税の見込みについては、国の三位一体の改革による税源移譲を考慮し、総合5か年計画で示した人口増等を加味し推計しました。第38表は財政計画に基づく税収見込みです。

## 3) 財政指標及び主要基金等の状況

第 39 表 財政指標及び主要基金等の状況

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
経常収支比率	81.1%	81.3%	81.9%	82.9%	83.2%
公債費負担比率	10.8%	11.2%	10.8%	11.5%	11.5%
財政調整基金	5,272,053	5,747,949	4,614,025	4,022,968	4,241,599
減債基金	761,988	762,075	437,466	90,508	70,988
市債残高	41,064,757	43,252,411	45,299,555	47,451,875	49,662,846

経常収支比率と公債費負担比率は、平成18年度予算で試算したものから推計しました。減債基金は、利子以外の積立を考慮していません。第39表は財政指標及び主要基金等の状況です。

## 4) 今後の財政運営

我が国の景気が緩やかに回復に向かう中、国の税源移譲による税制改革も伴ない、市財政の基幹である市税収入の伸びが見込まれますが、三位一体の改革による地方分権が進められ、国庫負担補助金の縮減や地方交付税の削減が行われ、市は今まで以上に自立的かつ計画的な財政運営が求められています。

成田市の財政は、財政力指数では全国上位に位置し、また、経常収支比率や公債費負担比率等の各種財政指標においても、常に健全性を保っております。

そのような中、平成18年度を初年度とする総合5か年計画では、成田新高速鉄道関連事業、新清掃工場及び附帯施設建設事業、JR成田駅前再開発事業等の大規模事業や1市2町の合併に伴う新市建設事業、空港関連対策事業等で、その総事業費は2,780億円になり、今後の財政運営は、引き続き厳しい状況にあると言えます。

このような状況にあっても、少子高齢化社会への対応、市民の生活環境の推進、都市基盤の整備等の市民サービスの向上を目指しながら、市の財政の健全性を維持していかねばなりません。そのため市では、歳入の確保、補助金の見直し、使用料・手数料等の受益者負担の見直し、民間委託の推進、職員定数の適正化、給与の適正化等の行財政改革を行う第5次行政改革推進計画及び集中改革プランを策定し、それらに基づき、引き続き財政の健全性を図ってまいります。

平成17年度						コード番号	122114	市町村類型	Ⅲ～3		
決 算 状 況						市町村名	成 田 市	交付税種地区	I-4		
人 口		面 積	人口密度	人口集中地区人口		産 業 構 造					
国勢調査	17年	121,150 人	211.88 km <sup>2</sup>	571.8 人	17年国調	60,715 人	就 業 人 口	区 分	第1次	第2次	第3次
	12年	116,898 人			人			人	人		
	増減率	3.6 %			人			人	人		
住民基本台帳	18.3.31	120,534 人	40.4.1以降の合併等の状況				17年国調	12年国調	%	%	%
	17.3.31	119,127 人	平成18年3月27日 下総町・大栄町 編入						4,032 人	10,553 人	45,588 人
	増減率	1.2 %							6.6 %	17.2 %	74.3 %
区 分		平成17年度	平成16年度	増減額	増減率	区 分		財 政 指 標 等			
1. 歳 入 総 額		56,200,544	51,732,508	4,468,036	8.6 %	財 政 力 指 数		1.381			
2. 歳 出 総 額		53,739,462	49,676,871	4,062,591	8.2	実 質 収 支 比 率		5.5 %			
3. 差 引		2,461,082	2,055,637	405,445	19.7	経 常 収 支 比 率		74.9 %			
4. 翌年度へ繰越すべき財源		727,379	480,545	246,834	51.4	公 債 費 比 率		9.8 %			
5. 実 質 収 支		1,733,703	1,575,092	158,611	10.1	債務負担行為を含む比率		9.8 %			
6. 単 年 度 収 支		158,611	△319,902	478,513	149.6	公 債 費 負 担 比 率		9.1 %			
7. 積 立 金		2,389,526	36,531	2,352,995	6,441.1	起 債 制 限 比 率		8.4 %			
8. 繰 上 償 還 金		0	0	0	-	実 質 公 債 費 比 率		9.4 %			
9. 積立金取り崩し額		948,644	171,834	776,810	452.1	債務負担行為比率		6.9 %			
10. 実質単年度収支		1,599,493	△455,205	2,054,698	451.4	積立金現在高		10,440,636			
						うち財政調整基金		5,871,410			
基準財政需要額			16,556,929			地方債現在高		41,268,356			
基準財政収入額			22,508,053			債務負担行為支出予定額		818,206			
標準財政規模			31,250,288			将来債務比率		134.7 %			
公 営 事 業 会 計 等 の 状 況	会 計 名	種 別	歳 入 (総収益)	歳 出 (総費用)	実質収支 (純損益)	普通会計からの繰入額	組 合 名	負 担 金 (繰出金)	うち投資的経費充当額又は基準内繰出金		
	水道事業	企適	1,810,764	1,556,742	254,022	75,978	千葉県市町村総合事務組合	20,891	-		
	簡易水道事業	企適	177,666	183,034	△5,368	82,603	印旛郡市広域市町村圏事務組合	32,094	-		
	市場事業	企非	249,769	238,208	11,561	83,642	印旛利根川水防事務組合	1,268	-		
	公共下水道事業	企非	2,338,007	2,272,096	65,911	794,810	千葉県自治センター	2,159	-		
	農業集落排水事業	企非	635,975	631,564	4,411	153,523	北総西部衛生組合	391,212	932		
	国民健康保険事業	事	9,273,675	8,691,396	582,279	1,213,243	香取広域市町村圏事務組合	92,653	11,351		
	国民健康保険事業(直診)	事	135,839	123,956	11,883	-	佐原市外五町消防組合	419,918	9,726		
	老人保健事業	事	6,770,722	6,391,701	379,021	724,669					
	介護保険事業	事	3,697,112	3,493,853	203,259	626,300					
	地域指定等の状況		特 別 職 等				一 般 職 員 等				
広 域 ○ 近郊整備 ○ 公害防止 ○ 低 工 山村振興 過疎地域 農 工 リゾート 半島振興		給与等の状況	区 分	改定実施年月日	1人当たり平均給料(報酬)月額 円	区 分	職 員 数	1人当たりの支給月額			
			市 町 村 長	H6.4.1	930,000	一 般 職 員	1,147	351,698 円			
			助 役	H10.4.1	800,000	うち技能労務職員	64	283,109			
			収 入 役	H10.4.1	750,000	うち消防職員	227	353,780			
			教 育 長	H10.4.1	740,000	教育公務員	21	409,143			
			議 会 議 長	H10.4.1	530,000	臨 時 職 員					
			副 議 長	H10.4.1	490,000						
			議 会 議 員	H10.4.1	470,000	合 計	1,168	352,731			



番号		10		市町村名		成 田 市		類 型		Ⅲ～3		(単位:千円)				
歳 入					性 質 別 歳 出											
区 分	決算額	構成比	増減率	経常一般財源	区 分	決算額	構成比	増減率	一般財源等	経常経費充当一般財源	経常収支比率					
地方税	29,612,710	52.7%	11.7%	29,418,014	人件費	10,788,798	20.1%	0.0%	10,315,278	10,251,835	28.5%					
地方譲与税	1,004,362	1.8	26.1	1,004,362	うち職員給	7,844,496	14.6	△ 0.5	7,413,296							
利子割交付金	73,534	0.1	△ 32.2	73,534	扶助費	4,615,558	8.6	4.3	1,693,202	1,662,970	4.6					
配当割交付金	45,439	0.1	74.5	45,439	公債費	3,875,129	7.2	△ 10.2	3,858,731	3,858,731	10.7					
株式等譲渡所得割交付金	76,071	0.1	145.1	76,071	元利償還金	3,874,119	7.2	△ 10.2	3,857,721	3,857,721	10.7					
地方消費税交付金	1,658,931	2.9	△ 7.0	1,658,931	一時借入金利子	1,010	0.0	14328.6	1,010	1,010	0.0					
ゴルフ場利用税交付金	245,899	0.4	△ 7.7	245,899	義務的経費小計	19,279,485	35.9	△ 1.3	15,867,211	15,773,536	43.8					
特別消費税交付金					物件費	9,137,662	17.0	6.1	6,967,255	6,173,681	17.2					
自動車取得税交付金	380,950	0.7	0.7	380,950	維持補修費	550,186	1.0	2.9	520,328	520,328	1.4					
軽油引取税交付金					補助費等	3,308,778	6.2	△ 1.2	3,151,985	2,432,323	6.8					
地方特例交付金	669,495	1.2	0.8	669,495	經常的貸付金等											
地方交付税	2,214,241	3.9	2.4	1,582,558	經常的繰出金	2,145,767	4.0	11.4	2,023,730	2,023,730	5.6					
内訳					經常的経費小計	34,421,878	64.1	1.4	28,530,509	26,923,598	74.9					
普通	1,582,558	2.8	0.5													
特別	631,683	1.1	7.5													
一般財源計	35,981,632	63.9	10.0	35,155,253												
交通安全特別交付金	29,143	0.1	1.1	29,143								経常経費充当一般財源				
分担金・負担金	402,531	0.7	△ 11.0	0	積立金	2,970,231	5.5	1076.5	2,507,796			26,923,598				
使用料	803,795	1.4	4.4	62,026	投資・出資・貸付金(經常的なものを除く)	1,445,623	2.7	25.1	83,089							
手数料	548,592	1.0	△ 2.7	0	繰出金(經常的なものを除く)	1,450,661	2.7	2.7	1,409,444			投資的経費充当可能一般財源				
国庫支出金	4,196,516	7.5	12.3		前年度繰上充用金							7,724,867				
国有提供施設等交付金																
県支出金	1,357,739	2.4	4.9		投資的経費	13,451,069	25.0	4.3	7,539,161			" (除、債務負担行為)				
財産収入	441,251	0.8	208.9	45,954	うち人件費	511,927	1.0	△ 3.5	511,927			7,166,890				
寄附金	33,370	0.1	41.5		普通建設事業費	13,451,069	25.0	4.4	7,539,161							
繰入金	2,883,224	5.1	139.2		内訳							経常一般財源				
繰越金	2,055,637	3.7	△ 21.0		補助	2,480,615	4.6	110.1	353,174			35,293,137				
諸収入	3,446,014	6.1	△ 2.3	761	単独	10,970,454	20.4	△ 6.3	7,185,987							
地方債	4,021,100	7.2	△ 13.8		災害復旧事業費							一般財源等総額				
うち減税補てん債	267,700	0.5	△ 40.6		失業対策事業費							42,531,081				
うち臨時財政対策債	373,000	0.7	△ 22.7													
合計	56,200,544	100.0	8.6	35,293,137	合計	53,739,462	100.0	8.2	40,069,999							
市 町 村 税					目 的 別 歳 出								公共施設の整備状況			
区 分	決算額	構成比	増減率	超過課税分 収入落額	区 分	決算額	構成比	増減率	一般財源等							
市町村 民税	個人分	5,752,190	19.4%	4.5%	0	議会費	563,831	1.0%	0.3%	560,633	道路舗装率	94.9%				
	法人分	5,464,742	18.4	115.0	668,056	総務費	9,333,672	17.4	32.6	7,813,811	道路改良率	66.7%				
固定資産税	16,867,734	57.0	△ 0.2	0	民生費	9,906,522	18.4	9.1	6,118,919	上下水道普及率	73.3%					
軽自動車税	139,774	0.5	4.5	0	衛生費	6,190,923	11.5	△ 3.0	5,133,768	下水道普及率(人口)	69.1%					
市町村たばこ税	1,170,068	3.9	△ 2.1		労働費	31,734	0.1	△ 16.0	31,478	し尿収集率	9.4%					
鉱産税	463	0.0	△ 0.6	0	農林水産業費	1,378,143	2.6	△ 5.6	1,276,372	し尿衛生処理率	95.6%					
特別土地保有税	23,043	0.1	△ 16.4		商工費	1,534,323	2.8	△ 9.3	487,415	ごみ収集率	100.0%					
法定普通税小計	29,418,014	99.3	11.8		土木費	8,638,090	16.1	7.1	6,537,331	ごみ焼却処理率	84.3%					
法定外普通税・旧法税					消防費	2,675,983	5.0	△ 4.8	2,494,844	保育所収容率	97.2%					
目的税	194,696	0.7	0.9	0	教育費	9,611,112	17.9	17.0	5,756,697	幼稚園収容率	63.5%					
内訳					災害復旧費					小学校非木造比率	98.8%					
入湯税					公債費	3,875,129	7.2	△ 10.2	3,858,731	中学校非木造比率	99.3%					
事業所税					諸支出金											
都市計画税	194,696	0.7	0.9		前年度繰上充用金											
水利地益税等					合計	53,739,462	100.0	8.2	40,069,999							
合計	29,612,710	100.0	11.7													
徴収率	区 分	現年課税分	滞納繰越分	合計												
	市町村税	98.5%	9.8%	88.6%												
	市町村民税	98.6	14.2	93.9												
	固定資産税	98.4	14.1	90.5												

平成16年度										番号	11							
決 算 状 況										コード番号	122114	市町村類型	Ⅲ～3					
										市町村名	成 田 市	交付税種地区	I-4					
国勢調査	12年	95,704	131.27	km <sup>2</sup>	人口密度	729.1	人	12年国調	60,715	人口集中地区人口	人	産 業 構 造						
	7年	91,470						7年国調	58,979			区 分	第1次	第2次	第3次			
	増減率	4.6%										12年国調	1,746人	7,955人	39,492人			
住民基本台帳	17.3.31	98,708	40.4.1以降の合併等の状況				就業人口	7年国調	2,104人	8,035人	37,423人	12年国調	3.5%	15.8%	78.7%			
	16.3.31	97,740																
	増減率	1.0%																
区 分		平成16年度	平成15年度	増減額	増減率	区 分		財 政 指 標 等										
1. 歳入総額		43,817,557	43,611,946	205,611	0.5%	財政力指数		1.635										
2. 歳出総額		42,342,726	41,634,295	708,431	1.7	実質収支比率		4.1%										
3. 差引		1,474,831	1,977,651	△502,820	△25.4	経常収支比率		78.3%										
4. 翌年度へ繰越すべき財源		370,332	505,113	△134,781	△26.7	公債費比率		11.0%										
5. 実質収支		1,104,499	1,472,538	△368,039	△25.0	債務負担行為を含む比率		11.0%										
6. 単年度収支		△368,039	△325,329	△42,710	13.1	公債費負担比率		11.0%										
7. 積立金		36,277	45	36,232	80,515.6	起債制限比率		8.3%										
8. 繰上償還金		0	0	0	—	債務負担行為比率		5.6%										
9. 積立金取り崩し額		113,834	0	0	—	積立金現在高		7,454,353										
10. 実質単年度収支		△445,596	△325,284	△120,312	37.0	うち財政調整基金		2,732,819										
基準財政需要額				12,409,918				地方債現在高		34,015,961								
基準財政収入額				20,531,132				債務負担行為支出予定額		2,680,508								
標準財政規模				27,220,957				将来債務比率		134.8%								
公営事業会計等の状況	会計名	種別	歳入(総収益)	歳出(総費用)	実質収支(純損益)	普通会計からの繰入額	組合名	負担金(繰出金)	うち投資的経費充当額又は基準内繰出金									
	水道事業	企適	1,795,106	1,531,578	263,528	—	千葉県市町村総合事務組合	20,600	—									
	市場事業	企非	420,166	402,719	17,447	266,615	印旛郡市広域市町村圏事務組合	33,025	3,415									
	公共下水道事業	企非	2,469,664	2,412,951	56,713	746,005	印旛利根川水防事務組合	1,268	—									
	国民健康保険事業	事	6,384,751	6,283,111	101,640	830,191	千葉県自治センター	1,651	—									
	老人保健事業	事	4,828,509	4,749,642	78,867	457,359												
	介護保険事業	事	2,756,257	2,670,454	85,803	470,583												
地域指定等の状況		特 別 職 等				一 般 職 員 等												
広 域 ○ 近郊整備 ○ 公害防止 ○ 低 工 山村振興 過疎地域 農 工 リゾート 半島振興		給与等の状況	区 分	改定実施年月日	1人当たり平均給料(報酬)月額 円	区 分	職員数	1人当たりの支給月額										
			市 町 村 長	H6.4.1	930,000	一 般 職 員	902	364,488 円										
			助 役	H10.4.1	800,000	うち技能労務職員	46	291,435										
			収 入 役	H10.4.1	750,000	うち消防職員	169	379,450										
			教 育 長	H10.4.1	740,000	教育公務員	10	411,000										
			議 会 議 長	H10.4.1	530,000	臨時職員												
			副 議 長	H10.4.1	490,000													
			議 会 議 員	H10.4.1	470,000	合 計	912	364,998										

番号		11		市町村名		成 田 市		類型		Ⅲ～3		(単位:千円)				
歳 入					性 質 別 歳 出											
区 分	決算額	構成比	増減率	経常一般財源	区 分	決算額	構成比	増減率	一般財源等	経常経費充当一般財源	経常比率					
地方税	24,211,311	55.3%	△ 1.4%	24,018,420	人件費	8,901,884	21.0%	0.2%	8,471,123	8,453,341	30.3%					
地方譲与税	610,240	1.4	45.4	610,240	うち職員給	6,629,494	15.7	△ 0.7	6,248,650							
利子割交付金	95,897	0.2	△ 4.1	95,897	扶助費	4,101,328	9.7	8.7	1,589,348	1,573,286	5.6					
配当割交付金	23,032	0.1	皆増	23,032	公債費	3,656,118	8.6	16.3	3,645,379	3,645,379	13.1					
株式等譲渡所得割交付金	27,462	0.1	皆増	27,462	元利償還金	3,656,115	8.6	16.3	3,645,376	3,645,376	13.1					
地方消費税交付金	1,573,900	3.6	11.6	1,573,900	一時借入金利子	3	0.0	200.0	3	3	0.0					
ゴルフ場利用税交付金	193,929	0.4	0.7	193,929	義務的経費小計	16,659,330	39.3	5.5	13,705,850	13,672,006	49.0					
特別消費税交付金					物件費	7,522,251	17.8	1.0	5,645,008	4,809,089	17.2					
自動車取得税交付金	275,468	0.6	△ 6.5	275,468	維持補修費	491,183	1.2	0.5	472,065	467,535	1.7					
軽油引取税交付金					補助費等	2,043,830	4.8	8.5	1,923,121	1,435,645	5.1					
地方特例交付金	599,101	1.4	5.7	599,101	経常的貸付金等											
地方交付税	393,151	0.9	△ 12.1	0	経常的繰出金	1,565,170	3.7	15.7	1,475,001	1,475,001	5.3					
内訳					経常的経費小計	28,281,764	66.8	4.9	23,221,045	21,859,276	78.3					
普通																
特別	393,151	0.9	△ 12.1	0												
一般財源計	28,003,491	64.0	0.1	27,417,449												
交通安全特別交付金	24,067	0.1	△ 3.6	24,067								経常経費充当一般財源				
分担金・負担金	363,272	0.8	1.9	0	積立金	239,095	0.6	△ 83.9	235,043			21,859,276				
使用料	669,794	1.5	4.8	55,530	投資・出資・貸付金(経常的なものを除く)	1,148,989	2.7	0.1	37,489							
手数料	532,514	1.2	1.2	0	繰出金(経常的なものを除く)	1,205,599	2.8	13.6	1,180,786			投資的経費充当可能一般財源				
国庫支出金	3,397,283	7.8	1.7		前年度繰上充用金							6,266,357				
国有提供施設等交付金																
県支出金	942,590	2.1	△ 11.2		投資的経費	11,467,279	27.1	4.5	6,992,227			" (除、債務負担行為)				
財産収入	101,820	0.2	△ 57.4	30,614	うち人件費	443,675	1.0	12.6	443,675			5,566,805				
寄附金	23,479	0.1	522.8		普通建設事業費	11,467,279	27.1	4.5	6,992,227							
繰入金	918,490	2.1	44.5		内訳							経常一般財源				
繰越金	1,977,651	4.5	△ 12.0		補助	1,062,062	2.5	△ 20.8	89,224			27,527,929				
諸収入	2,949,506	6.7	8.1	269	単独	10,405,217	24.6	8.0	6,903,003							
地方債	3,913,600	8.9	2.4		災害復旧事業費							一般財源等総額				
うち減税補てん債	400,300	0.9	90.1		失業対策事業費											
うち臨時財政対策債												33,141,421				
合計	43,817,557	100.0	0.5	27,527,929	合計	42,342,726	100.0	1.7	31,666,590							
市 町 村 税					目 的 別 歳 出								公共施設の整備状況			
区 分	決算額	構成比	増減率	超過課税分 収入差額	区 分	決算額	構成比	増減率	一般財源等							
市町村 民税	個人分	4,919,551	20.3%	△ 2.9%	0	議会費	402,991	1.0%	3.9%	402,991	道路舗装率	96.2%				
	法人分	2,353,246	9.7	5.1	214,334	総務費	5,698,674	13.5	△ 6.6	4,787,304	道路改良率	66.9%				
固定資産税		15,574,615	64.4	△ 1.1	0	民生費	7,829,014	18.5	9.8	4,596,069	上下水道普及率	82.9%				
軽自動車税		101,171	0.4	5.1	0	衛生費	5,589,913	13.2	4.5	4,027,206	下水道普及率(人口)	82.6%				
市町村たばこ税		1,043,132	4.3	5.0		労働費	37,720	0.1	△ 1.8	37,467	し尿収集率	8.3%				
鉱産税		466	0.0	4.5	0	農林水産業費	897,677	2.1	△ 5.5	877,858	し尿衛生処理率	100.0%				
特別土地保有税		26,239	0.1	△ 88.7		商工費	1,658,406	3.9	△ 1.5	622,303	ごみ収集率	100.0%				
法定普通税小計		24,018,420	99.2	△ 1.4	214,334	土木費	7,051,565	16.6	△ 17.7	6,003,388	ごみ焼却処理率	84.2%				
法定外普通税・旧法税						消防費	2,247,746	5.3	△ 2.9	1,944,439	保育所収容率	107.5%				
目的税		192,891	0.8	1.7	0	教育費	7,272,891	17.2	21.9	4,722,175	幼稚園収容率	—%				
内訳						災害復旧費					小学校非木造比率	98.8%				
入湯税						公債費	3,656,129	8.6	16.3	3,645,390	中学校非木造比率	99.3%				
事業所税						諸支出金										
都市計画税		192,891	0.8	1.7		前年度繰上充用金										
水利地益税等																
合計		24,211,311	100.0	△ 1.4	214,334	合計	42,342,726	100.0	1.7	31,666,590						
徴収率	区 分	現年課税分	滞納繰越分	合計												
	市町村税	98.0%	13.7%	87.2%												
	市町村民税	98.4%	15.7%	92.2%												
	固定資産税	98.5%	22.4%	90.9%												

普通会計決算状況（決算統計）

年度	人口	歳入総額	歳出総額	差引	実質収支
	年度末現在			B-C	
	A (人)	B (千円)	C (千円)	(千円)	(千円)
S44	43,983	1,556,988	1,398,481	158,507	75,210
S45	44,437	2,333,347	2,194,925	138,422	16,625
S46	45,125	3,417,470	3,299,931	117,539	14,467
S47	46,450	4,053,849	3,620,189	433,660	288,776
S48	48,579	4,501,223	3,931,086	570,137	117,520
S49	50,691	6,454,477	6,350,038	104,439	7,088
S50	52,652	5,607,198	5,563,563	43,635	8,250
S51	54,223	6,201,044	5,957,128	243,916	24,989
S52	58,492	12,679,725	12,184,391	495,334	56,092
S53	64,301	11,105,740	10,548,503	557,237	435,326
S54	67,038	13,462,065	12,619,511	842,554	833,555
S55	69,675	15,103,597	14,546,839	556,758	417,968
S56	71,746	17,582,104	17,116,758	465,346	414,035
S57	73,635	17,630,967	16,221,550	1,409,417	860,590
S58	74,474	22,144,619	21,036,433	1,108,186	907,594
S59	75,562	22,462,339	21,177,216	1,285,123	977,732
S60	76,447	22,613,588	21,175,571	1,438,017	1,249,904
S61	77,923	23,886,985	22,008,684	1,878,301	1,495,107
S62	79,505	26,198,895	24,969,432	1,229,463	762,688
S63	82,311	29,432,135	28,239,651	1,192,484	645,676
H 1	84,189	29,069,937	27,762,104	1,307,833	1,006,949
H 2	85,676	32,099,375	30,568,519	1,530,856	1,295,261
H 3	87,316	34,652,931	33,035,960	1,616,971	701,954
H 4	88,864	39,603,283	38,317,133	1,286,150	723,559
H 5	89,748	37,525,722	36,106,232	1,419,490	1,026,134
H 6	89,842	35,162,547	33,694,063	1,468,484	1,030,033
H 7	90,528	37,706,422	36,261,810	1,444,612	1,082,185
H 8	91,192	37,630,702	35,663,667	1,967,035	1,523,475
H 9	92,152	41,577,483	40,065,954	1,511,529	1,119,292
H10	92,789	38,961,623	37,587,586	1,374,037	1,062,781
H11	94,163	42,211,341	40,683,960	1,527,381	927,062
H12	95,011	42,019,815	40,081,607	1,938,208	1,348,246
H13	95,850	45,340,629	43,084,373	2,256,256	1,589,481
H14	97,057	44,509,899	42,261,488	2,248,411	1,797,867
H15	97,740	43,611,946	41,634,295	1,977,651	1,472,538
H16	98,708	43,817,557	42,342,726	1,474,831	1,104,499
H17	120,534	56,200,544	53,739,462	2,461,082	1,733,703

普通会計決算状況（決算統計）

年度	標準財政規模 D (千円)	財政力指数 3力年平均	実質収支 比 率 (%)	経常収支 比 率 (%)	公債費比率		地方債許可 制限比率 (%)	債務負担 行為比率 (%)
					(%)	債務負担行為 を含む比率 (%)		
S44	716,723	0.510	10.5	70.6	6.7			
S45	845,666	0.471	2.0	66.9	7.5			
S46	1,063,721	0.446	1.4	73.4	11.3			
S47	1,269,983	0.485	22.7	80.8	15.3			0.8
S48	1,709,782	0.597	6.9	84.1	15.4			3.2
S49	2,545,659	0.799	0.3	90.8	12.4			3.3
S50	2,821,187	0.950	0.3	91.4	12.8	21.3		21.0
S51	3,174,683	1.041	0.8	85.7	12.7	25.6		12.9
S52	4,088,279	1.068	1.4	81.2	10.3	20.1	10.8	9.7
S53	4,312,244	1.032	10.1	83.9	12.2	23.3	10.4	10.9
S54	5,843,560	1.060	14.3	74.9	10.5	17.8	9.6	12.3
S55	7,521,688	1.094	5.6	74.8	10.1	18.3	9.3	11.1
S56	8,614,127	1.195	4.8	75.7	10.8	19.9	8.8	9.3
S57	9,579,933	1.248	9.0	74.8	11.1	11.2	8.9	0.1
S58	10,047,447	1.256	9.0	71.4	11.6	11.8	9.3	0.1
S59	11,063,458	1.301	8.8	68.3	12.6	12.7	9.9	0.0
S60	13,353,534	1.383	9.4	67.9	11.5	15.0	10.0	4.1
S61	14,398,504	1.475	10.4	71.1	11.4	14.5	10.0	5.4
S62	14,257,222	1.513	5.3	60.9	11.0	23.2	9.5	10.3
S63	15,919,194	1.533	4.1	63.5	11.5	14.6	9.6	4.0
H 1	18,212,925	1.529	5.5	58.7	11.3	13.1	9.6	2.9
H 2	20,210,768	1.555	6.4	58.7	10.6	10.6	9.6	0.5
H 3	21,810,156	1.557	3.2	62.1	10.4	10.4	9.3	0.0
H 4	23,472,235	1.547	3.1	61.3	10.3	10.4	9.0	0.0
H 5	26,145,332	1.588	3.9	60.0	9.2	9.2	8.6	0.0
H 6	27,499,764	1.643	3.7	67.0	9.1	9.1	8.2	0.0
H 7	24,150,411	1.633	4.5	69.7	10.5	10.5	8.3	0.0
H 8	27,691,633	1.617	5.5	66.7	9.3	9.3	8.3	0.0
H 9	28,323,108	1.574	4.0	68.4	9.1	9.1	8.3	0.0
H10	27,628,242	1.591	3.8	73.9	9.2	9.2	7.9	0.0
H11	26,855,243	1.531	3.5	73.4	9.8	9.8	8.0	0.0
H12	27,080,381	1.470	5.0	72.9	9.9	9.9	8.2	2.1
H13	28,008,456	1.469	5.7	71.0	9.8	9.8	8.4	1.8
H14	28,531,973	1.527	6.3	74.0	9.2	9.2	8.2	2.0
H15	26,726,332	1.590	5.5	74.3	9.3	9.3	7.9	6.7
H16	27,220,957	1.635	4.1	78.3	11.0	11.0	8.3	5.6
H17	31,250,288	1.381	5.5	74.9	9.8	9.8	8.4	6.9

普通会計決算状況（決算統計）

年度	積立金現在高		債務残高			債務残高と 標準財政 規模の比較 (H-E)/D
	E (千円)	うち財政調整 基金 (千円)	地方債 現在高 F (千円)	債務負担行為 未払残高 G (千円)	計 (F+G) H (千円)	
S44	57,513	52,436	548,820	5,786	554,606	0.7
S45	61,186	55,623	990,647	146,767	1,137,414	1.3
S46	64,206	55,623	1,525,664	36,375	1,562,039	1.4
S47	12,507	3,574	1,961,153	202,124	2,163,277	1.7
S48	13,007	3,574	2,170,385	1,507,666	3,678,051	2.1
S49	15,057	3,574	2,650,862	2,690,768	5,341,630	2.1
S50	17,269	3,574	2,785,575	3,501,263	6,286,838	2.2
S51	23,303	7,340	3,262,192	3,483,243	6,745,435	2.1
S52	108,982	7,836	5,493,627	3,427,928	8,921,555	2.2
S53	127,475	8,251	6,643,353	2,692,229	9,335,582	2.1
S54	893,332	754,252	7,937,670	1,898,550	9,836,220	1.5
S55	1,477,193	1,290,931	8,903,431	1,015,432	9,918,863	1.1
S56	1,675,503	1,387,668	9,830,312	125,976	9,956,288	1.0
S57	2,103,133	1,471,946	10,730,704	118,551	10,849,255	0.9
S58	3,091,413	2,087,343	13,362,283	105,556	13,467,839	1.0
S59	3,553,807	1,832,703	14,412,027	3,811,360	18,223,387	1.3
S60	4,344,235	1,991,833	15,290,776	4,956,130	20,246,906	1.2
S61	4,467,774	2,105,031	16,013,658	4,177,842	20,191,500	1.1
S62	4,680,024	2,202,257	17,774,052	1,164,047	18,938,099	1.0
S63	3,451,749	2,305,922	20,267,913	590,963	20,858,876	1.1
H 1	3,989,509	2,427,222	19,937,789	105,349	20,043,138	0.9
H 2	6,027,776	3,522,855	19,717,281	63,063	19,780,344	0.7
H 3	6,103,835	2,998,347	20,339,567	55,744	20,395,311	0.7
H 4	6,098,706	2,429,153	21,464,285	1,868,308	23,332,593	0.7
H 5	7,762,153	3,615,879	21,965,337	42,905	22,008,242	0.5
H 6	8,153,156	3,699,357	21,963,440	35,314	21,998,754	0.5
H 7	8,434,722	4,032,623	22,869,349	28,441	22,897,790	0.6
H 8	8,671,272	4,068,607	22,773,430	21,916	22,795,346	0.5
H 9	7,676,106	4,095,053	24,221,714	15,577	24,237,291	0.6
H10	5,298,557	3,511,846	24,307,549	7,263,135	31,570,684	1.0
H11	4,967,579	2,552,714	25,510,943	6,686,922	32,197,865	1.0
H12	4,604,222	2,556,619	26,946,172	4,477,623	31,423,795	1.0
H13	5,272,118	2,810,003	29,864,518	4,154,494	34,019,012	1.0
H14	7,284,185	2,810,331	31,470,049	3,660,190	35,130,239	1.0
H15	8,133,748	2,810,376	32,967,457	2,277,538	35,244,995	1.0
H16	7,454,353	2,732,819	34,015,961	2,680,508	36,696,469	1.1
H17	10,440,636	5,871,410	41,268,356	818,206	42,086,562	1.0

普通会計決算状況（決算統計）

年度	市 税 決 算 額				普 通 建 設 事 業 費		
	合 計	うち 個人市民税	うち 法人市民税	うち 固定資産税	補 助	単 独	合 計
	I (千円)	J (千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	K (千円)
S44	387,142	114,150	41,511	124,468	285,712	321,690	607,402
S45	511,307	188,944	52,439	143,865	359,003	903,832	1,262,835
S46	689,801	240,814	93,185	184,890	361,475	1,563,142	1,924,617
S47	1,043,938	362,184	141,360	343,678	694,931	1,178,572	1,873,503
S48	1,701,147	528,869	146,548	725,832	504,247	984,349	1,488,596
S49	2,663,374	664,302	179,348	1,187,099	962,483	1,904,384	2,866,867
S50	2,761,352	532,978	165,986	1,438,195	728,805	955,104	1,683,909
S51	3,273,549	637,410	254,087	1,651,982	447,483	1,414,820	1,862,303
S52	4,002,341	747,372	271,533	1,930,446	5,047,286	2,377,605	7,424,891
S53	4,505,730	942,102	409,957	2,088,002	1,893,926	2,875,366	4,769,292
S54	6,314,871	1,429,224	725,516	3,072,883	2,088,685	2,901,050	4,989,735
S55	7,440,339	1,806,010	858,908	3,500,180	2,316,548	3,415,448	5,731,996
S56	8,366,123	2,079,315	1,010,817	3,886,753	2,258,292	4,543,324	6,801,616
S57	9,317,732	2,402,768	1,070,722	4,398,011	1,247,248	3,771,552	5,018,800
S58	10,414,780	2,760,909	1,259,221	4,901,813	3,922,883	4,873,086	8,795,969
S59	11,921,050	2,734,817	2,078,844	5,484,388	3,113,250	4,760,885	7,874,135
S60	13,159,049	3,126,560	2,278,404	5,980,227	2,332,645	5,153,336	7,485,981
S61	13,795,753	3,367,101	1,713,464	6,826,389	2,431,371	4,937,703	7,369,074
S62	15,918,146	3,760,864	2,885,068	7,321,512	1,181,132	9,466,791	10,647,923
S63	16,703,274	3,922,860	3,256,537	7,504,520	1,845,849	10,315,887	12,161,736
H 1	18,941,538	4,571,990	4,317,578	8,135,800	1,210,626	8,657,699	9,868,325
H 2	20,224,362	5,345,966	4,408,229	8,528,635	927,419	9,816,719	10,744,138
H 3	20,555,448	5,833,238	2,995,657	9,690,849	780,166	9,589,053	10,369,219
H 4	22,977,731	7,395,417	2,718,450	10,790,384	1,482,235	14,426,805	15,909,040
H 5	25,002,317	6,284,373	2,283,403	14,021,631	1,143,349	10,460,801	11,604,150
H 6	24,063,348	5,409,513	2,279,212	13,859,213	996,717	7,425,772	8,422,489
H 7	23,946,565	5,630,260	2,474,856	13,394,152	2,369,693	9,008,961	11,378,654
H 8	25,772,412	5,567,213	2,852,354	15,454,202	1,338,461	8,332,466	9,670,927
H 9	25,604,884	6,257,528	2,601,323	14,597,102	2,357,154	9,677,140	12,034,294
H10	23,700,308	5,427,391	2,422,854	14,512,915	1,041,003	8,607,616	9,648,619
H11	24,364,996	5,349,867	2,374,245	15,232,069	2,362,353	8,687,363	11,049,716
H12	24,699,010	5,315,832	2,531,315	15,428,615	2,916,632	8,898,966	11,815,598
H13	25,345,787	5,217,932	2,901,523	15,897,318	3,234,105	10,969,144	14,203,249
H14	24,656,841	5,418,753	1,979,582	15,937,236	1,524,731	9,782,303	11,307,034
H15	24,554,617	5,064,226	2,239,081	15,740,544	1,341,512	9,631,429	10,972,941
H16	24,211,311	4,919,551	2,353,246	15,574,615	1,062,062	10,405,217	11,467,279
H17	29,612,710	5,752,190	5,464,742	16,867,734	2,480,615	10,970,454	13,451,069

普通会計決算状況（決算統計）

年度	市民一人当たり					人口千人当たり職員数	
	積立金 E/A(円)	地方債残高 F/A(円)	市税 I/A(円)	市税のうち 個人市民税 J/A(円)	普通建設事業 費 K/A(円)	合計 (人)	うち一般 職員 (人)
S44	1,308	12,478	8,802	2,595	13,810	9.0	7.6
S45	1,377	22,293	11,506	4,252	28,419	10.7	10.7
S46	1,423	33,810	15,286	5,337	42,651	12.1	12.1
S47	269	42,221	22,474	7,797	40,334	13.6	13.6
S48	268	44,677	35,018	10,887	30,643	14.0	13.9
S49	297	52,295	52,541	13,105	56,556	13.6	13.6
S50	328	52,905	52,445	10,123	31,982	13.5	13.4
S51	430	60,163	60,372	11,755	34,345	13.6	13.6
S52	1,863	93,921	68,425	12,777	126,939	13.6	13.6
S53	1,982	103,317	70,072	14,651	74,171	13.2	13.1
S54	13,326	118,406	94,198	21,320	74,431	13.0	12.9
S55	21,201	127,785	106,786	25,920	82,268	13.0	13.0
S56	23,353	137,016	116,608	28,982	94,801	12.6	12.5
S57	28,562	145,728	126,539	32,631	68,158	12.3	12.3
S58	41,510	179,422	139,845	37,072	118,108	12.2	12.2
S59	47,032	190,731	157,765	36,193	104,208	11.9	11.9
S60	56,827	200,018	172,133	40,898	97,924	11.6	11.6
S61	57,336	205,506	177,043	43,211	94,569	11.2	11.2
S62	58,865	223,559	200,216	47,303	133,928	11.0	11.0
S63	41,935	246,236	202,929	47,659	147,754	10.7	10.6
H 1	47,388	236,822	224,988	54,306	117,216	10.4	10.3
H 2	70,355	230,138	236,056	62,397	125,404	10.2	10.1
H 3	69,905	232,942	235,414	66,806	118,755	10.0	10.0
H 4	68,630	241,541	258,572	83,222	179,027	10.1	10.0
H 5	86,488	244,745	278,584	70,022	129,297	10.2	10.1
H 6	90,750	244,467	267,841	60,211	93,748	10.5	10.4
H 7	93,173	252,622	264,521	62,194	125,692	10.6	10.5
H 8	95,088	249,731	282,617	61,049	106,050	10.4	10.3
H 9	83,298	262,845	277,855	67,904	130,592	10.3	10.2
H10	57,103	261,966	255,422	58,492	103,985	10.1	10.0
H11	52,755	270,923	258,753	56,815	117,347	9.9	9.8
H12	48,460	283,611	259,959	55,950	124,360	9.7	9.6
H13	55,004	311,576	264,432	54,439	148,182	9.8	9.7
H14	75,051	324,243	254,045	55,831	116,499	9.6	9.5
H15	83,218	337,298	251,224	51,813	112,267	9.4	9.3
H16	75,519	344,612	245,282	49,839	116,174	9.2	9.1
H17	86,620	342,379	245,679	47,723	111,596	9.7	9.5



	一般会計		国民健康保険(事業勘定)		国民健康保険(施設勘定)		下水道	
	歳入	歳出	歳入	歳出	歳入	歳出	歳入	歳出
S29	142,404,396	141,380,178	10,043,009	9,633,111				
S30	164,223,666	162,723,407	10,650,485	10,645,092				
S31	190,611,633	173,406,105	22,971,398	22,553,950				
S32	238,570,858	210,972,844	26,958,924	26,693,338				
S33	261,925,944	237,508,183	29,681,370	27,692,488				
S34	249,030,577	218,627,570	32,656,950	32,479,729				
S35	262,211,941	245,708,401	34,756,236	34,204,429				
S36	375,291,825	319,087,256	54,915,276	49,617,831				
S37	426,165,375	358,709,460	68,131,454	62,055,116				
S38	497,188,209	419,579,325	77,973,789	74,181,742				
S39	535,761,799	462,195,144	87,066,417	86,387,294				
S40	652,052,581	574,299,283	124,414,117	112,443,358				
S41	733,975,451	653,934,426	130,089,909	117,913,834				
S42	807,872,949	750,263,894	159,923,031	141,536,391				
S43	1,010,799,683	911,607,985	228,272,717	200,256,069				
S44	1,519,724,405	1,361,688,921	286,346,040	243,926,993				
S45	2,305,415,764	2,167,875,974	326,397,449	282,637,693				
S46	4,738,077,041	4,621,862,278	367,484,486	332,260,276				
S47	4,075,982,732	3,642,847,073	440,428,754	418,763,652			112,146,434	111,515,968
S48	4,596,971,394	4,067,855,970	476,957,711	444,378,506			788,874,749	787,954,193
S49	6,171,608,677	6,069,869,133	638,125,248	615,504,264			1,286,471,469	1,281,808,073
S50	5,440,072,366	5,397,134,952	778,660,582	719,207,249			790,557,881	787,799,300
S51	6,007,986,026	5,764,568,747	943,749,464	868,834,734			500,087,461	487,562,661
S52	12,448,931,364	11,955,770,726	1,095,465,421	999,337,926			632,687,210	627,173,195
S53	10,576,524,467	10,020,577,935	1,220,250,634	1,190,299,231			738,084,560	723,070,384
S54	13,105,362,814	12,263,581,426	1,366,290,513	1,343,924,092			954,957,300	937,384,401
S55	14,808,804,586	14,254,502,181	1,569,906,565	1,517,337,499			1,097,910,242	1,081,984,737
S56	17,218,326,156	16,753,852,996	1,765,789,452	1,692,456,484			1,250,343,787	1,235,483,893
S57	17,246,276,082	15,845,194,375	1,814,626,653	1,770,885,539			1,920,991,896	1,829,158,564
S58	21,737,440,812	20,652,575,239	1,775,534,878	1,711,803,321			1,362,208,880	1,327,969,404
S59	22,033,355,964	20,756,765,010	2,046,896,849	1,965,545,157			1,802,702,978	1,679,341,867
S60	22,187,707,687	20,751,130,874	2,254,298,866	2,117,094,254			1,949,254,759	1,801,843,312
S61	23,459,556,306	21,587,126,197	2,403,151,415	2,357,780,444			1,754,186,770	1,708,060,867
S62	25,767,160,559	24,539,860,145	2,413,582,516	2,346,254,222			2,615,549,351	2,487,028,939
S63	29,005,255,964	27,817,342,441	2,548,135,308	2,481,946,060			2,647,738,533	2,412,324,352
H 1	29,069,937,227	27,762,103,955	2,707,049,097	2,630,484,314			3,020,887,890	2,646,840,150
H 2	32,099,375,164	30,568,518,671	2,775,985,620	2,702,461,479			3,191,267,141	2,791,191,100
H 3	34,652,931,735	33,035,959,989	2,829,890,807	2,743,489,244			2,851,277,423	2,710,508,276
H 4	39,603,283,314	38,317,133,569	3,020,121,238	2,921,105,350			2,844,339,411	2,747,709,168
H 5	37,525,722,318	36,106,232,632	3,137,830,185	3,015,908,016			3,298,702,373	3,106,287,311
H 6	35,162,546,577	33,694,062,819	3,379,716,095	3,299,180,224			3,792,927,641	3,695,488,037
H 7	37,706,421,658	36,261,809,402	3,475,108,340	3,383,232,690			3,014,872,422	2,855,239,882
H 8	37,630,701,366	35,663,666,788	3,763,692,761	3,516,550,875			3,166,674,975	3,121,035,473
H 9	41,577,483,613	40,065,953,946	3,863,333,584	3,726,772,174			3,427,503,817	3,379,381,649
H 10	38,961,623,403	37,587,586,763	4,326,569,272	4,145,782,610			3,797,829,112	3,717,689,436
H 11	42,211,340,958	40,683,959,595	4,797,111,247	4,546,203,540			3,464,174,763	3,383,539,350
H 12	42,019,815,039	40,081,606,715	5,212,326,606	4,877,691,407			3,630,647,688	3,534,306,341
H 13	45,340,629,318	43,084,373,508	5,438,599,253	5,178,781,200			3,162,598,146	3,086,487,393
H 14	44,509,898,719	42,261,487,400	5,523,470,096	5,214,947,198			2,561,589,329	2,509,552,779
H 15	43,611,946,488	41,634,295,263	5,922,777,664	5,853,841,592			2,631,940,501	2,575,216,702
H 16	43,989,636,311	42,514,804,966	6,299,380,589	6,197,740,416			2,469,664,283	2,412,950,362
H 17	48,226,113,868	45,765,031,526	7,228,425,504	6,697,110,947	18,458,666	7,610,502	2,338,007,144	2,272,095,277

会計別決算状況

(単位:円)

	公設地方卸売市場		老人保健		介護保険		農業集落排水	
	歳入	歳出	歳入	歳出	歳入	歳出	歳入	歳出
S29								
S30								
S31								
S32								
S33								
S34								
S35								
S36								
S37								
S38								
S39								
S40								
S41								
S42								
S43								
S44								
S45								
S46								
S47								
S48								
S49	82,856,898	75,096,059						
S50	126,360,894	124,684,162						
S51	152,969,279	151,271,914						
S52	156,894,708	154,986,086						
S53	242,934,838	241,925,835						
S54	305,463,277	303,492,157						
S55	266,256,653	263,824,131						
S56	255,945,967	255,150,420						
S57	254,979,460	252,262,579	84,455,100	80,391,968				
S58	255,947,225	246,995,948	1,205,921,132	1,135,162,675				
S59	1,967,238,839	1,961,309,437	1,326,900,777	1,270,488,263				
S60	352,393,561	346,008,803	1,387,033,041	1,351,727,948				
S61	324,073,251	319,423,500	1,508,190,138	1,483,934,844				
S62	379,352,175	364,208,890	1,653,199,683	1,621,191,668				
S63	687,402,483	679,422,567	1,855,385,255	1,803,849,230				
H 1	462,875,732	456,373,396	2,057,138,690	2,048,621,012				
H 2	493,768,613	480,336,454	2,137,536,512	2,092,201,887				
H 3	502,003,920	486,868,749	2,397,473,325	2,385,091,446				
H 4	567,250,493	559,896,911	2,571,368,647	2,570,949,220				
H 5	492,439,543	484,313,040	2,680,374,348	2,665,812,766				
H 6	442,769,408	430,604,950	2,915,064,391	2,903,843,302				
H 7	449,474,001	444,365,422	3,388,939,319	3,238,882,218				
H 8	468,714,336	464,524,581	3,905,234,565	3,745,543,558				
H 9	491,462,403	468,764,339	4,194,840,313	4,001,684,238				
H 10	424,101,431	419,871,647	4,359,139,413	4,239,310,349				
H 11	421,065,703	406,842,628	4,599,226,888	4,488,491,650				
H 12	411,258,106	395,484,222	4,657,742,046	4,400,403,698	1,842,113,821	1,524,860,072		
H 13	399,058,373	392,907,628	4,816,411,195	4,609,560,695	2,312,500,641	2,077,087,824		
H 14	387,740,680	376,648,082	4,901,149,543	4,785,029,955	2,350,080,846	2,233,557,215		
H 15	373,679,452	364,383,353	4,717,960,066	4,685,432,672	2,476,886,582	2,402,227,992		
H 16	420,166,378	402,718,812	4,772,210,064	4,693,343,400	2,651,320,293	2,565,516,737		
H 17	249,768,990	238,207,568	5,124,101,940	4,841,604,391	2,826,911,700	2,683,177,614	8,778,137	4,366,850

会計別決算状況

(単位:円)

	学校給食センター		交通災害共済		と畜場		国保(施設)	
	歳入	歳出	歳入	歳出	歳入	歳出	歳入	歳出
S29							1,289,339	1,183,366
S30							1,366,734	1,363,332
S31							1,476,895	1,473,239
S32							1,431,143	1,423,328
S33					998,825	979,252	1,609,451	1,474,281
S34					1,304,483	1,257,133	1,939,899	1,789,306
S35					1,166,900	1,120,713	1,825,665	1,589,543
S36					1,219,942	1,149,116	292,749	290,369
S37					1,456,839	1,360,857	478,345	477,723
S38					1,350,702	1,324,204	332,204	327,810
S39					1,603,188	1,499,088	414,686	400,677
S40					2,062,910	1,719,314	14,009	14,009
S41	27,321,457	27,313,245			4,175,266	2,405,494		
S42	26,147,132	25,947,905	3,301,048	1,206,198	5,428,452	2,136,678		
S43	82,085,548	81,750,121	6,018,004	3,265,526	6,586,594	4,812,502		
S44	69,990,298	69,518,590	8,647,073	6,346,227	5,110,222	2,899,501		
S45	91,299,695	90,417,743	8,887,042	4,437,421	6,287,831	3,257,428		
S46	100,990,302	99,666,251	12,316,257	10,423,379	9,269,001	3,095,189		
S47	146,592,143	145,461,604	9,098,689	6,651,182	23,298,024	22,478,616		
S48	305,930,339	264,908,158	10,765,461	8,579,385	20,390,168	16,774,382		
S49	400,811,353	398,112,169	12,431,013	10,983,163	21,403,076	16,448,667		
S50	297,073,588	296,375,915	11,613,453	11,335,836	17,122,472	12,809,051		
S51	334,093,084	333,594,159	11,056,220	7,688,853				
S52	397,658,009	395,483,874	14,541,771	10,658,670				
S53	713,784,741	712,494,522	16,175,291	14,510,794				
S54	654,813,719	654,041,168	15,253,537	11,001,251				
S55	586,327,941	583,872,284	16,172,658	14,301,197				
S56	649,179,117	648,305,858	18,449,062	15,606,029				
S57	700,197,778	691,862,995	20,026,057	19,938,405				
S58	743,835,538	720,515,555	18,091,070	17,266,171				
S59	719,346,788	710,815,063	19,634,283	19,475,427				
S60	736,380,765	734,940,785	19,666,777	17,925,948				
S61	748,976,205	743,105,403	19,409,356	17,880,030				
S62	747,999,464	745,837,328	19,908,432	17,563,318				
S63	814,627,929	810,057,048	20,623,493	20,296,803				
H 1			21,498,035	21,156,367				
H 2			24,834,947	24,682,036				
H 3			27,892,446	27,681,147				
H 4			31,228,873	30,235,899				
H 5			34,678,580	33,752,419				
H 6			33,229,612	30,509,918				
H 7			32,414,141	29,018,342				
H 8			32,127,241	27,309,272				
H 9			29,348,834	24,623,872				
H 10			29,704,454	27,754,252				
H 11								
H 12								
H 13								
H 14								
H 15								
H 16								
H 17								

会計別決算状況

(単位:円)

	証紙		農業構造改善		上水道		簡易水道(三里塚)	
	歳入	歳出	歳入	歳出	歳入	歳出	歳入	歳出
S29					6,002,793	5,137,204		
S30					7,611,647	6,415,342		
S31					11,277,847	9,335,174		
S32					12,939,116	9,462,805	5,550,674	5,395,294
S33					33,371,362	32,707,458	1,085,558	737,057
S34					11,824,088	9,977,531	1,214,786	914,090
S35					14,613,120	12,792,193	1,357,236	844,865
S36					22,413,686	20,105,039	1,658,556	1,139,734
S37			8,691,293	8,691,293	17,860,318	14,814,440	1,951,709	1,295,256
S38			40,683,213	40,244,673	19,760,544	17,181,677	2,106,218	1,823,668
S39	2,078,310	2,046,470			21,140,700	19,078,234	1,861,784	1,557,682
S40	2,236,780	2,236,780			21,813,861	19,200,235	1,897,867	1,531,086
S41					26,111,444	22,297,421	1,986,481	1,421,491
S42								
S43								
S44								
S45								
S46								
S47								
S48								
S49								
S50								
S51								
S52								
S53								
S54								
S55								
S56								
S57								
S58								
S59								
S60								
S61								
S62								
S63								
H 1								
H 2								
H 3								
H 4								
H 5								
H 6								
H 7								
H 8								
H 9								
H 10								
H 11								
H 12								
H 13								
H 14								
H 15								
H 16								
H 17								

会計別決算状況

(単位:円)

	簡易水道(宗吾)		水道			
	歳入	歳出	収益の収入	収益の支出	資本の収入	資本の支出
S29						
S30						
S31						
S32						
S33						
S34						
S35						
S36						
S37						
S38	9,819,365	9,640,075				
S39	2,028,510	1,729,325				
S40	2,182,983	1,399,031				
S41	2,909,057	1,537,064				
S42			36,281,071	25,488,832	36,000,000	44,382,690
S43			40,294,519	30,053,506	0	9,610,597
S44			43,481,509	34,105,439	19,899,000	28,969,349
S45			52,658,708	44,988,598	20,418,325	29,974,175
S46			76,871,913	48,857,573	2,330,000	17,733,421
S47			96,707,417	51,731,406	263,715,000	311,708,877
S48			104,133,682	95,385,905	332,091,000	317,275,914
S49			149,355,470	139,397,735	332,540,690	419,098,299
S50			175,657,489	178,140,692	33,016,000	31,477,317
S51			164,352,186	193,117,989	2,401,000	39,441,778
S52			219,759,660	202,568,954	34,244,574	39,625,549
S53			281,445,105	216,489,194	12,135,000	64,463,743
S54			274,790,493	232,670,989	103,440,345	138,395,890
S55			278,188,942	279,922,850	95,048,000	257,017,950
S56			323,798,443	285,471,055	79,806,860	136,217,151
S57			407,159,459	301,825,886	228,523,000	257,062,836
S58			426,608,977	326,641,186	186,168,000	267,850,636
S59			449,615,187	356,675,626	96,936,000	145,963,852
S60			469,131,733	372,490,570	47,226,000	190,180,935
S61			497,443,776	428,942,977	39,490,000	131,133,056
S62			469,026,565	436,601,155	87,184,000	167,907,870
S63			508,506,802	464,797,808	159,417,000	240,349,063
H 1			573,226,641	499,275,138	435,736,140	415,487,564
H 2			657,177,121	555,030,980	327,087,540	344,450,885
H 3			688,826,420	567,684,395	596,707,930	638,222,294
H 4			986,881,910	688,048,803	1,488,751,910	1,708,007,064
H 5			979,770,461	941,455,783	995,905,103	1,174,502,472
H 6			1,141,869,328	1,016,673,174	332,838,269	516,321,760
H 7			1,327,157,162	1,040,721,352	650,998,725	851,342,588
H 8			1,347,548,046	1,054,299,461	910,663,578	1,089,831,023
H 9			1,464,647,996	1,228,680,584	2,549,327,463	3,088,144,363
H 10			1,431,561,777	1,334,035,412	1,214,852,589	2,055,518,559
H 11			1,467,993,515	1,545,305,352	1,448,897,807	1,851,029,956
H 12			1,895,475,883	1,637,277,374	1,572,471,325	1,927,354,739
H 13			1,872,847,304	1,721,613,307	96,036,990	530,999,525
H 14			1,800,403,192	1,633,993,017	119,469,513	559,779,388
H 15			1,892,149,811	1,622,556,775	399,315,802	932,163,102
H 16			1,881,128,972	1,600,352,057	114,245,875	644,146,001
H 17			1,895,479,733	1,616,207,284	166,811,250	852,680,407

会計別決算状況

(単位:円)

	簡易水道(成田市)			
	収益の収入	収益の支出	資本の収入	資本の支出
S29				
S30				
S31				
S32				
S33				
S34				
S35				
S36				
S37				
S38				
S39				
S40				
S41				
S42				
S43				
S44				
S45				
S46				
S47				
S48				
S49				
S50				
S51				
S52				
S53				
S54				
S55				
S56				
S57				
S58				
S59				
S60				
S61				
S62				
S63				
H 1				
H 2				
H 3				
H 4				
H 5				
H 6				
H 7				
H 8				
H 9				
H 10				
H 11				
H 12				
H 13				
H 14				
H 15				
H 16				
H 17	350,094	350,094	210,017	210,017

主なできごと

年度	主 な で き ご と
S29	7ヵ町村が合併して「成田市」誕生、市制祝賀式典挙行、「成田市政だより」創刊、第1回市議会議員選挙
S30	第1回全国花火コンクール大会開催、自動点滅式ネオンアーチ(市内第1号)完成、宗吾駐車場完成
S31	国民健康保険制度全市に施行、成田市都市計画税条例制定、市営と畜場完成
S32	農業委員会一本化され成田市農業委員会発足、三里塚簡易水道給水開始
S33	成田中屋内運動場完成、市庁舎落成並びに市制施行5周年記念式典挙行、高架配水塔(東町)完成
S34	市営火葬場完成、根木名川改修工事着工
S35	初のヘリコプターによるマツクイムシ防除実施、水道料金メーター制導入、第1回灯ろう流し実施
S36	塵芥焼却場完成
S37	成田小第1棟校舎完成(市内初の鉄筋校舎)、成田市農業近代化資金利子補給制度発足、体育指導員制度発足
S38	宗吾地区簡易水道給水開始、し尿処理場完成、不動橋完成、ヘリによる初の水稻病害防除実施
S39	公津公民館オープン、市制施行10周年記念式典挙行、中小企業資金融資制度発足
S40	成田市消防本部及び消防署設置、消防庁舎完成、西中校舎完成、学校給食センター(寺台)完成
S41	(財)成田市開発協会設立、閣議で新東京国際空港が三里塚に決定、成田市心身障害児福祉手当支給制度発足
S42	水道事業が企業会計へ移行、甚兵衛大橋、長豊橋開通、市営東和田駐車場完成、西中屋内運動場完成
S43	東町水道管理所完成、豊住小・三里塚小プール完成、県営印旛沼開発事業完工
S44	下総御料牧場閉場、成田ニュータウン造成事業開始、成田空港事業認定告示、財特法公布
S45	土屋資材置き場に一番列車、市街化区域及び市街化調整区域決定、し尿処理場増設
S46	三里塚消防署開設、大谷津野球場完成、三里塚小・遠山中防音校舎完成、桜川市営住宅完成、宗吾地区簡易水道を統合
S47	成田ニュータウン入居開始、向台小開校、加良部保育所(市内第1号)開設、第1回市民運動会開催
S48	加良部小・中台中開校、松崎保育所・中台野球場テニスコート・老人福祉センター・赤坂消防署・赤荻・西和泉・荒海共同利用施設完成
S49	公設地方卸売市場開設、赤坂公民館オープン、西口区画整理事業認可、国際文化会館完成
S50	橋賀台小学校開校、橋賀台保育所・印旛食肉センター開設、騒音区域を指定告示
S51	房総風土記の丘オープン、いずみ聖地公園第1期工事完成
S52	新山小開校、赤荻保育所開設、成田警察署新庁舎完成、いずみ清掃工場完成
S53	吾妻小・吾妻中開校、中台保育所開設、成田空港開港、消防本部庁舎完成、郷部大橋開通
S54	吾妻保育所開設、中央公民館・保健センターオープン、粗大ごみ処理施設完成

主なできごと

年度	主 な で き ご と
S55	愛光園開設、京成成田駅東口及び成田第一区画整理事業認可、51号成田橋完成
S56	玉造小開校、新山保育所開設、成田郵便局新庁舎完成、成田ニュータウン中央線完成
S57	中台小開校、「コミュニティ成田」創刊、第1回「ミスエアポート&成田」コンテスト開催
S58	久住・橋賀台公民館オープン、飯岡分遣所・中台陸上競技場・中囀護台市営住宅・花崎町駐輪場完成
S59	玉造・豊住公民館オープン、休日夜間診療所開設、中台体育館・図書館完成、ホープ計画策定
S60	神宮寺小・玉造中開校、福祉作業所・成田公民館オープン、国際観光モデル地区の指定
S61	西口広場及び駐輪場オープン、商工会館完成、公津東区画整理事業認可、市役所新庁舎建設着工
S62	在宅老人デイ・サービス事業開始、成田クリーンヒル完成
S63	八生公民館・成田観光館オープン、新庁舎(第1期分)・成田クリーンパーク・印東体育館完成
H 1	新公津・中郷公民館オープン、新庁舎竣工記念式典、市制35周年日の丸セット配布
H 2	平成小開校、勤労会館オープン、西口区画整理事業終了、NCTV開局
H 3	加良部公民館オープン、成田商工会議所発足、成田第1区画整理事業終了
H 4	京成東口地下自由通路・栗山駐輪場・八富成田斎場完成、土屋区画整理事業認可、空港第2ターミナル完成
H 5	本城小開校、久住駅前区画整理事業認可、三里塚消防署空港分署完成、東和田・寺台土地区画整理事業認可
H 6	市制施行40周年記念各種行事開催、成田市土地開発公社設立、中台線完成、東口区画整理事業終了
H 7	新市長に小川国彦氏当選、玉造保育所オープン、市営住宅北囀護台団地完成、遠山公民館完成
H 8	都市計画税・国保税減税、中台多目的球技場完成、成田市HPを開設、戸籍事務コンピュータ化
H 9	成田空港周辺地域共生財団設立、リサイクルプラザ完成、知的障害者通所授産施設完成
H10	(財)成田市農業センター設立、地域振興券交付事業実施、全国門前町サミット・二宮尊徳サミット開催
H11	土屋区画整理事業供用開始、平成児童ホームオープン、坂田ヶ池総合公園一部供用開始
H12	介護保険制度開始、西中学校新校舎完成、土屋房谷津区画整理事業認可
H13	仲町地区架空線地中化事業完成、ワールドカップサッカーキャンプ地誘致(ナイター照明、芝生整備)完成、公津西区画整理事業認可
H14	暫定平行滑走路供用開始、成田新高速鉄道建設主体設立、保健福祉館本館オープン、いずみ清掃工場改修工事完了
H15	新市長に小林攻氏当選、成田市・下総町・大栄町合併協議会設置、囀護台踏切立体交差化完了(なかよしトンネル)、保健福祉館完成
H16	市制施行50周年記念各種行事開催、北羽鳥多目的広場オープン、坂田ヶ池総合公園完成、市民と行政の協働による防犯巡回パトロール開始
H17	成田市・下総町・大栄町の合併により新成田市が誕生、コミュニティバスの運行開始、三里塚コミュニティセンターオープン、公津西区画整理事業供用開始



## 索引

### あ

依存財源	18
一般会計	15
一般財源	69
衛生費	27

### か

介護保険特別会計	15
株式等譲渡所得割交付金	22
簡易水道事業特別会計	15
起債制限比率	70
基準財政収入額	68
基準財政需要額	68
義務的経費	28
教育費	27
行政コスト計算書の項目	96
繰越すべき財源	41
繰出金	29
繰延資産	86
形式収支	41
経常収支比率	69
経常的経費	61
下水道事業特別会計	15
決算統計	39
県税からの交付金	22
減税補てん債	49
公営企業会計	40
恒久的減税	48
航空機燃料譲与税	22
公債費	27, 29
公債費比率	70
公債費負担比率	71
公設地方卸売市場特別会計	15
交通安全対策特別交付金	23
国民健康保険特別会計	15
国庫（県）支出金	22
固定資産	86

固定資産税	20
固定資産税の評価替え	47
固定負債	86
ゴルフ場利用税交付金	23

### さ

財政力指数	68
債務負担行為	71
市債	21
自主財源	18
実質収支	41
実質収支比率	74
自動車重量譲与税	22
自動車取得税交付金	23
市民税	20
償却資産に対する課税の特例	48
消防費	27
正味資産	86
人件費	29
水道事業会計	15
性質別経費	28
総務費	27
その他の経費	28

### た

退職給与引当金	86
地方交付税	23
地方消費税交付金	23
地方譲与税	22
地方道路譲与税	22
地方特例交付金	23
投資的経費	28
投資等	86
特定財源	69
特別会計	15
特別減税	48
土木費	27

## な

農業集落排水事業特別会計 .....	15
--------------------	----

## は

配当割交付金 .....	22
バランスシート .....	86
標準財政規模 .....	71
扶助費 .....	29
普通会計 .....	43
普通建設事業費 .....	29
物件費 .....	29
補助費等 .....	29

## ま

民生費 .....	27
目的別経費 .....	27

## ら

利子割交付金 .....	22
流動資産 .....	86
流動負債 .....	86
老人保健特別会計 .....	15

